

- 務(む・小野) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2998
- 務(む・石黒) → 務(つとむ・石黒いしぐろ、藩士/知事/歌) F2926
- 夢庵(むあん;法諱・如幻) → 如幻(によげん;道号・夢庵、臨濟僧) F3391
- 夢庵(むあん) → 肖柏(しょうはく・牡丹花、連歌) 2202
- 夢庵(むあん;号) → 大我(たいが・絶外、夢庵、浄土僧) B2610
- 夢庵(むあん) → 可大(かだい・栗本、俳人) C1529
- 夢庵(むあん) → 悦水(えつすい・夢庵、僧/俳人) E1310
- 夢庵(むあん;号) → 大我(たいが/だいが;法諱・絶外、浄土僧) B2610
- 夢庵(むあん) → 桂山(けいざん・立野たての、儒者) E1872
- 無庵(むあん) → 元禿(もとたか・益田ますだ、藩家老/財政) C4479
- 無庵(むあん) → 藤七良(とうしちろう・荒井、養鷹家) E3179
- 無庵(むあん) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B1118
- 無庵(むあん) → 親孚(ちかさね・本田ほんだ、藩士/代官) 2890
- 無庵(むあん) → 雲水(うんすい・無庵、狂歌) D1284
- 無庵(むあん) → 幸文(たかふみ・木下、歌人) 2615
- 無庵(むあん) → 在澄(ありずみ・水野みずの/赤川、藩士/歌) L1057
- 無庵(むあん) → 龍観(りょうかん・深淵ふかぶち/畠山、真言僧/歌) M4925
- 無安庵(むあんあん;号) → 豪円(ごうえん;法諱・無安庵、天台僧) H1971
- 無為(むい・谷) → 宗養(そうよう・谷たに、宗牧男/連歌師) 2519
- 無為(むい;号) → 寧山(ねいざん;道号・禅慧ぜんね、臨濟僧) 3454
- 無為(むい・信蓮社;法名) → 円岡(えんけい;法諱、浄土僧) E1362
- 無為(むい・正蓮社) → 学信(がくしん;法諱、浄土僧) K1509
- 無為(むい;号) → 靈仙(れいせん;道号・真寿、黄檗僧) 5148
- 無為(むい・向井) → 元成(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳) E1827
- 4200 無為庵(むいあん;道号・如嘿/如黙にもよく;法諱、俗姓;岡田/服部) 1627-9165 肥前生/1643(17歳)上京、1656臨濟僧:上総浄徳寺住/57(明暦3)岩代会津に庵住/62耶麻郡落合村に無意庵を結ぶ、1664会津若松に学問所稽古堂を建設;堂主となり教育;藩主保科正之の庇護;地租免除、大原幸重・荒井眞庵門;陽明学を修学/藩より陽明学禁止令が出る;1685眞木村へ配流、「扇峯集」「懶拙集」「配所の月」「眞木略記」著
- 無為庵(むいあん) → 樗良(ちよら・三浦、俳人) 2831
- 無為庵(むいあん) → 梅左(ばいさ・松井、俳人) B3625
- 無為室(むいしつ;号) → 衆鑑(しゅうがい;法諱・月皎;字、真宗僧) W2181
- 無為室(むいしつ) → 祐義(すけよし・長治ながはる、庄屋/歌人) D2326
- 無一(むいち) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2167
- 無一(むいち・大久保) → 蔵岳(ぞうがく・大久保おおくぼ、漢学;詩文) G2564
- 無一(むいち・山本) → 極斎(きょくさい・山本やまもと、和算家) O1693
- 無一郎(むいちろう・日夏) → 繁高(しげたか・日夏ひなつ、藩士/兵学者) C2130
- 無逸(むいつ・山本) → 晴海(はるみ・山本、砲術家) G3691
- 無逸(むいつ・伊良子) → 道牛(どうぎゅう・伊良子、外科医) C3172
- 無逸(むいつ・三野) → 藻海(そうかい・三野みの、漢学者/詩文) 2583
- 無為亭(むいてい) → 抛遠(きよえん・清友舎、俳人) H1606
- 無為坊(むいぼう) → 一叟(いつそう・鈴木/飛鳥園4世、俳人) B1157
- 無意楽庵(むいらくあん) → 豆花(とうか、俳人) 3169
- 4201 無隠(むいん;道号/日外;初道号・元晦げんかい;法諱、諡号;法雲普濟禪師) ?-1358 豊前の臨濟僧、1310入元;杭州天目山幻住庵中峰明本の法嗣/1326帰国、筑前多々良頭孝寺住持、筑前聖福寺住持/1348頃京の建仁寺32世/49南禅寺21世、壱岐海印寺・筑前宝覺寺開山、

雪村友梅・中巖円月と親交、1349「略清規」著

- 4220 **無隠**(むいん;道号・法爾ほうに;法諱) ?-? 南北期筑前の臨濟宗聖福寺33世、  
「無隠爾禪師疏」著
- D4244 **無隠**(むいん;道号・徳吾とくご;法諱) ?-1469 室町期尾張の臨濟僧;伝心宗密門/法嗣、  
滅宗宗興(尾張一宮の妙興寺開山)の法孫、滅宗の塔所;尾張中島郡円光寺天瑞塔主、  
妙興寺に瑞芳庵建立/のち住持/山城竜翔寺住持、1453「妙興開山円光大照禪師行状」著  
無隠(むいん;道号・道費)→ 道費(どうひ;法諱・無隠、曹洞僧) H 3 1 0 0  
霧隠(むいん・大喜多) → 蔚(しげる・大喜多おおきた、諸学/教育) T 2 1 1 8  
無隠庵一鋒(むいんあんいつほう)→ 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6  
霧隠軒(むいんけん) → 雪潭(せつたん;道号・紹璞しょうぼく、臨濟僧) L 2 4 2 2
- 4221 **無因齋**(むいんさい・竹内たけうち、名;長孝、久品男) 1758-1828 71 代々越前府中城代本多家の家臣、  
儒;福井藩儒清田儋叟門/1773(16歳)出仕;目附/奉行職/1811致仕、宇津木昆台と親交、  
1826「嘉時吟草」(70賀;長男霞堂の編)、息;霞堂・沖薊齋、  
[無因齋(;致仕後の号)の字/別号]字;子順、別号;積翠、法号;釈無因  
霧雨山人(むうさんじん) → 續齋(せきさい・柳沢やなぎさわ、藩医/詩) K 2 4 0 6
- 4222 **無雲**(むうん;道号・義天ぎてん;法諱、俗姓;賀茂) 1290-1367 78 京の臨濟僧;建仁寺;鏡堂覺円門、  
のち南禅寺蒙山智明・鎌倉円覺寺靈山道隠門/入元、帰国後円覺寺・建仁寺住、  
1346播磨に法雲寺開山/55建仁寺37世/65南禅寺30世/建仁寺光沢庵に没、  
「無雲和尚語録」著、門弟;月堂円心(法嗣)、1355尊氏[経旨和歌]出詠、  
[七宝を沙界にみてるて布施すとも般若一偈の福に及ばじ](経旨和歌;13)  
無影樹下船楼(むえいじゅかせんろう)→ 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2  
夢亦清書屋(むえきせいしよおく)→ 隆彦(たかひこ・李家りのいえ/河内山、侍医/歌) 2 7 2 5  
夢翁(むおう・安陪) → 頼任(よりとう・安陪/安倍あべ、藩士/剣術家) J 4 7 1 1  
夢翁(むおう・一蓬庵) → 了伴(りょうばん・古筆こひつ9世/平沢、鑑定家) J 4 9 3 0  
無何(むか;俳号) → 武蔵(むさし・宮本/新免、武芸者/書画) 4 2 5 5  
無瑕(むか・明智) → 慈岳(じがく・道琛どうちん、黄檗僧) P 2 1 8 1  
夢窩(むか;号) → 竺信(じくしん;法諱・梅峰;道号、曹洞僧) B 2 1 7 3
- 4223 **無我**(むが;道号・省吾しょうご;法諱/のち海信、花園天皇皇子) 1310-81 明で没 72 僧;初め顕密を修学、  
のち臨濟僧;大徳寺の宗峰妙超・竜翔寺の月堂宗規門、1348-57入元;諸寺參禪、  
1357帰国/月堂の法嗣/師没後1363再入元;牛頭山心華堂住、明の洪武帝に授戒;  
無我没後に菩薩号を贈る、「一心妙戒教」著  
無我(むが;法名) → 隆寛(りゅうかん;法諱、浄土僧/多念義祖) D 4 9 2 6  
無懐(むかい) → 丈草(じょうそう・内藤、俳人) 2 2 2 5
- 4224 **無涯**(むがい;道号・仁浩にんこう;法諱) 1294-1359 66 出羽の臨濟僧;鉄庵道生門/1321-45入元、  
1345帰国(石室善玖と)/肥前浄土寺・鎌倉東勝寺住持/1358建仁寺39世、鉄庵に嗣法、  
退隠後は寺内に永源庵創建;没、「無涯仁浩禪師語録」著
- 4225 **無涯**(むがい) ? - ? 江戸中期俳人;1706蘭台「神の留守」歌仙判入
- 4226 **無涯**(むがい・山田やまだ、夜半亭5世) 1793-1864 72 俳人;1825呂蛤没後に夜半亭継承
- 4227 **無涯**(むがい;法諱・深広院;諡号、俗姓;菊池) 1816-83 68 肥後真宗本願寺派僧;寛寧門;宗乗を修学、  
美濃の行照門、伊勢の浄蓮寺住職/1873勸学、1859「往生礼讃三心積聞記」著、  
「大乘起信論義記聴記」著
- 4228 **夢外**(むがい・田中たなか) ? - ? 漢学者;1846「通俗五雜組上編」編、  
1799「水月猴話」訳  
夢外(むがい・津田) → 宋路(そうろ・津田、俳人/夜半亭7世) K 2 5 6 1  
無外(ちくう;号) → 白竜(はくりゅう;法諱、浄土僧/歌人) L 3 6 1 4  
無涯(むがい;字) → 慈航(じこう;法諱/性海、真宗本願寺派僧) T 2 1 3 7  
無涯(むがい・井上/足立) → 長雋(ちようしゆん、足立あだち、産科医) I 2 8 8 6  
無礙(むがい;号) → 古篆(こてん;道号・周印;法諱、臨濟僧) N 1 9 1 2  
無礙(むがい;字) → 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3  
無害(むがい・大島) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5

- 無涯庵(むがいあん) → 蘿父(らふ・神谷、俳人/書) B 4 8 5 0  
無外庵(むがいあん) → 既白(きはく・雲水坊、曹洞僧/俳人) B 1 6 7 0  
無礙庵(むがいあん) → 遜阿(そんあ;法諱、僧侶/俳人) B 2 5 4 3  
六外庵(むがいあん) → 茶雷(ちらい・板東、藩士/俳人) F 2 8 6 2  
無外軒[齋](むがいけん[さい]) → 西武(さいむ・山本、俳人) 2 0 0 7  
無礙居士(むがいこじ) → 忠和(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Q 2 6 1 6  
無外子(むがいし) → 円通(えんつう;法諱、珂月、天台浄土僧) F 1 3 2 4  
夢外仙(むがいせん・大野) → 春彦(はるひこ・大野おの、酒造業/国学) J 3 6 8 5  
無礙堂(むがいえたい;号) → 義燦(義山ざん;法諱・慧曦、真言僧) K 1 6 7 3  
無礙光院(むがいこういん) → 良純親王(りょうじゅんしんのう、以心庵、浄土僧/歌) I 4 9 0 3  
無礙齋(むがいさい) → 守景(もりかげ・久隅くすみ絵師) F 4 4 2 4  
無礙室(むがいしつ;号) → 竺源(じくげん;道号・徳厚;法諱、臨濟僧) Q 2 1 4 0  
無害堂(むがいどう) → 宗仙(そうせん・草間くさま、医者) I 2 5 2 8  
無涯堂(むがいどう) → 蘿父(羅父らふ・神谷、俳人/書) B 4 8 5 0  
無涯堂(むがいどう) → 白翁(はくおう・笠原かさはら、医者/種痘) C 3 6 7 7  
無悔堂主人(むかいどうしゅじん) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
無碍道人(むがいどうしん) → 速満(そくまん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 5 3  
無外坊(むがいぼう) → 燕説(えんせつ・逢春軒、俳人) B 1 3 1 8  
無花果苑(むかかえん) → 由之(よしゆき・山本、良寛弟/国学/歌) K 4 7 3 1  
無覚(むかく・吉田) → 臥龍(がりよう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5  
無学(むがく・宮永) → 嘉告(よしつぐ・宮永みやなが、藩士/郷土史) E 4 7 6 8  
夢鶴(むかく・吉田) → 謙齋(けんさい・吉田、薄洲男/藩士/詩) I 1 8 9 0  
夢鶴(むかく・多々羅) → 西臯(さいこう・多々羅たたら、町人/詩人) G 2 0 6 7
- 4230 **無学**(むがく;道号・宗芻(そうふん);法諱)?-1577 下野都賀郡富田の曹洞僧:大中寺海庵尖智門、その法嗣/越前永平寺で修業/尖智没後に大中寺住持、榎本城主小山高朝の庇護;大中寺を城下に移建、「無学宗芻和尚語録」著
- 4231 **無学**(むがく;道号・絶宗(ぜつしゅう);法諱、俗姓;長井)1709-9587 越後の曹洞僧:華嚴曹海門/法嗣、越後瑞祥寺開山、1744伯耆長栄寺・56羽後蚶満寺・66越前永建寺住持、「無学絶宗禅師語録」著
- 4232 **無学**(むがく;道号・愚禅(ぐぜん);法諱、俗姓;内野)1733-1829長寿97 武蔵吉見郷曹洞僧:興頂寺痴天門、1746(14歳)得度、長門功山寺大暁高釣門;法嗣、1762(宝暦12)武蔵興頂寺に住、1789(寛政元)加賀大乘寺43世、98犀川の泊船庵に退隠/1801(享和元)再度大乘寺住持、武蔵に没、「愚禅和尚語録」「般若心経指針」著、[無学愚禅の号]吾州
- 4233 **無学**(むがく;道号・頓了(とんりょう);法諱)1768-184780 尾張の曹洞僧:一頓慧了門/法嗣、尾張丹羽郡岩倉の大聖寺住持/松屋院を開山、「水月菴語録」著
- 4234 **夢嶽**(むがく・沓掛(くつかけ)、名;吉鄰、田中勝秀男)1803-5452 越後村上藩士、医:杉田立卿(玄白の息)門、蘭学を修学、藩の医学館助教;漢方蘭方に通じ折衷、外科に精通/村上藩初の死刑囚解剖、詩を嗜む、「夢嶽帖」著、[夢嶽(;号)の字/通称/別号]字;元良、通称;周甫、初号;醉雪
- 無学(むがく;道号) → 祖元(そげん;法諱・無学;道号、渡来臨濟僧) 2 5 2 0  
無学(むがく;号) → 太元(たいげん;道号・孜元(じげん)、臨濟僧) J 2 6 8 8  
無学(むがく;字) → 周休(しゅうきゅう;法諱・無学、天台僧/詩) W 2 1 8 9  
無学齋(むがくさい) → 天来(てんらい・岡、藩士/俳人) E 3 0 5 4  
無獲子(むかくし) → 蘭室(らんしつ・脇(わき)脇屋、儒者/詩) 4 8 1 0  
無学道人(むがくどうじん) → 周休(しゅうきゅう;法諱・無学、天台僧/詩) W 2 1 8 9  
夢霞山人(むたさんじん) → 省吾(しょうご・箕作(みつくり)/佐々木、洋学/地理) J 2 2 7 2  
百足こがね(むかでこがね) → こがね(・百足(むかで)、狂歌作者) C 1 9 2 7  
百足山人(むかでさんじん) → 湖東百足山人(ことうむかでさんじん、俳人) N 1 9 2 4  
無可不可(むかふか) → 一哉(いつさい・安部、俳人) H 1 1 2 1

- 無化坊(むかぼう) → 沾山(2世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 2  
 無瑕明智(むかめいち) → 慈岳(じがく;道号・道琛;法諱、渡来黄檗僧) P 2 1 8 1  
 無何有庵(むかゆうあん) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
- 4235 無関(むかん・原田はらだ、名;由就) 1744-1807<sup>64</sup> 尾張名古屋の医者:名古屋藩家老竹越家の医員、  
 鍼術;角田半右衛門門;夢分齋流習得/京で開業医、雄道和尚に参禅、1806「古今腹診論」著、  
 [無関(;号)の通称] 安之進、加藤多門の師  
 無関(むかん・豊田) → 忠知(ただとも・豊田、藩士/茶人) Q 2 6 1 9
- D4236 無岩(むがん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入;1句、  
 [三界に仏と分けて種もなし](二葉之松;127/衆生の世は心一つで仏にも畜生にもなる)
- 4236 無岸(むがん・望海齋) ? - ? 江中期俳人;1754「つぎほの梅」編(;涼袋[綾足]句集)  
 夢巖(むがん;道号・祖応) → 祖応(そおう;法諱・夢巖、臨濟僧) D 2 5 3 7  
 無関采鉄(むかんさいてつ;法名) → 氏長(うじなが・成田、武将/連歌) C 1 2 5 4  
 無間子(むかんし) → 長道(ながみち・村井むらい、藩士/能研究) F 3 2 8 8
- 4237 無己(むき;道号・道聖どうしよう/元聖;法諱、号;牛僧)?-1391 近江の臨濟僧;無極志玄門/法嗣、  
 越前永徳寺・山城景德寺住/1359師無極没;師の塔所の嵯峨慈濟院2世塔主、  
 門弟;別岩本旨(法嗣)、「聚景記」著  
 無己(むき・長沢) → 粹庵(すいあん・長沢ながさわ、藩儒) 2 3 0 0  
 無鬼(むき・市川) → 鶴鳴(かくめい・市川、儒者) B 1 5 7 5  
 無疑庵(むぎあん) → 天地根(あまちね・橙果亭とうかてい、狂歌) F 1 0 0 6  
 無棄齋(むきさい・渡部) → 主税(ちから・渡部わたなべ、好事家/文筆) C 2 8 2 5  
 夢吉(むきち・越智) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7  
 夢橋散人(むきつさんじん) → 正直(まさなお・毛利もうり、藩士/戯作者) F 4 0 0 3  
 麦野大蛇磨(むぎのおろちまる;狂名) → 政美(まさよし・北尾/赤羽、絵師) I 4 0 6 0  
 麦の舎(むぎのや・高島) → 式部(しきぶ・高島たかばたとみ、歌人) B 2 1 5 5  
 麦の舎(むぎのや・高島) → 千畝(ちうね・高島、式部の養子/歌人) M 2 8 7 9  
 麦原笛成(むぎわらのふえなり) → 笛成(ふえなり・麦原/樵歌亭、狂歌) B 3 8 2 0
- D4233 無求(むきゅう、通称;佐渡屋さどや市左衛門)?-? 江中期備後鞆の商家/俳人;談林系、  
 1701舎羅「荒小田」入/06貞義「心ひとつ」/07正興「岩壺集」入
- 4238 無窮(むきゅう・三浦みづら、道元男) 1737-1816<sup>80</sup> 武蔵熊谷の代々医者:江戸の長谷川玄通門、  
 経学;江子園・稲垣維明門、帰郷後医業/詩文に長ず、1780「医筌」94「自得方」編、  
 「医事内言」「無窮詩文集」「汚隆龜鑑」「道德經古義」「みちひき草」「消閑漫録」著、  
 「菓能反正」「隱居放言」著、  
 [無窮(;号)の名/字/別号]名;真、字;伯誠、別号;青谿/青溪/眞伯
- 4239 無休(むきゅう;号・上原うえはら、通称;近江屋又兵衛)?-1806 近江弘川の心学者/心学講舎時習舎都講、  
 近江各地の心学団体と京の本部との連絡役、中沢道二と親交、1787「五穀無尽蔵」著
- 4240 無窮(むきゅう・植木うえき、名;子恵、日清男) 1770-1838<sup>69</sup> 越後柏崎の儒・詩人:寺沢石城・大田錦城門、  
 「妙行唱和」、1816刊「新好齋詩集」著、椒園の義弟、  
 [無窮(;号)の字/通称/別号]字;儀与八/仲寧、通称;三左衛門、別号;椿齋/新好齋  
 無求(むきゅう→むぐ;道号) → 無求(むぐ;道号・周伸;法諱、臨濟僧) 4 2 4 5  
 無求(むきゅう;号) → 要中(ようちゅう;道号・通玄、黄檗僧) B 4 7 4 6  
 無休(むきゅう;字) → 大玄(だいげん;法諱、真宗大谷派説経師) J 2 6 9 1  
 無窮(無究むきゅう・柏木) → 眞海(しんかい・柏木かしわぎ、幕臣/儒者) D 2 2 6 6  
 無咎(无咎むきゅう・生田) → 永貞(ながさだ・生田いくた、儒者/詩歌) D 3 2 6 9  
 無咎(むきゅう・永井) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1  
 無咎(むきゅう・西岡) → 天津(てんしん・西岡にしおか、儒者) D 3 0 8 9
- 4241 無求庵(むきゅうあん;号) ? - ? 幕末期石見美濃郡益田住の風流僧、  
 医師南北に師事;交友、世俗を避け七尾山下堀川の側に住;詩に耽る:「無求庵詩稿」  
 無窮庵(むきゅうあん) → 文彦(ぶんりゅう・石井いひ、俳人) G 3 8 6 9  
 無窮園(むきゅうえん) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9

- 無求居士(むきゅうこじ) → 玄通(げんつう・前田まえた、医者) L 1 8 4 6  
 無咎居士(むきゅうこじ) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1  
 無究山人(むきゅうさんじん) → 眞海(しんかい・柏木かしわぎ、幕臣/儒者) D 2 2 6 6  
 無求子(むきゅうし:号) → 東規(とうき:法諱・以成;道号、臨濟僧) C 3 1 4 7  
 無窮子(むきゅうし) → 環中(かんちゅう;号・禅機、臨濟僧) R 1 5 3 7  
 無疆(むきょう・秦) → 松洲(しょうしゅう・秦はた、藩士/儒者) J 2 2 5 4  
 無境庵(むきょうあん) → 魚貫(なつら・神山かみやま、歌人) G 3 2 7 4  
 無凝滞院(むぎょうたいいん) → 信賢(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌) O 2 2 1 4
- 4242 **無極**(むきよく;道号・慧徹えてつ;法諱、俗姓;藤原) 1350-1430<sup>81</sup> 肥前曹洞僧:  
 1363(14歳)日向東林寺入、無著妙融門;得度/のち相模最乗寺の了庵慧明門;嗣法、  
 1405美濃補陀寺を開山、越前竜泉寺・丹波永沢寺住持/上州松井田の補陀寺開山・  
 武蔵越生の竜穩寺開山、武蔵下小山田に隠棲、「無極禅師語録」著  
 無極(むきよく;道号) → 志玄(しげん;法諱・無極、臨濟僧) D 2 1 4 8  
 無極(むきよく・高橋) → 朶峰(だほう・高橋たかはし、俳人) S 2 6 2 1
- 4243 **無玉**(むぎよく・道楽散人) ? - ? 江中期江戸の洒落本作者;1777「中洲雀」  
 無極庵(むきよくあん) → 眞嗣(眞継まつぐ・大橋おおはし、歌人) J 4 0 7 0  
 無極庵(むきよくあん) → 留倫(りゅうりん・無極庵、俳人) F 4 9 8 7  
 無極庵(むきよく/むごくあん) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3  
 無玉庵(むぎよくあん) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3  
 無極軒(むきよくけん) → 三千風(みちかぜ・大淀おおど、商家/俳人) 4 1 0 3  
 無曲軒(むきよくけん) → 長伯(ちやうはく・有賀あるが、歌人) 2 8 2 5  
 無極子(むきよくし) → 鈍齋(どんさい・小松こまつ、和算家/天文) S 3 1 1 9  
 無極道心者(むきよくどうしんしゃ) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1  
 麦藁雄魯智(むぎわらのおろち;狂名) → 政美(まさよし・北尾/赤羽、絵師) I 4 0 6 0
- 4244 **麦藁笛也**(麦原-むぎわらのふえなり、本名;鈴木光陸)?-1827 江戸浅草金竜山下の商家;扇屋、  
 狂歌作者;本町連/千束側判者、1793「狂歌太郎冠者」編、  
 [麦藁笛也(;号)の通称/別号]通称;扇屋小兵衛、別号;麦原笛成/樵歌亭/一榎庵  
 無琴道人(むきんどうじん) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8
- 4245 **無求**(むぐ;道号・周伸しゅうしん;法諱) 1333-1413<sup>81</sup> 甲斐の臨濟僧;夢窓疎石門;得度/師没後に嗣法、  
 嵯峨景德寺住持・相国寺鹿苑院主/1404臨川寺住持・相国寺12世、1410頃南禅寺66世、  
 1413天竜寺53世、大和立野の信福寺開山/洛中の環中庵に退隱;没、「無求和尚語録」  
 無空々々道人(むくうくうくうどうじん) → 垂穂(たりのほ・石井、藩士/儒/狂歌) N 2 6 5 0  
 無垢月居(むくげつきよ) → 来山(らいざん・巢見すみ、絵師) 4 8 4 7  
 六九蔵(むくぞう・林) → 立守(たてもり・林はやし、国学/神職) Z 2 6 0 6  
 棕園(むくぞの・山田) → 千疇(千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9  
 無孔笛(むくてき;号) → 存(そん・小鹿こしか、医者/詩人/狂歌) O 2 4 1 7
- 4246 **無孔笛道人**(むくてきどうじん) ? - ? 江中後期俳人;  
 1787雅号選定辞書「俳名即鑑」編(;公美[草廬]・几董の序)  
 道彦の戲名? → 道彦(みちひこ・鈴木/村上、俳人) 4 1 1 5  
 むぐら(・清瀬) → 茂良(もりよう・清瀬きよせ/伊勢屋、俳人) G 4 4 7 9  
 葎庵(むぐらあん・清瀬) → 茂良(もりよう・清瀬きよせ/伊勢屋、俳人) G 4 4 7 9  
 葎居(むぐらい) → 翁満(おきなまる・黒沢、国学/歌人) 1 4 1 2  
 葎屋(葎廼舎むぐらのや、葎生) → 高世(たかよ・物集もずめ、国学/歌) E 2 6 0 3  
 葎廼屋(むぐらのや) → 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人) F 4 4 3 6
- 4247 **霧溪**(むけい・池田いだけ/初姓;村岡、名;晋) 1784-1857<sup>74</sup> 上州久方の医者;1803江戸の池田錦橋門、  
 のち養嗣子;痘科を修学、幕府小普請医/医学教授/内直医、「閑窓かんそう医談」「種痘辨義」、  
 1825「痘瘡養生訣」27「続痘科辨要」著/「方選」、35「治痘要方」43「治痘論」編、48「痘科輯説」、  
 1851「治痘要訣」、「精選痘疹良方」「秘伝痘疹唇舌提要」「痘疹治験録」外著多数  
 [霧溪(;号)の字/通称]字;柔行、通称;直郷/瑞仙  
 夢閨(むけい;号) → 宗純(そうじゅん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1

- 務卿(むけい・倉田) → 幽谷(ゆうこく・倉田/立見、儒者) B 4 6 6 4  
 務卿(むけい・谷) → 麓谷(ろくこく・谷たに、儒者/詩人) 5 2 8 0  
 無碣庵(むげあん) → 甫周(ほしゅう・桂川/4世、蘭医) E 3 9 2 2  
 無形庵(むけいあん) → 赤水(せきすい・長沢ながさわ、名;茂泰) K 2 4 2 6  
 無碍窟(むげくつ) → 得住(とくじゅう;法諱、真宗大谷派僧) K 3 1 8 9  
 無下斎(むげさい) → 守景(もりかげ・久隅くすみ、絵師) F 4 4 2 4  
 無月庵(むげつあん) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3  
 無月宰相(むげつものししょう) → 公定(きんさだ・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 0 3  
 夢軒(むげん・山田) → 半仙(はんせん・山田やまだ、商家/儒者/歌) K 3 6 9 3  
 夢軒(むげん・山田) → 重興(しげおき・山田、商家/郷士/漢学) a 2 1 0 3  
 夢硯(夢研むげん) → 梅臣(ばいしん・亀山、俳人) B 3 6 6 1  
 無倦(むげん・富岡) → 鉄斎(てっさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3
- 4248 無絃(むげん;法諱) ? - 1640 伊勢山田の浄土僧:江戸幡随院了聞門;出家、  
 上州館林の善導寺6世/同新田の大光院4世、内・外典に通ず/詩文を嗜む、「大原談義纂述」、  
 1634「大原談義纂述鈔」、「教相枢要鈔」「韻鏡切要鈔」「五教要義鈔」著、法名;生蓮社往誉厭公
- 4249 無幻(むげん;法諱、俗名;角田光劉こうりゅう、狩野亮観男) 1743-1809<sup>67</sup> 上州下野田村華蔵寺の生、  
 父狩野亮観りょうかんは華蔵寺の修験、1758上州林徳寺修験角田広観の養子/仏典修学、  
 書;沢田東江門、1792息子祐観に寺職譲渡、  
 諸国を行脚/1796京の聖護院宮の伴読/烏丸大善院住職/1800園城寺で灌頂を受く;  
 伝法大阿闍梨法印に叙される、書家として名声;門人多数、  
 「春霞帖」「賀知章」「草津百韻歌」「草書千字文」書、「清嘿せいもく庵和翰」  
 [無幻(;法諱)の名/字/初法諱/号]名:光劉こうりゅう、字:公冕こうべん、初法諱;良観、  
 号;光旒こうそ/こうりゅう、仙教院/知足院、
- 無弦(むげん) → 大蟲(だいちゅう・池永、俳人) B 2 6 8 6  
 無弦(むげん・安楽窩) → 信英(のぶひで・竹内たけうち、藩家老/歌) I 3 5 1 2  
 無絃(むげん・梅辻) → 春樵(しゅんしょう・梅辻/琴/祝部、神職/詩) J 2 1 9 6  
 無絃(無弦むげん・菊池) → 五山(ござん・菊池/修姓;池、儒/詩人) 1 9 2 7  
 無絃(むげん・森田) → 琴子(きんこ・森田/小倉、漢学者/教育) V 1 6 4 7  
 夢幻(むげん・村) → 元室(げんしつ・村、俳人) J 1 8 4 2  
 無言(むげん・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7  
 無絃琴堂(むげんきんどう) → 天籟(てんらい・市野/安井、藩士/儒者) E 3 0 5 5  
 夢幻軒(むげんけん) → 光尚(みつひさ・八羽はつば/はちは、和学者) K 4 1 1 0  
 幻夢山人(むげんさんじん) → 長英(ちやうえい・高野たかの、蘭学者/医者) H 2 8 3 9
- 4229 無絃女史(むげんじょし、小倉無絃、漢学者森田節斎[1811-68]の妻) ?-? 漢学者/詩文、1854結婚、  
 海内一の女学士と称される  
 夫 → 節斎(せつさい・森田もりた、儒者/尊攘論) 2 4 1 8  
 夢幻叟(むげんそう) → 悟心(ごしん:道号・元明:法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2  
 夢現叟(むげんそう) → 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1  
 無言蔵(むげんそう;号) → 憲海(けんかい;法諱・大願;字、真言僧) I 1 8 0 8  
 夢硯堂(むげんどう) → 竹雲(ちくうん・山本やまと、篆刻家/茶人) C 2 8 6 0  
 無言道人(むげんどうじん) → 江漢(かうかん・司馬、洋画/蘭学) 1 9 9 1  
 無絃道人(むげんどうじん) → 畔李(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0  
 無己(むご→むき;道号) → 無己(むき・道聖/元聖、臨濟僧) 4 2 3 7  
 無己(むご→むき・長沢) → 粹庵(すいあん・長沢ながさわ、藩儒) 2 3 0 0  
 務古(むこ・植田) → 春海(はるみ・植田うえだ、国学/歌人) J 3 6 7 7
- 4250 夢江(むこう・柏かしわ/紺野、名;貞宜) 1756-1824<sup>69</sup> 儒者/詩書;畑中荷沢門、  
 陸前白石邑主片倉家の儒臣、郷校督学、「夢江詩鈔」著、  
 [夢江(;号)の字/通称]字;叔通、通称;紺野九郎衛門/九郎左衛門  
 夢香(むこう・日下部) → 順清(じゆんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/詩人/書) P 2 1 5 3  
 無功(むこう・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0

無功(むこう・山内やまのうち) → 豊信(とよしげ・山内容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8  
霧岡散人(むこうさんじん) → 道生(どうせい・武石たけいし、医者/歌) F 3 1 9 6  
夢香亭(むこうてい) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8  
無孔笛翁(むこうてきおう) → 一雲(いちうん・伊能いのう、槍術/一節切) G 1 1 0 0  
無荒堂(無航堂むこうどう) → 光顕(みつあき・伊良子いらこ/源、外科医) D 4 1 0 1  
霧谷(むく・今井) → 政典(まさのり・今井いまい、歌人) N 4 0 7 9  
武庫散人(むこさんじん) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6  
武庫楼(無[六]児楼むころう・松屋) → 忠肅(ただまさ・野田、国学者) F 2 6 6 1  
无根水(むこんすい) → 直弼(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) B 3 2 3 9  
無根叟(むこんそう) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1 8 2 8  
無斎(むさい・山本) → 極斎(きよくさい・山本やまもと、和算家) O 1 6 9 3  
無際(むさい;初道号) → 慈永(じえい;法諱・青山;道号、臨濟僧) B 2 1 1 8  
夢斎(むさい・布施) → 御牆(みかき・布施ふせ、藩士/典故) 4 1 5 4  
無作軒(むさくけん) → 砂守(すなもり・小保内おぼない、神職/教育) I 2 3 1 9  
むさゝび山人(むささびさんじん) → 幸雄(ゆきお・後藤ごとう、国学者) G 4 6 8 3

4252 武蔵(むさし、藤原経邦女)? - ? 光孝天皇[830-887]皇后班子女王の女房、陽成院の寵愛を受ける、歌;後撰集1169(;大和物語では若狭の御の歌);若狭と同一? [数ならぬ身に置く宵の白玉は光見えさすものにぞありける](後撰;雑1169)、(陽成院のお召しがないので贈る/白玉は陽成院/見えさすは途中で見えなくなる意)

4253 武蔵(むさし、裸子内親王[1039-96]家ばいしんどのうけの)?-? 平安後期女房歌人/物語作者; 1046-78六条斎院(裸子内親王)家歌合17回参加: うち1055六条斎院物語合に「浦風に紛まがふきんの声」作、 [春の日にみがく鏡のくもらねばいはで千歳の影をこそ見め](六条斎院物語合; 12)

4254 武蔵(むさし・上西門院じょうさいもんいんの)?-? 平安後期女房歌人、鳥羽皇女統子内親王とうしんどのうけの(1126-89/上西門院)家の女房、歌;新勅撰1186、 [ふけにけるわが世のほどのかなしきは鐘の声さへうち忘れつつ](新勅;十七雑1186) (方磬ほうけいを打つに廢れていくので詠む/方磬は木杵に金属板を垂らし打つ楽器) 皇嘉門院武蔵と同一か → 皇嘉門院武蔵(こうかもいんのむさし) I 1 9 0 1

4255 武蔵(むさし・宮本みやもと/初姓;新免しんめん、新免無二斎[平田武仁]男)1584?-164562? 美作の武芸者、一説;田原家貞男で無二斎の養子、武芸は十手術を究めた父無二斎に学ぶ、 1596新当流有馬喜兵衛に勝利;諸国修業/1612豊前小倉藩主細川忠興を訪問、 藩主師範佐々木小次郎巖流と小島で決闘し破る、1634小倉藩主小笠原忠真の客分、 島原の乱に出陣、1640肥後熊本藩主細川忠利に招聘;藩士の武術指南/二天一流兵法の祖、 兵法論書執筆、諸芸を嗜む;連歌・俳諧・木彫・金工・造園・書画など;特に水墨画に優れる、 胤及「匏屑集」2句入(;俳号;無何)、「円明流劔法書」「兵法三十五箇条」著、 「五輪書」(伝武蔵筆)、「宮本武蔵剣道皆伝書付」、伊織の養父、 [武蔵(;通称)の幼名/名/号]幼名;弁助、名;政名/玄信、号;二天居士/無何(;俳号)、 法号;二天道楽居士

武蔵(むさし・皇嘉門院) → 皇嘉門院武蔵(こうかもいんのむさし) I 1 9 0 1  
武蔵(むさし・田付) → 景利(かげとし・田付、砲術家/歌人) L 1 5 0 6  
武蔵(むさし・鈴木) → 重兼(しげとも・鈴木すずき、重胤男/国学) Z 2 1 1 3  
武蔵修理亮(むさししゆりのすけ) → 英時(ひでとき・北条/赤橋/平、幕臣/歌) D 3 7 3 0  
武蔵守(むさしのかみ・上泉) → 信綱(のぶつな・上泉かみいずみ、軍学者) C 3 5 0 9  
武蔵五郎(むさしのごろう) → 宣時(のぶとき・大佛おさらぎ/平忠時、武将/歌) C 3 5 2 6  
武蔵四郎(むさしのしろう) → 時仲(ときなか・北条/平、武将/歌) J 3 1 5 5  
武蔵入道観心(むさしにゅうどうかんしん) → 隆資(たかより・藤原、歌人) E 2 6 0 9

D4241 むさしの(;組連) ? - ? 江中期江戸四谷の川柳の組連、 取次;1767「川柳評万句合」入/ 取次例;[ここはまあどこだと仁田にたんひよくら出る](67万句合/りつぱ也けり々々)、 (曾我十郎を討った仁田四郎の人穴探検;)

(富士の人穴村を探検し外に出た時のことばの穿ち/四郎は1203戦死)

- D4242 **むさし坊**(;組連) ? - ? 江戸神田の川柳の組連、  
取次;1762・63「川柳評万句合」入;  
取次例;[人相見衞がかりにあふてへしかくし](1763万句合/前句;さはり社こそすれ々々)、  
(予見能力なく詐欺に騙されひた隠す)  
武郷(むさと・大井) → 大井武郷(おおいのむさと、狂歌) B 1 4 6 9  
六鯖(むさば・六人部) → 鯖麻呂(さばまる・六人部連むとべのむらじ、万葉歌人) D 2 0 8 0
- 4256 **無三**(むさん・富田とみた、名;宗矩)?-1800 伊勢桑名の農家;豪農/楠郷代官役を務む、  
俳人:五竹坊門、多度神社境内に芭蕉の落葉塚建立;1769記念集「落葉川」編、「濃尾吟行」、  
[無三(;号)の別号] 兎毛/恵方庵
- 4257 **無参**(むさん;法諱) 1782 - 1851 70 大隅肝属郡串良郷の曹洞僧:鹿児島福昌寺67世:  
島津家菩提寺、禅学・陽明学に精通、門弟;西郷隆盛師が参禅、草牟田誓光寺に退隠、  
「陰徳辨」著  
無三(むさん・谷/式守) → 蝸牛(かぎゅう・式守、初世伊之助/相撲行司) J 1 5 3 3  
夢山(むざん・池袋) → 清風(きよかぜ・池袋いけぶくろ、教育/歌人) T 1 6 4 3  
霧山軒(むざんけん) → 露川(ろせん・沢さわ、商家/俳人) 5 2 0 7  
無思庵(むしあん) → 北華(ほっか・山崎/平、医/俳人/戯作) E 3 9 4 8  
無耳庵(むじあん) → 兎夕(とせき・風羅堂、禅僧/俳人) O 3 1 2 8  
無時庵(むじあん) → 岱年(たいねん・花守/早川/森、俳人) K 2 6 9 2
- 4258 **虫雄**(虫夫むしお・吉本よしもと、八郎右衛門男) 1715-1805長寿91 土佐藩郷士/国学者:谷垣守門、  
剣道;今喜多高則門:免許皆伝、1764息子里兄に家督を譲渡/吉原村東の原に隠居、  
1787吉原村の里長(名主)/本山郷の長/辞職後;吉原村で子弟教育、「芳森日抄」「老木霽」著、  
[虫雄(;名)の通称/号]通称;外市、号;東原とうげん/独淵明  
無志翁(むしおう) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1  
虫鹿豊後守(むしかぶねごのかみ) → 秀芳(ひでよし・小槻おつき、官人/衣紋術) I 3 7 6 9  
無色軒(むしきけん) → 半兵衛(はんべえ・吉田、絵師) I 3 6 4 9  
無思敬人(むしけいじん) → 敬字(けいじゅう・中村なかむら、幕臣/教育家) E 1 8 6 4  
夢自在(むじざい) → 了英(りょうえい;法諱・松林、真宗僧/漢学) M 4 9 2 8  
無似子(むじし) → 梅崖(せんがい;法諱・奕堂、曹洞僧) F 2 4 9 2  
無思陳人(むしちんじん) → 敬字(けいじゅう・中村なかむら、幕臣/教育家) E 1 8 6 4  
務実(むじつ・渡辺) → 如水(じすい・渡辺わたなべ、藩儒) M 2 2 6 1
- 4259 **虫麻呂**(むしまろ・下毛野しもつけの朝臣あそみ)?-?36歳没 奈良前期廷臣;720従五下;大学助教/21従五上、  
文章博士;学業の師範者として絶つむぎ・糸・布・鍬などを賜う、式部外少輔、  
詩;懐風(;五言長詩1首と序)・経国(;711付の対策文2編)入
- 4202 **虫麻呂**(虫麿むしまろ・高橋連たかはしのむらじ)?-? 万葉三四期歌;34首、717-24頃常陸守藤原宇合に出仕、  
732藤原宇合うまかひの西海道節度使就任時に贈歌(971-2)がある、  
[高橋虫麻呂歌集]の歌は虫麻呂自身の歌と考えられる、  
[虫麻呂歌集の主な歌]伝説歌が中心;富士山319-321/珠名娘子1738-1739、  
浦島子1740-1741/筑波山1753-1758/筑波耀歌会かがい1759-60/鹿島1780-1781、  
真間娘子1807-1808/菟原処女いなのおとめ1809-1811  
[千万ちよろうの軍いさなりとも言挙ことあげせず取りて来ぬべき士をのことそ思ふ]  
(万葉集;六972/反歌)
- 4203 **虫麻呂**(虫麿むしまろ・安倍/阿倍朝臣あべあそみ、安麻呂男?)?-752 母;安墨外命婦あずみのげみょう、  
奈良期廷臣;737外従五下/皇后宮亮/中宮少進/中務少進、  
740藤原広嗣の乱に佐伯常人とこれを討伐;功により従五上/141播磨守/752中務大輔、  
従四下、大伴坂上郎女とはいとこ同士(母が同母姉妹)で親密、  
万葉四期歌人;5首;665/672/980/1577/1578、666-667左注(大伴坂上郎女の返歌)、  
1041詞書(744・1月5日虫麻呂邸宴)/1650左注(虫麻呂が伝誦した歌)  
[向かひ居て見れども飽かぬ我妹子に立ち離れ行かむたづき知らずも](万葉;四665)  
(坂上郎女返歌;恋ひ恋ひ逢ひたるものを月しあれば夜は隠るらむしましはあり待て)

- 4261 虫麻呂(むしまろ・川原かわら)? - ? 755防人:駿河国/万葉廿4340、  
[父母とちははえ齋いはひて待たね筑紫なる水漬みづく白玉取りて来くまでに](万葉;4340)
- 4262 虫麻呂(むしまろ・占部うらべ)? - ? 755防人:下総国千葉郡/万葉廿4388、  
[旅とへど真旅まびになりぬ家の妹もが着せし衣に垢付きにかり](万葉;4388)、  
(旅といへどの約音/かりは[けり]の訛り)
- 無邪(むじゃ・小倉) → 無隣(むりん・小倉おぐら、儒者) D 4 2 3 0  
無釈迦未仏(むしゃかみぶつ) → 久葛(ひさつら・藤本/度会/小島、国学者) B 3 7 4 2
- 4263 無著(むぢやく;法諱・黄泉おうせん;道号、号;雖小庵、江崎雪江男) 1775-1838<sup>64</sup> 尾張愛知郡山崎曹洞僧、  
1782(8歳)俯鑑雄道門;得度、のち大疑覚道門;嗣法、1811(文化8)白毫寺住持、  
名古屋大光院・同万松寺住持/幕命で長崎皓台寺21世住寺、詩文・国学に長ず、  
晩年は名古屋万松寺雖小庵に隠棲;正法眼蔵の研究に尽力、  
1816「永平高祖行状図」20「或問止蹄鈔」22「もろこし談古」、「黄泉無著和尚語録」著;外著多
- 4264 無著(むぢやく;法諱/太素;別法諱/号;春夢庵)?-? 江後期文化1804-18頃石見浜田真宗本願寺派僧、  
履善門、村上仏山[1810-79]と親交、詩文を嗜む:「春夢庵詩鈔」
- 無著(むぢやく;道号・道忠) → 道忠(どうちゆう;法諱・無著、臨濟僧) G 3 1 4 3  
無著(むぢやく;道号・妙融) → 妙融(みょうゆう;法諱・無著、曹洞僧) G 4 1 6 9  
無著(むぢやく;道号・良縁) → 良縁(りょうえん;法諱・無著、臨濟僧) G 4 9 5 4  
夢寂(むじやく;法名) → 隆音(たかね・細井/杉、廷臣/歌人) C 2 6 5 5  
無著庵(むぢやくあん) → 六如(りくによ:字/慈周;法諱、天台僧/詩) 4 9 8 1  
無著庵(むぢやくあん) → 健良(けんりょう・田丸、医者/詩歌) N 1 8 0 1  
無著庵(むぢやくあん/無著舎) → 眠郎(みんろう・佐藤さとう、俳人) G 4 1 9 6  
無尺舎主人念夢(むしゃくしやしゅじんねんむ) → 下物(かぶつ・山川、俳人) F 1 5 7 9  
武者小路(むしゃのこうじ) → 公保(きんやす・三条西/西三条、歌人) E 1 6 8 2  
夢州(むしゅう・中村) → 愈積(まさかず・中村なかむら、歌人) R 4 0 1 9
- 4205 無住(むじゅう;道号・道暁どうぎょう;法諱、俗姓;梶原) 1226-1312<sup>87</sup> 梶原景時の孫or曾孫、鎌倉の生、  
常陸の親戚に養育される/1243(18歳)常陸北郡の法音寺(宝蘭寺)で出家、  
真言律・臨濟禪・天台止観・真言密教など諸宗を修学、上京し臨濟僧;東福寺円爾門/嗣法、  
1262尾張長母寺住持;歌・説話編纂に励む/伊勢桑名蓮華寺に没、1279-83「沙石集」著、  
1299「聖財しょうさい集」/1305「雑談抄」、「妻鏡」著、歌;新拾遺1027  
[狂言綺語ノアダナルタハブレヲ縁トシテ仏乗ノ妙ナル道ニ入シメ  
世間浅近せんこんノ賤キ事ヲ譬ヘトシテ勝義ノ深キ理を知らシメント思フ](沙石集序)、  
[逢ふ事はかただの浦の沖つ波立つ名ばかりや契りなるらん](新拾遺;恋1027)、  
[無住道暁の号] 号;一円、諡号;大円国師
- 4266 無住(むじゅう;法諱) ? - 1647 因幡の浄土僧;安藝巖島光明院で修学:以八門、  
諸經典閲覽し念仏の要文を抽出;「金玉拾掇しゅうえん集」60巻を編纂、  
1617伯耆米子城主の加藤貞泰の伊予大洲移封に招聘;伊予崇源寺2世/のち米子心光寺3世、  
近在の光祐寺・専称寺を開山、「諷誦指南要句集」「念仏諸経要文集」「無縁慈悲集」著、  
[無住(;法諱)の法名] 感蓮社報譽竜山
- 4267 無住(むじゅう) ? - ? 黄檗僧;元昭門?、1783「売茶翁偈語はいさおうげ」編  
無住(むじゅう・無住軒/無住庵) → 養正(よしまさ・小泉こいずみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2
- 4268 無住坊(むじゅうぼう;号) ? - ? 江中期俳人:真宗本願寺派僧鏡花坊如達[智洞]門、  
1765「華月一夜論」編
- 無住(むじゅう、無住庵[軒]) → 養正(よしまさ・小泉、幕臣/茶道) H 4 7 0 2  
無住(むじゅう・猿渡) → 容盛(ひろもり/かたもり・猿渡さわたり、神職/歌) H 3 7 5 4  
無住庵(むじゅうあん;号) → 杭州(こうしゅう;道号・克文;法諱、臨濟僧) J 1 9 5 0  
無住庵(むじゅうあん;号) → 良玄(りょうげん;法諱・無住庵、曹洞僧) H 4 9 3 8  
無住道人(むじゅうどうじん) → 杼山(ちよざん;道号・瑞芳ずいほう、曹洞僧) K 2 8 3 9  
無所為(むしゆい) → 白賁堂(はくひどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4  
六処隠士(むしゆいんし) → 篤雄(あつお・大岡おおおか、真言僧/狂歌) H 1 0 2 1
- 4269 無生(むしゅう;法諱) ? - ? 1247存 京の深草辺の住僧(法師)、

1247 毘沙門堂の花下連歌に一座参加、立信上人・二条為氏の連歌に招かれる/菟玖波5句入、  
[なげや鳴け露深草のきりぎりす](立信上人・為氏連歌の発句;井蛙抄入)、  
[明日も見む都にちかき山桜](菟玖波;1052/鷲尾の花下連歌の発句)

無象(むしよう・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5

夢松(むしよう・榊原) → 守典(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5

- 4270 無上(むじょう;道号・性尊しょうそん;法諱、俗姓;石)1631-6030 明の福建福清県の黄檗僧;隠元の侍者、  
師に随い渡来/一時帰国するが1656(明暦2/26歳)再渡来:隠元に随従/攝津普門寺に急逝、  
「南薫亭詩集」、「竹巖集」著(没後1668刊)

無障金剛(むしょうこんごう) → 顕春(けんしゅん;法諱、天台僧) J 1 8 6 8

無障金剛(むしょうこんごう) → 弁覚(べんかく;法諱、天台僧/引声) B 2 7 1 4

無障金剛(むしょうこんごう) → 相実(そうじつ・しょうじつ;法諱、天台僧) H 2 5 6 9

無上上院(むじょうじょういん) → 円遵(えんじゆん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 3

無上法院(むじょうほういん;法号) → 常子(つねこ・近衛、内親王/日記) C 2 9 0 5

無食道人(むじよくどうじん) → 高明(たかあき・町田まちだ、国学/歌人) Z 2 6 5 2

無所苟斎(むじょこうさい) → 天浦(てんぼ・吉川よしかわ、神職) E 3 0 2 7

無所住軒(むじょじゅうけん) → 南明(なんみん・東湖;法諱、臨濟僧) J 3 2 5 3

無所争斎(むじょそうさい) → 敬字(けいじ・中村なかむら、幕臣/教育家) E 1 8 6 4

無所著道人(むじょちやくどうじん) → 在禅(ざいぜん;法諱、浄土僧/大僧正) G 2 0 8 8

- 4271 無所得(むじょとく;号・岱洲たいしゅう;字、別号;白蓮台)?-? 江中期尾張海部郡甚目寺普門院の真言僧、  
1774「遊方草」著

無所得道人(むじょとくどうじん) → 豪潮(ごうちゅう;法諱・寛海;字、天台僧) K 1 9 6 6

無児楼(むじろう→むじろう;家号) → 忠肅(ただまさ・野田、国学) F 2 6 6 1

無心(むしん・小村) → 滋治(しげはる・小村こむら、藩士/国学者) O 2 1 4 3

- 4272 無塵(むじん;道号・省灯しょうとう/省証;法諱、号;幻化道人)?-? 南北期臨濟僧:明叟斎哲門/法嗣、  
のち京の天竜寺春屋妙葩(1311-88)門、天竜寺蔵主、南禅寺龍湫周沢(1308-88)に侍す、  
真如寺東陵永璵に参禅、「偏正五位図説詰難」「曹洞五位秘訣」著、

無人(むじん・平井) → 復斎(ふくさい・平井、儒者) B 3 8 5 5

無心庵(むしんあん) → 平入(初世へいにゅう・原田、幕臣/茶人) 2 7 7 5

無人閣(むじんかく;号) → 善意(ぜんい;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 4 6 5

無尽斎(むじんさい) → 願山(ござん・中谷なかつたに、古銭研究家) C 1 9 7 0

無尽子(むじんし) → 直紀(なおのり/なおき・安藤あんどう/内藤、藩士/歌人) K 3 2 9 2

無人寂室(むじんじやくしつ) → 深玄(しんげん;法諱・弁竜;字、真言律僧) O 2 2 2 0

- 4273 無尽蔵(むじんぞう・麴坊:本名不詳)?-? 江中期江戸麴町の本草家:1759「菊花論」

無尽蔵(むじんぞう;号) → 蓮体(れんたい・惟宝いほう、真言僧/説話集) B 5 1 2 6

- 4275 無尽亭(初世むじんてい・宿丸やどまる、姓;大江/通称;河内屋貞七)?-? 大阪堂島大江橋詰の狂歌作者、  
玄鳥舎株丸社中;丸派判者、天保1830-44頃「狂歌つきせぬ宿」編

- 4274 無尽亭(2世むじんてい・澄丸すみまる、通称;米屋佐兵衛)?-? 大阪堂島浜の狂歌作者:無尽亭宿丸門、  
丸派中;玄鳥舎株丸社中判者、1842「狂歌宿のみやげ」編

- 4276 無心亭有耳(むしんていゆうじ)? - ? 大阪の狂歌作者:油煙斎貞柳の遺詠集を整理:  
1809「柳翁狂歌類題」編

無心坊(むしんぼう) → 西海(さいかい・無心坊、鍛冶職/俳人) 2 0 6 8

- 4277 夢酔(むすい・勝かつ、名;惟寅これとら、旗本男谷おに忠恕男)1802-5049 江戸深川油掘の生;

1808(6歳)御家人勝甚三郎元良の養子/のち婿養子(妻;のぶ)、海舟の父、性奔放、  
幕臣:不行跡ゆえ小普請組の非役に終る、本所浅草界隈の顔役・露天商の親分・刀剣売買・  
刀剣の目利・祈禱師など多方面で活動、1838隠居、1843「夢酔独言」、「平子龍先生遺事」著、  
[夢酔(;号)の通称/別号]通称;左衛門太郎/亀松/小吉、別号;不量軒

無衰庵(むすいあん) → 升六(しょうろく/ますろく、黄華庵、俳人) C 2 2 1 5

無酔居士(むすいこじ) → 文炳(ぶんぺい・菊田きくた、絵師) G 3 8 4 0

娘女御(むすめのにようご) → 能子(のうし・藤原定方女、醍醐女御) 3 5 3 4

無生(むせい) → 無生(むしよう;法諱、連歌僧) 4 2 6 9

- 無世(むせい・田中) → 有孚(ありさね・田中たなか、藩医/歌人) H 1 0 8 4
- 無声(むせい・太田) → 主計(かづえ・太田おた、医者) M 1 5 1 0
- 無声(むせい・島地) → 黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
- 夢生(むせい) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0
- 夢清舎(むせいしゃ) → 枕山(ちんざん・勝木、国学/書家/俳) K 2 8 7 3
- 夢清楼(むせいろう) → 梅山(ばいざん・川北/川喜田かきた、儒者) B 3 6 3 3
- 4278 無跡散人(むせきさんじん) ? - ? 浮世草子;1768「世間学者気質」著
- D4248 無染(むせん;号) ? - ? 江中期の本草家;平賀(源内?)門;物産奇術修学、  
諸国周遊、山科稲川「思旧漫録」記事入(;稲川は幼時に無染を見たと言す)
- 無染(むせん;初法諱) → 曇庵(どんりゅう;法諱、真宗本願寺派僧) S 3 1 4 9
- 無染(むせん;号) → 虚応(こおう;道号・円耳えんに;法諱、日蓮のち臨濟僧) L 1 9 7 7
- 無染(むせん;号) → 龍観(りょうかん・深淵ふかぶち/畠山、真言僧/歌) M 4 9 2 5
- 無川(むせん・吉岡) → 不老(ふろう・吉岡よしおか、俳人) H 3 8 5 0
- 夢仙(むせん) → 滄浪(そうろう・秦はた、儒者) D 2 5 2 6
- 4279 無禅(むぜん・寺田てらだ、名;正忠) 1580?-1691 112(122歳説あり) 京の近衛家家仕/書;藤木敦直門、  
儒学・禅・茶・歌・連歌に通ず、「寺田無禅書状」著、1619近衛信尋のぶひろ「犬徒然」筆?、  
1676西鶴「俳諧師手鑑」入、  
[月とともに豆もいでゆや有馬山](手鑑/茹でと出湯を掛る)  
[無禅(;号)の通称/別号]通称;石見守、初号;喝石、法号;安楽庵無禅居士
- 4280 無銭芳志(むせんのほうし;無銭法師・生田いた源助)?-? 江戸本所三笠町小笠原邸住/狂歌;本丁連、  
1785「後万載」5首/「狂歌才蔵集」入、  
[白露の玉を今宵の十露盤そろばんに三五十五の月とこそおけ]  
(徳和歌後万載集;三秋261/そろばんの縁語;月光下の露を詠む)
- 4281 無相(むそう;法諱・無動むどう;字) 1757-1825 69 上州群馬郡の真言僧;1767(11歳)大聖護国寺恵隆門、  
1770灌頂受/1774大和長谷寺入;36年間修学/1810武蔵浦和玉倉院住/18江戸湯島念生院住、  
1783「因明三十三過本作法纂解正誤」1820「連歌百談」20-25「連歌茶談」、「連歌百句選」、  
「連歌十題百句」「連歌六句選」「連歌俳諧卅六句選」「四季二百題」「六合釈纂註」外著多数、  
[無相(;法諱)の/号] 号;白雲/白雲堂
- 4282 無諍(むそう;号) ? - ? 丹後の人?/俳人:蝶夢門、  
1793芭蕉百忌に丹後河守にすす塚建立:1793「すゝ塚集」編
- 夢窓(むそう;道号) → 疎石(そせき;法諱・夢窓;道号、臨濟僧/五山文学) 2 5 2 4
- 夢叟(むそう・石松) → 元啓(もとひろ・石松いしまつ、儒者/歌) E 4 4 1 5
- 無相(むそう・然蓮社) → 文雄(もんゆう;法諱、浄土僧/語学者) I 4 4 3 6
- 無相(むそう;号) → 観山(かんだん;法諱・即道、融通念仏僧) Q 1 5 7 8
- 無双(むそう;号) → 真藁(しんざい;法諱・季瓊きけい、臨濟僧) 2 2 3 6
- 無諍(むそう・中島) → 棕愿(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
- 無諍(むそう・穂積) → 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0
- 4283 無象(むぞう;道号・静照じょうしょう;法諱、俗姓;平) 1234-1306 73 北条時頼の親族、幼時に出家、  
臨濟僧;京の東福寺円爾門/1252入宋;径山の石溪心月門/無学祖元・虚堂智愚門、  
1265帰国後石溪の嗣法、77博多聖福寺住持/88鎌倉浄智寺住持/90京の仏心寺住持;  
仏心寺は在宋以来の知己円海が無象のために開山した寺、  
「興禅記」「無象和尚語録」「無象夢遊天台偈」著、  
[無象静照の諡号] 法海禅師
- 無竈庵(むぞうあん) → 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人) C 1 8 9 9
- 無蔵庵(むぞうあん;号) → 水音(すいおん・無蔵庵、僧/俳人) 2 3 3 4
- 夢窓国師(むそうこくし) → 疎石(そせき・夢窓、臨濟宗僧) 2 5 2 4
- 無相大師(むそうだいし) → 慧玄(えげん;法諱・関山、臨濟僧) 1 3 6 1
- 六足翁(むそくおう、六足善相人) → 退甫(たいほ・新山にいよま/佐藤、相法家) L 2 6 0 1
- D4250 夢体(むたい・矢野やの) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
[括いれ一六草履もてこひ](物種集/前句;御暇と云ふよりはやく飛ぬけて、

括れ一六;双六の戦法の教訓/一六を下僕と見なす)

- 4284 **無宅**(むたく) 1498 - ? 1577(80歳) 存 真宗高田派僧か?;  
1577?「越州軍記」(別称;越前軍記・朝倉記・義景記・越州兵乱記)著;  
(;信長に好意的で[仁義の良将]と称す/一向一揆を[僭上]と批判)
- 4286 **夢宅**(むたく・桃沢ももさわ、名;匡衛、匡道男)1738-1810<sup>73</sup> 母;松村理兵衛女かめ(亀/伊那三才女)、  
信州伊那郡飯島本郷村の名主;父を継嗣、歌;1760澄月(母の師)が伊那訪問中に入門、  
度々上京し指導を受;1784古今伝授を受/89隠居し歌道に専念/98垂雲軒(師の庵室)嗣、  
二条派宗匠を継嗣/1801垂雲軒を小野斧木に譲渡/帰郷;門人教育、勢力は信濃一円に及ぶ、  
晩年は香川景樹の桂園学派の新歌壇に加入、妻;日野真しん(1740-1820/歌)、匡逸まさはの父、  
家集;1794「蓬聰愚藻集」/「夢宅和歌集」、振思亭家集、1801「みなしご草」「初郭公」著、  
「桃沢氏紀行」「とほき旅寝」「旅のくさくさ」「神楽催馬楽集釈義」著、  
飯島為仙(為親)・宮下正岑らの師、  
[夢宅(;号)の通称/別号]通称;与一右衛門/茂兵衛、  
別号;啓山/烏帽山人うぼうさんじん/振思亭/垂雲軒2世、法号;槐巖夢宅仁訓居士  
夢沢(むたく→ぼうたく・井出/千村)→夢沢(ぼうたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7
- 4287 **閑言楽山人**(むだらくさんじん)? - ? 1777-8洒落本「大通多名於路志だいつたなおろし」著
- 4288 **無端**(むたん) ? - ? 俳;1672元隣「諸国独吟集」上巻/75重徳「新続独吟集」上巻入  
無端(むたん;字) → 如環(にょかん;法諱・無端、真言僧) F 3 3 8 7  
無端(むたん・高橋) → 義方(よしかた・高橋たかはし、藩士/地誌) C 4 7 6 8
- 4289 **無智庵**(むちあん) ? - ? 言語遊戯;1776「ききはつり」著;  
続編に;1778道楽山人「指竹篋ゆびしつべい」あり  
道楽山人と同一? → 道楽山人(どうらくさんじん、不通坊) H 3 1 9 7
- 4290 **武智麻呂**(むちまろ・藤原;南家の祖、不比等長男)680-737<sup>58</sup> 母;蘇我武羅自古女の媼子、  
奈良朝の廷臣/718式部卿/正四下/721従三位中納言/24正三位/知造宮司事兼任、  
729大納言;中納言大伴旅人を超える/731大宰帥兼任/734従二位右大臣/737正二位左大臣、  
左大臣7日間;737(天平9).7月27日流行病で没(;58歳)/弟3人も同年没;  
房前(4月17日没;57歳)・宇合(8月5日没;47歳)/仲麻呂の父、  
万葉・懷風藻に詩歌はないが延慶「家伝」(下巻;武智麻呂伝)に別邸で詩宴を開催とある;  
文運隆盛の記事  
無著(むちやく) → 無著(むじやく/むちやく・黄泉、曹洞僧) 4 2 6 3  
無著(むちやく) → 無著(むじやく/むちやく・春夢庵、真宗僧) 4 2 6 4  
無著(むちやく/むちやく;道号) → 道忠(どうちゆう;法諱・無著、臨濟僧) G 3 1 4 3  
無着(むちやく;字) → 日耀(にちよう;法諱・心光院、日蓮僧) D 3 3 5 2  
無着庵(むちやくあん;号) → 六如(りくによ;字/慈周;法諱、天台僧/詩) 4 9 8 1  
夢中(むちゆう) → 出放題夢中(でほうだいむちゆう、地口作者) C 3 0 6 7  
夢中庵(むちゆうあん) → 破笠(はりりゅう・小川、蒔絵象眼/俳人) F 3 6 8 4  
夢中庵(むちゆうあん) → 江陵散人(こうりょうさんじん・夢中庵、洒落本作者) F 1 9 4 4  
夢中庵(むちゆうあん) → 汀柳(ていりゅう・赤名あかな、俳人) B 3 0 8 1
- 4291 **夢中山人**(むちゆうさんじん) ? - ? 洒落本作者;1789-1800頃「南閨雑話」  
夢中散人と同一? → 寢言先生(ねごとせんせい、1770洒「辰巳之園」) 3 4 5 8  
夢中散人(むちゆうさんじん) → 寢言先生(ねごとせんせい、洒落本作者) 3 4 5 8
- D4234 **無腸**(むちよう) 1837 - 1880<sup>44</sup> 俳人;八千坊(はっせんぼう/はちちぼう)8世  
無腸(むちよう・上田) → 秋成(あきなり・上田、俳/歌/国学/読本) 1 0 0 9  
無腸(むちよう・曾) → 愿(げん・曾そう、藩士/医者) H 1 8 5 5  
無腸庵(むちようあん・草加) → 白根(しらね・一文字、武士/狂歌作者) D 2 2 1 8  
夢蝶軒(むちようけん・荒木田) → 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8  
牟知良(武知良むちら・源) → 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者) J 4 0 9 4
- 4292 **陸奥**(むつ・みちのく、皇太后宮こうたいごうぐうの、陸奥守藤原朝光[or朝元]女)?-? 平安期女房歌人、  
皇太后宮(後冷泉天皇の中宮/皇后、関白藤原教通女)の歎子(1021-1102)の女房、  
後拾遺738(恋の歌/藤原成資)/1205(誹諧歌)、

[逢ふことを今は限りと三輪の山杉のすぎにしかたぞ恋しき](後拾;恋738、  
藤原成資が大和守の時交渉しのち絶え年経て皇太后宮に來訪時に歌を車に入れる)  
☆藤原成資なりすけ;美濃守庶政ちかまさ男/母;大外記菅野忠輔女、從四下大和守、良綱・為綱の父、  
大和守任官は1066[治暦2]1月以前、歎子が皇太后宮になったのは1068)

陸奥(むつ、橘) → 陸奥(みちのく、橘葛直女、古今歌人) C 4 1 1 6  
陸奥(むつ・山田大路) → 親彦(ちかひこ・山田大路ようだおおじ/飯高、神職) B 2 8 6 7  
陸奥(むつ・中川) → 寛(ひろし・中川ながわ/光石、神職/歌人) L 3 7 8 5  
陸奥(むつ・森田) → 春郷(はるさと・森田もりた、寺侍/国学者) K 3 6 9 1  
陸奥(むつ・山野) → 定泰(さだやす・山野やまの、神職/国学) P 2 0 7 3  
むつ(・上野) → 美津子(みつこ・上野うえの、歌人) I 4 1 1 6  
睦月庵(むつきあん) → 渭南(いなん・片岡、俳人) B 1 1 0 5  
睦月庵(むつきあん) → 雪袋(せったい、俳人) L 2 4 2 0  
一月楼(むつきろう) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2

D4258 睦子(むつこ・横瀬よこせ) ? - ? 江前後期;歌人、安房勝山藩主酒井忠鄰の養女、  
旗本高家の横瀬貞樹と結婚、1808真田幸弘賀集入

D4255 睦子(むつこ・南部なんぶ、上野七日市藩主前田利和女) 1838-61早世24歳、  
陸奥七戸藩主南部信民の正室、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫と共に入集)、  
[むらさめの名残における白露を玉とみるまで照す月かな](大江戸倭歌;秋846/雨後月)、  
[思ひ寝の夢路ばかりを契りにて逢ひみぬ中ぞいとどはかなき](同;恋1410)

睦子(むつこ→ちかこ・万里小路/徳川)→ 斉昭側室(なりあきのそくしつ・徳川、秋/睦子、歌人) G 3 2 9 9

正月麻呂(むつきまる・巨勢)→ 豊人(とよひと・巨勢、万葉嗤笑歌) 3 1 6 5

睦三郎(むつさぶろう・賀来)→ 飛霞(ひか・賀来かく、医者/本草家) 3 7 4 0

陸奥山人(むつさんじん) → 正直(まさなお/まなお・一条、藩家老/天文) F 4 0 0 5

D4279 睦女(むつじょ・黒瀬くろせ、旧姓;江草)?-1774 備中倉敷商家成羽屋の国学者黒瀬普仙ふせんの妻、  
国学者

睦次郎(むつじろう・荒木田)→ 久守(ひさもり・荒木田、神職/国学) C 3 7 0 7

睦堂(むつどう・江沢) → 講修(ときなが・江沢、国学/詩歌) J 3 1 6 0

陸奥大掾(むつだいじょう) → 保行(やすゆき・服部はつとり、菓子商/歌人) G 4 5 4 3

陸奥道人(むつどうじん) → 江三(こうさん・村井むらい、俳人) J 1 9 1 1

陸奥入道(むつにゅうどう) → 泰盛(やすもり・安達あだち、武将/幕府実権) D 4 5 3 0

陸奥守(むつのかみ・中西) → 富嗣(とみつぐ・中西/齋部/大中臣、神職) O 3 1 8 7

陸奥守(むつのかみ・淡川) → 康民(やすたみ・淡川あわかわ、官人/歌人) F 4 5 2 3

陸奥守(むつのかみ・淡川) → 孝鑽(たかよし・淡川あわかわ、官人/歌人) V 2 6 3 2

陸奥守(むつのかみ・伊達) → 斉義(なりよし・伊達だて/田村、藩主) N 3 2 7 0

陸奥守(むつのかみ・岩下) → 公幸(きみさち・岩下いわした/藤原、神職) T 1 6 5 4

陸奥守(むつのかみ・尾関) → 宣胤(のりたね・尾関おせき/尾張、神職) H 3 5 6 2

陸奥守(むつのかみ・鈴木) → 重野(しげの・鈴木すずき/穂積、神職/国学) Z 2 1 1 5

陸奥守(むつのかみ・梶原) → 景審(かげあきら・梶原かじわら、神職/国学) U 1 5 2 5

陸奥守(むつのかみ・上月) → 為彦(ためひこ・上月こうつき、神職/国学者) X 2 6 0 7

陸奥守(むつのかみ・滋岡) → 孝長(たかなが・滋岡しげおか、神職/歌人) X 2 6 4 4

陸奥守(むつのかみ・生源寺)→ 希瓊(まれとも・生源寺しょうげんじ/祝部、神職/歌) Q 4 0 2 0

陸奥守(むつのかみ・松岡) → 義男(よしお・松岡まつおか/磯部、神職) P 4 7 1 0

陸奥守(むつのかみ・三宅) → 正保(まさやす・三宅みやけ、神職/国学/歌) S 4 0 8 7

陸奥三郎(むつのかみ・さぶろう) → 重時(しげとき・北条/平、鎌倉幕臣/歌人) C 2 1 5 1

陸奥三郎(むつのかみ・さぶろう) → 時村(ときむら・北条/平、幕臣/歌人) K 3 1 1 2

陸奥茂太夫(むつのみげだゆう)→ 茂太夫(しげだゆう・陸奥みちのく、浄瑠璃太夫) C 2 1 3 8

陸奥十郎(むつのかみ・じゅうろう) → 忠時(ただとき・北条、幕臣/歌人/連歌) F 2 6 3 5

陸奥掾(むつのかみ・じょう) → 邦信(くにのぶ・大内おおうち、神職/歌人) D 1 7 9 8

陸奥四郎(むつのかみ・しろう) → 政村(まさむら・北条ほうじょう、執権/歌人) H 4 0 7 9

陸奥四郎(むつのかみ・しろう) → 長時(ながとき・北条/赤橋、執権/歌人) E 3 2 6 9

- 陸奥介(むつのすけ・香川) → 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1  
陸奥介(むつのすけ・朝山) → 常清(つねきよ・朝山あさやま/源、廷臣/歌) F 2 9 1 6  
陸奥介(むつのすけ・門司) → 成道(なりみち・門司もし、神職/国学者) P 3 2 0 5  
陸奥判官(むつのほうがん) → 為義(ためよし・源、武将/保元乱敗北) S 2 6 8 8  
陸奥孫四郎(むつまごしろう) → 義宗(よむね・北条/平/赤橋、評定衆/歌) H 4 7 5 6  
陸奥弥四郎(むつやしろう) → 時茂(ときしげ・北条/平、武将/歌人) J 3 1 1 7  
陸奥六郎(むつろくろう) → 義政(よしまさ・北条/平、武将/連署/歌) G 4 7 9 4  
親覧(むつみ・佐々木) → 親覧(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5  
陸峰(むつみね・中村) → 武右衛門(ぶえもん・三星屋みつぼしや、商家/和学) I 3 8 7 9  
陸奥遊人(むつゆうじん) → 江三(こうさん・村井むらい、俳人) J 1 9 1 1  
睦之(むつゆき・賀来) → 飛霞(ひか・賀来かく、医者/本草家) 3 7 4 0
- 4293 夢亭(むてい・東ひがし、名; 娶、清水泰亮男) 1791?-1849 伊勢松阪の生/宮後住/宇治山田の儒医、  
儒者; 山口凹巷門; 経史・詩文を修学、医; 父清水泰亮門、1818東ひがし恒軒の養嗣子、刀剣蒐集、  
梁川星巖・頼山陽・篠崎小竹・貫名海屋と交流/柴田康直・三枝守行の師、妻; 佩芳、  
「瘟疫論註」「病間随筆」、1847「咏史百絶」48「鋤雨亭随筆」、「夢亭詩鈔」(妻佩芳刊) 外著多、  
[夢亭(;)号)の字/通称/別号]字; 伯傾/伯頌はくき、通称; 文亮/文良/一学、別号; 悔庵  
妻は絵師 → 佩芳(はいほう・東ひがし、絵師/詩歌人) C 3 6 0 6  
養嗣子 → 吉貞(よしさだ・東ひがし、林棕林男/神職) O 4 7 7 0
- 4294 無底(むてい) ? - ? 黄檗僧; 名古屋東輪寺住職、1847松友庵「芳躅ほうたく集」序  
無底居士(むていこじ) → 西水庵無底居士(ゆうすいあん、仮名草子)  
無底子(むていし) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3  
無底先生(むていせんせい) 銅脈先生の脚色「片仮名世酔記」作者; 実は国香「酒賦」の脚色)  
→ 国香(くにか・中村、儒者/滑稽本作者) B 1 7 4 8  
無底廬(むていろ) → 朋水(ほうすい・香田こうだ、俳人) B 3 9 8 6  
無適(むてき・香川) → 正矩(まさり・香川/平、藩士/軍記作者) F 4 0 9 3  
無敵斎(むてきさい) → 百雄(ひゃくゆう、俳人) E 3 7 8 1  
無敵斎(むてきさい・深井) → 景周(かげちか・深井ふかい、武道家) L 1 5 0 0  
無適斎(むてきさい) → 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7  
無適散人(むてきさんじん) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家) D 3 9 6 2  
無適道人(むてきどうじん) → 元良(元亮げんりょう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7  
無敵房(むてきぼう) → 麴車(きくしゃ、俳人) K 1 6 0 9
- D4249 無伝(むでん・二渡ふたわたし、通称; 与左衛門) ?-? 江中期; 武術家/擊剣を業とす、諸国歴遊、  
駿河の遂翁禅師門; 無伝の号を受、90余歳没、山科稻川「思旧漫録」記事入
- 4295 無等(むとう; 法諱・本寂; 字、俗姓; 佐藤) ?-1764 武州大里郡広瀬村の真言僧; 1699正福寺鏡秀門、  
針ヶ谷弘光寺日叙門; 出家/1704弘光寺覚意に灌頂受/11大和長谷寺に修学、  
1749武州中野の宝仙寺35世、「悉曇建立私記」「金剛界伝受私記」1745「胎蔵界念誦随筆」著、  
無等(むとう; 道号) → 以倫(いりん; 法諱・無等; 道号、臨濟僧/五山文学) I 1 1 3 8  
無等(むとう; 道号・良雄) → 良雄(りょうゆう; 法諱・無等、曹洞僧) J 4 9 5 6  
無動(むとう; 字) → 無相(むそう; 法諱・無動; 字、真言僧) 4 2 8 1  
無刀軒(むとうけん) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3  
無刀斎(むとうさい・北郷) → 資清(すけきよ・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 8  
無動寺座主(むとうじざしゅ) → 慶命(けいめい・けいみょう、天台僧) D 1 8 6 4  
無動寺法印(むとうじほういん) → 慈円(じえん; 法諱・慈鎮、天台僧/歌人) 2 1 0 4  
無等等翁(むとうとうおう) → 彦岑(げんしん; 法諱・隆丕、真言僧) K 1 8 1 7  
無得(むとく; 道号・良悟) → 良悟(りょうご; 法諱・無得、曹洞僧) H 4 9 4 5  
夢得(むとく・奥田) → 桐園(とうえん・奥田、藩/儒/詩) B 3 1 5 2  
無徳庵(むとくあん) → 岱貝(たいばい・高橋たかはし、俳人) C 2 6 0 5  
無得庵(むとくあん) → 松窓(しょうそう; 法諱、臨濟僧/俳人) K 2 2 5 7  
無得斎(むとくさい、無得志斎) → 琴台(きんだい・東条、儒者) E 1 6 2 4
- 4296 六人部王(身人部王むとべのおおきみ) ?-729 710従四下/716志貴親王の葬事監護/724正四上、

726(神亀3)播磨印南野行幸時に装束司/728頃聖武天皇近侍の風流侍従の1(武智麻呂伝)、  
万葉二期一69、笠縫女王かさぬいのおおきみの父、妻;田形皇女たがたのひめみこ

[大伴の三津の浜なる忘れ貝家なる妹を忘れて思へや](万一69:難波宮行幸に随行)

無名彦(むなひこ・丹羽) → 桃丸(桃磨ももまる・丹羽にわ、国学者) F 4 4 0 0  
無難(むなん→ぶなん;法諱) → 至導(しどう;道号・無難;法諱、臨濟僧) V 2 1 2 5  
夢南(むなん) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8  
無二菴(むにあん) → 篤雄(あつお・大岡おおおか、真言僧/狂歌) H 1 0 2 1  
無二園(むにえん) → 白巖(はくがん・梅津うめづ、儒者) C 3 6 8 9  
無二三道人(むにさんどうじん) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4  
無二道人(むにどうじん) → 文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4  
無二之助(むにのすけ・佐倉) → 信武(のぶたけ・佐倉さくら、神職/教育者) I 3 5 5 0  
無入(むにゅう・平井) → 復斎(ふくさい・平井、藩士/儒者) B 3 8 5 5

4297 宗顕(むねあき・高階たかしな) ? - ? 南北期廷臣;五位、歌人;新後拾遺1028

[くもるともよしや涙のます鏡わがおもかげは見てもかひなし](新後拾;恋1028)

4298 宗顕(むねあき・葉室はむろ、長頭男/本姓;藤原) 1347-1409<sup>63</sup> 廷臣;1378参議/79従三位/90権中納言、  
1399権大納言/正二位;出家/法名;紹授、1392「明德三年賢所劍璽渡御記」著、定顕の父

4299 宗顕(むねあき・松木まつき/家名;中御門、宗条男/本姓;藤原) 1658-1728<sup>71</sup> 母;藤原基秀女、廷臣、  
1682参議/84神宮伝奏/1715准大臣/従一位/26内大臣、「天和改元記」「宗顕卿記」著  
宗顕(;名)の法号;九品院

4265 宗明(むねあき・宇野うの、通称;九郎兵衛くろべえ) ?-1774 大阪の商家/古銭蒐集、独学で歴史を修学、  
1773福知山城主朽木昌綱のために貨幣関係書著、1768「古銭表目」著/73「続化蝶類苑」著

D4257 宗顕(むねあき・田村たむら、仙台藩重臣中村村由[のち近江堅田藩主堀田正敦]2男) 1784-1827<sup>44歳</sup>、  
母;側室(木村氏)、陸奥一関藩主田村村資の養嗣子;田村敬顕たかあきと改名、  
1798(寛政10)襲封:陸奥一関藩第6代藩主、従五下/右京大夫/左京大夫、  
村資女のおかね(のちの宣寿院)と結婚、邦顕・邦行の父、1808(文化9)宗顕と改名、  
連年の凶作で藩財政極度に悪化;幕命の蝦夷地警備も困難、1727(文政10)一関にて没、  
息子邦顕が家督嗣、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
[あさなあさな賤けが門田にむら雀あさりし跡を霜に見るかな](大江戸倭歌;冬1122)  
[宗顕(;名)の別名/法号] 紀三郎(;初名)/敬顕たかあき、法号;常德院

E4222 宗彰(むねあき・堀江ほりえ、通称;九郎右衛門/九郎) 1828-? 大和葛下郡高田の里正、国学;平田鍊胤門  
私財を投じ高田城跡に国学館を創設;儒/国学者を招聘;子弟教育

統秋(むねあき・豊原) → 統秋(とうしゅう・むねあき・豊原、楽人/歌人) 3 1 1 7

宗明(むねあき・桑折) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、家老/俳/歌) B 4 2 4 2

宗明(むねあき・佐藤) → 馬耳(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6

宗章(むねあき・勝野) → 秀雄(ひでお・勝野かつの/三勝、製造業/神職/歌) J 3 7 0 6

宗彰(むねあき・高橋) → 古溪(こけい・高橋たかはし、儒者) M 1 9 2 9

B4200 宗明(むねあき・源みなもと、関白二条道平男) ?-? 1330<sup>存</sup> 廷臣;1338源姓;臣籍降下/二条良基の弟、  
後深草天皇の猶子/1341従三位/48権大納言/60従一位/79出家(;法名;素満?)、  
歌人;一万首作者入、勅撰3首;新千載1106/新拾遺1473/新後拾1193、連歌;菟玖波2句入、  
[知るらめやあまの苦屋の夕煙立つ名に袖のしほたるとは](新千載;恋1106)

B4201 宗詮(むねあき・藤原ふじわら) ? - ? 連歌;菟玖波2句入;397/1344、

諸写本に異同(宗詮/家詮/定詮/定信/宗信/貞信など)、

[もしほ汲むあまの衣を干しかねて](菟玖波;1344/前句;あしやの軒に浪そかゝれる)

B4202 棟上高見(むねあけのたかみ、姓;鈴木) 1744-1801<sup>58</sup> 新吉原の伎楼五明楼扇屋主人、

歌;加藤千蔭門、狂歌作者;高彦「狂風大人墨叢」入、

妻の鈴木稲木女いなきよ(1760-1825)も[垢染衣紋あかしまのえもん]名の狂歌作者、

1785後万載集2首入;[蝶と飛び千鳥とふれる淡雪の今宵はとまれ七草の葉に]、

[棟上高見(;狂号)の通称/号]通称;宇右衛門、号;墨河ぼくが、屋号;扇屋

妻;鈴木稲木女 → 垢染衣紋(あかしまのえもん、狂歌作者) C 1 0 2 1

B4203 宗篤(むねあつ・藤原ふじわら) ? - ? 連歌;菟玖波2句入;817/1108、

[いつはりと思ひさだめはよもまたじ](菟玖波;恋817/前句;うきやゆふべの心なるらん)

- B4204 **宗家**(むねいえ・藤原ふじわら/家名;中御門なかみかど、初名;信能、宗能男)1139-8951 母;藤原長実女、  
廷臣;左中将/蔵人頭/1160(永暦元)参議正四下/62従三位/64**宗家**に改名/正三位、  
1165右中将、66(仁安元)権中納言/68中納言/71従二位/76正二位/79(治承3)権大納言、  
妻;俊成女の八条院按察、宗経父、1189(文治5)任官中没  
神楽催馬楽の名手/歌人;1166中宮亮重家家歌合参、親忠女催の源氏物語一品経供養に参、  
家集「中御門大納言集」、1165成立[統詞花集](右近権中将名)入・今撰集・万代集入集、  
勅撰8首;千載(163/697/1110)新勅撰(368/602/664)続後撰(662)玉葉(790)、  
[夕月夜入佐いさの山の木隠れにほのかになのるほとゝぎすかな](千載;夏163)、  
(入佐山は但馬の歌枕;夕月夜入との掛詞/ほのかは視覚と聴覚)  
宗功(むねいさ・車戸) → 宗功(むねたか・車戸くるまど/藤原、神職/国学)D 4 2 7 8
- B4205 **宗氏**(むねうじ・京極きやうごく/佐々木、満信男/本姓;源)1254/69-132976or61 武家;左衛門尉/従五下、  
佐渡判官/1311出家/歌人;関東歌壇で活躍;自邸で和歌行事を主催、連歌;菟玖波5句入、  
続現葉集入、勅撰7首;続千載(1457)続後拾(1196)新千載(661/1608/1723)新拾(1639/1712)、  
[忘らるる身をうきものと思ひしも心ひとつのなどなかるらむ](続千載;恋1457)、  
[宗氏(;名)の初名/法号]初名;三郎宗信、法諱;賢観、法号;賢観道法、  
道誉どうよ[高氏]の父、
- B4206 **宗氏**(むねうじ・大炊御門おほいみかど、冬宗男/本姓;藤原)1375-142147 南北室町期廷臣;左近中将、  
肥前権守/1498非参議;従三位/1401参議/03正三位権播磨守/03権中納言/07従二位、  
1413権大納言/14正二位/20内大臣/21没;法名;常暹、  
歌;1407内裏九十番歌合参加;3首入(後小松天皇催)、  
[さゆる夜は嵐の音も高砂やをのへに凍る月の影かな](内裏九十番;十八番左)
- B4207 **宗氏**(むねうじ・若林) ? - ? 江前期常陸水戸の農学家/若林宗朝と各地歴訪、  
農業に関する見聞を収集:1689-90「若林農書」(利朝としもと共著)  
宗枝(むねえだ・清原) → 宗季(むねせき・清原きよはら、廷臣/漢学者)4 2 8 5
- B4208 **致雄**(むねお・源みなもと) ? - ? 鎌倉後期廷臣;五位/武人、歌人;1346刊[風雅集]1823、  
[命をばかろきになしてもものふのみちよりおもき道あらめやは](風雅;十七1823)
- B4209 **宗雄**(むねお・稲次いなづ、丹波氷上郡稲次城主荻野おぎの左近男)1559-163880 初め父子共々の身、  
播磨三木城主別所長治に出仕;秀吉の三木攻めに奮戦/逆に秀吉に認められる;  
遠州横須賀城主渡瀬繁詮に出仕、渡瀬氏滅亡後遺領を得た初代藩主有馬豊氏の家臣、  
有馬家の丹波福知山・筑後久留米と転封に伴い諸務を処理/福知山で3千石の家老・  
久留米で5千石の家老:1637(79歳)島原乱に出陣/38陣中に没、1628「稲次壱岐守覚書」著、  
[宗雄(;名)の初名/通称]初名;重知、通称;半六/半兵衛/右近/壱岐
- B4210 **宗雄**(むねお・藤井ふじ、宗敷男)1823-190684 石見浜田の酒造業;1838(16歳)父没;家業継嗣、  
漢学;神田宗迪門、西国の神社を巡る/国学・神道;大国隆正門、詩歌・文章に長ず、  
石見神道の大教正、1861「石見式内神社考」/63「久邇の御柱」編、「石見国郡考付郷名考」、  
「石見式内神社在所考」「石見私記概略」著/「石見地誌ぬき書」編、「浜田県神社明細帳」著、  
[宗雄(;名)の通称/号]通称;百三郎ももざぶろう/恭平/藤田屋、号;藤園
- B4211 **宗興**(むねおき/むねき・中原なかはら)? - ? 平安前期廷臣;六位?、美濃下向/歌;後撰集1354、  
[山里の草葉の露も繁からんみのしろ衣縫はずとも着よ](後撰;離別羈旅1354)、  
(美濃下向の道中よしみを通じた女の許を去る時に絹の上に書いた歌、  
みのしろ衣は①蓑の代わりにの露払いの衣②自身の形見の衣③美濃の衣④白の衣を掛る)
- B4212 **宗興**(むねおき・滋野) ? - ? 南北朝廷臣/歌人、新葉集1046  
[花だにも咲きてとくちる山里にをしまれぬ身のなほや残らん](新葉;十六雑1046)
- B4213 **宗興**(むねおき・高橋たかはし、季弘男/本姓;紀)?-? 1471存 廷臣;御厨子所預/従四上民部大輔、  
1471若狭守、「庖丁譜」著、宗国の父
- E4214 **宗興**(むねおき・長岡ながおか)1694-176370 伊予伊予郡の歌人;武者小路実陰門、  
[宗興(;名)の通称]丈二/九郎右衛門
- D4290 **宗興**(むねおき・伊達だて、藩士成田弥三右衛門5男)1824-9875 紀伊の国学;本居内遠(1792-1855)門、  
和歌山藩士伊達千広(1802-77)の養嗣子、藩政改革派の養父が保守派に捕縛幽閉のち赦免、

1861(文久元)家督嗣、1863(文久2)養父千広と共に脱藩/上洛;中川宮に出仕、歌人、尊攘派として公武合体運動に関与/義弟(千広の実子)の陸奥宗光も中川宮に出仕、1864帰国;65幽閉/67赦免、維新後;和歌山藩執政/藩権大参事/1872広島県参事・73権令、広島鎮台の拡充により県庁所在地が定まらず1873[県庁設立伺](尾道・御調県)を提案、大蔵省前島密により県庁変更は認められず広島城外に置かれる、

[宗興(;名)の別名/通称]別名;峰輔/竜夫たつお、通称;五郎

- B4214 **宗緒母**(むねおのは・藤原ふじわら) ? - ? 藤原[難波]宗継(正四下刑部卿)の妻、鎌倉後期歌人、宗緒(正三位/1336出家;47歳)の母、玉葉1308/続千載1043、  
[かげばかり見しをかごとの契ぢりにてむすばぬ中の山の井の水](玉葉;恋1308)  
宗臣(むねおみ・桑折こおり) → 宗臣(むねいげ・桑折、藩家老、俳人) B 4 2 4 2
- B4215 **宗景**(むねかげ・田中たなか/本姓;源) ?-? 室町期岩代会津塔寺村の八幡神社宮司/従五下修理亮、1414「長帳略記」(1057-1349の出来事;1354田中輝義「神銘役録」の続編)、1591利光が続編
- B4216 **宗員**(むねかず・甲良こうら、宗賀男/本姓;藤原) 1661-1733 幕臣;幕府作事方甲良家4代目;工匠に従事、父と芝増上寺方丈の造営/1688日光東照宮修繕の大棟梁に就任;志摩の称を許可/1726致仕、「鞠掛之図式」著、  
[宗員(;名)の通称/号]通称;左衛門/志摩、号;宗員そういん(;出家号)
- B4217 **宗算**(むねかず・藤原ふじわら) ? - ? 江中期大坂馬喰町仁徳天皇社神主、1767「中臣祓落葉鈔」著
- B4218 **致和**(むねかず・よしかず・武藤むとう、宗右衛門男/本姓;藤原) 1741-1813 土佐高知下朝倉町の商家、土佐藩町御目見町人/町年寄、先祖は美濃山内家臣で藩主転封で土佐入国;土籍廃し商人、豪商美濃屋の主人、財力を以て儒学・国学・歴史など故実的研究、古典に精通/歌・書を嗜む、1813「南路志」120巻編(;息正道が援助/長期に亘り巨費を投じたために家産が傾く)、  
[致和(;名)の幼名/通称/号]幼名;亀之助、通称;忠左衛門/忠五郎/忠右衛門、号;何竜/榊の壺(賢樹壺)/敏屋、屋号;美濃屋、法号;実智院、平道・正道の父息子  
→ 平道(ひらみち・武藤、商家/国学者) F 3 7 4 1  
→ 正道(まさみち・武藤むとう、商家/国学) H 4 0 4 3
- E4225 **宗員**(むねかず・松居まつい、通称;助内) 1781-1836 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・亀]入  
宗量(むねかず・松木) → 宗宣(むねのぶ・松木まつきの/中御門/藤原、廷臣/歌) C 4 2 1 0  
宗允(むねかず・池袋) → 清風(きよかぜ・池袋いけぶくろ、教育/歌人) T 1 6 4 3
- B4219 **致方**(むねかた・源みなもと、左大臣重信男) 951-989 母;藤原朝忠女、廷臣;正四下右衛門佐/蔵人、権左中弁/右大弁、相方すけかたの兄、「致方記」著、連歌;拾遺1179(藤原実資と連歌)、菟玖波1句入、  
[珍重すべき物とこそ見れ](拾遺;十八雑賀1179/菟玖波集;-こそ知れ)、(前句;中将藤原実資八重紅梅を折りて遣す[流俗りうしよくの色にはあらず梅の花])
- B4220 **宗賢**(むねかた・清原きよはら、業忠男) 1431-1503 廷臣;侍従/大蔵卿/1473従三位/77正三位/88出家、漢学者;1489「長享三年諒闇終記」、「宗賢卿記」「即位諸例」「中庸抄」著、3回忌に従二位追贈、  
[宗賢(;名)の通称/法号]通称;常盛(;出家後)、法号;浄居院
- D4276 **宗容**(むねかた・北村きたむら、通称;久左衛門、宗統男) 1590-1648 謀殺 陸奥弘前の津軽藩士、1618家督嗣;深浦館代職も継嗣、1624深浦の開発に着手/44家老職;1千石、国学、1647正保の変で大浦信義廃嫡の謀議を大浦信義に密告;1648村山滋朝に裏切り行為として弘前城内で謀殺される
- B4221 **宗賢**(むねかた・小島こじま) ? - ? 江前期俳人;令徳門、1660絵俳書「源氏鬢鏡げんじびんかがみ」信房と共著
- B4222 **宗賢**(むねかた・高田たかた) ? - ? 江前期京の国学者/歌学者/俳人;貞徳門、1678「徒然草大全」編/79「伊勢物語秘訣抄」1707「古語拾遺示蒙節解」著、「枕草子鈔」著、  
[いくむらか迹に残して行水に又見え渡す峰のしら雪](茂睡[鳥の迹]雑上570)、  
[宗賢(;名)の初名/通称]初名;宗利むねとし、通称;吉兵衛  
宗賢(むねかた・岩谷) → 文淵(ぶんえん・岩谷いみや、医者/詩文) E 3 8 8 4  
宗堅(むねかた・藪内) → 竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、紹智6世/茶人) C 2 8 5 0
- C4276 **宗勝**(むねかつ・伊達だて、正宗10男) 1621-79 母;多田吉広女、一関藩主;3万石、

仙台藩主4代綱村(2歳)の後見役として田村宗良と藩政を把握;原田甲斐も参加、  
対立する伊達安藝宗重より策謀ありと幕府に上訴される;、  
1671(寛文11)大老酒井雅楽頭忠清邸で刃傷が起こる;宗重・甲斐斬殺、  
騒動の罪で一関藩は改易/身は土佐藩主預り;配所土佐に没、  
[宗勝(;名)の幼名/通称]幼名;千勝丸、通称;兵部

B4223 **宗勝**(むねかつ・柘植つげ/本姓;平)?-? 江前期砲術家:柘植流の祖、1649「鉄炮秘伝書」著

D4262 **宗勝**(むねかつ・朝原あさはら、通称;能登守)?-1794 伊予牛淵の神官、垂加神道家/徳島神社神主、  
宗乗むねりの父

宗勝(むねかつ・飛鳥井) → 雅宣(まさつら・飛鳥井、蹴鞠/歌人) E 4 0 2 0

宗勝(むねかつ・中川) → 乙由(おつゆう・中川ながわ、俳人) 1 4 2 0

B4224 **宗兼**(むねかね・紀き、藤原敦基男、宗政養子)?-? 平安後期廷臣;1099-1124頃出羽守、  
歌:金葉集解(橋本公夏筆本拾遺)59、  
[淀川のをち方見えぬ秋霧にともろならして舟くだるなり](金葉解;秋59)

B4225 **宗兼**(むねかね・藤原ふじわら、隆宗男)?-? 母;藤原義綱女、平安後期廷臣;少納言/従四上、  
修理大夫/1141出家、歌人;1118右中将雅定歌合参加、千載集715、朗覚・覚長の父、  
[恋ひわたる涙の川に身を投げむこの世ならでも逢ふ瀬ありやと]  
(千載;恋715/中将雅定歌合)

B4226 **宗肅**(むねかみ・村崎むらさき、号;卜斎/朴斎)1810-69 60 代々肥前小城藩の茶道役/茶;千種有功門、  
有楽流茶道/花道にも通ず、歌、1860「雨衣日記」、「海人廻呼声」著、遺稿「花筐」

B4227 **宗城**(むねき・難波なんば/飛鳥井、難波宗建むねたけ男/本姓;藤原)1724-1805 82 母;鷲尾隆長女、  
廷臣;1751従三位/58参議/62権中納言/75正二位・権大納言、蹴鞠に長ず;父門、  
「御鞠場之記」「宗城卿記」/1744-48頃「新嘗祭神饌供進次第」「新嘗祭記」著、法号;大岳院

宗城(むねき・源) → 巨城(おおき・源、廷臣/歌人) C 1 4 7 7

宗城(むねき・伊達) → 宗城(むねなり・伊達/山口、藩主) C 4 2 0 5

宗興(むねき・中原) → 宗興(むねおき・むねき・中原なかはら、廷臣/歌) B 4 2 1 1

棟吉(むねきち・桂田) → 竜山(りゅうざん・桂田かつらだ、医者) E 4 9 1 5

宗清(むねきよ・甲良) → 宗賀(むねよし・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠) C 4 2 8 4

B4228 **宗国**(むねくに・藤原ふじわら、行家[1029-1106]男)?-? 1149存 母;藤原実範女、平安後期廷臣;従五上、  
宮内少[大]輔/下野守、行盛・有業の兄弟、歌人;1118内大臣忠通家前度・後度歌合参加、  
1118・19・21の三度[忠通家歌合]参加/1135(保延元)播磨守家成朝臣歌合参加、  
金葉集解(橋本公夏筆本拾遺)57、続詞花集入、  
[山田もるしづのいほりのあたりにはしかより外にくる人もなし](金葉集57;秋/田家鹿)  
[長楽寺にて山家の心を人々よみけるに、  
鹿の音も人もおとせぬ山里は秋よりのちぞいとどさびしき](続詞花;冬288)

B4229 **棟国**(むねくに・津守つり、国平男)1253-? 1329存 撰津の座摩いかり社神主/従四下/相模権守/土佐守、  
笙の名手、国助・宣平の兄弟、国藤の父、歌人;1276住吉社三十五番歌合参加、続現葉集入集、  
勅撰5首;新後撰740/続千載1491/続後拾1032/新千載1857/新後拾598、  
[身をかかすかげとぞ頼む神垣におひそふ松のしげきめぐみを](新後撰;神祇740)

B4230 **宗国**(むねくに・高橋たかはし、別名;宗富/宗古、宗興男/本姓;紀)1459-1543 85 戦国期廷臣;御厨子所預、  
雅楽助/若狭守/1524従四上/33民部大輔/41出家、「庖丁譜」「御厨子所預柑類座人」著  
1489「諒闇御色直御膳之色目」1500「諒闇御入棺御膳」27「諒闇渡御倚廬御膳」外著多数

D4284 **至邦**(むねくに・近藤こんどう、)1828-1868 41 信濃伊那郡阿島の旗本知久頼謙の家臣、  
国学者;平田鉄胤・岩崎長世門、歌人、岩崎長世らと倒幕運動に参加、  
[至邦(;名)の別名/通称/号]別名;昌平、通称;十兵衛/治郎/太造/太一、号;秀誉

宗国(むねくに・源) → 隆国(たかくに・源、宇治大納言/歌人) 2 6 0 8

宗国(むねくに・藤原) → 宗経(むねつね・藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 6 6

宗国(むねくに・田村) → 顕始(あきはら・田村たむら、旗本/歌) H 1 0 8 8

E4235 **宗子**(むねこ・そし・藤原ふじわら、権大納言宗通女)1089-1155 67 母;顕季女、平安後期歌人、  
関白藤原忠通の正室、崇徳天皇中宮聖子(皇嘉門院1122-1182/新古今歌人)の母/従一位、  
准后、清輔撰[続詞花集]2首入、袋草紙に清輔との薫物の逸話入、

[ながき夜のね覚はいつもせしかどもまだこそ袖はしぼらざりしか](続詞花;恋626)、  
[金葉集のはじめていできたりける時、参河がしもに侍りけるを、  
撰集の歌人まみれと召しければ参れりけるに かみのきれにかきて賜はせたりける、  
むかしよりいかなる家の風なれば散ることのはのたえせざるらん](続詞花集;746、  
[(参河;関白忠通家女房)かへし、  
家の風吹くともなしにことのはの思ひのほかにいかで散るらん](続詞花;747)

宗子(むねこ・松木) → 敬法門院(けいほうもんいん、記録) N 1 8 1 9

B4231 宗定(むねさだ・高橋たかはし、宗好男/本姓;紀) 1610-5344 廷臣;御厨子所預/1649正五下/51若狭守、  
「庖丁譜」「鶴庖丁次第」「五菓御前物」「將軍家御参内御献立」、1639「御入内宮々様御祝」、  
宗恒の父

B4232 宗貞(むねさだ;名・浅沼あさぬま、号;賛也)?-? 江前期大坂島屋町の俳人;宗因[1605-82]門、  
西鶴大矢数に指合見役、能書家、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入/78「物種集」入、  
1681賀子「山海集」入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」版下を書く;句も入、  
[今宮や医者隙ひまになる神祭](山海集;左25/京紫野今宮神社の安良居やすらひ祭、  
疫癘の神を祭る;無病息災で医者いらす)

B4233 致貞(むねさだ・有沢ありさわ、有沢永貞男) 1689-175264 有沢致遠の養子、加賀藩士、家伝の軍学/算法、  
清人陣畊山こうざんの籌算の書を得て記述;紅毛算と称す/天文地理にも通ず、  
1712「城取練習大意」25「籌算式」45「円留」49「将士心得」、  
「甲陽軍鑑軍法之巻講解」外著多、  
[致貞(;名)の通称/法号]通称;惣蔵、法号;荆棘院

B4234 宗貞(むねさだ・七条しちじょう、通称;権蔵)?-? 江中期享保1716-36頃讃岐高松藩儒;150石、  
儒;林春斎門/藩祖松平頼重に出仕/世子頼常の侍読、経史・詩文に精通、潤身の父、  
「讃陽簪筆」、「杜律大全」校

E4219 宗定(むねさだ・深沢ふかざわ、) 1790-185263 上野山田郡の国学者、秀景の父、  
国学・狂歌(壺側);黒川春村門(息子秀景と同門)、  
[宗定(;名)の字/通称/号]字;駒寸、通称;弥五右衛門、号;浅華洞/雪蹄苑

E4212 宗定(むねさだ・永富ながとみ、定群さだむら男) 1831-7545 播磨揖保郡新在家村の庄屋;豪農、国学者/歌  
永富家の日記「高関堂日記」補筆

宗貞(むねさだ・良岑) → 遍昭(遍照へんじょう;法諱、廷臣/天台僧正/歌人) 2 7 0 5

宗貞(むねさだ・伊達) → 村年(むらとし・伊達だて、藩主) D 4 2 8 9

宗定(むねさだ・勸修寺) → 経方(つねかた・勸修寺かじゅうじ、廷臣/歌) B 2 9 9 0

B4235 宗実(むねざね・大炊御門おおいみかど、冬信男/本姓;藤原) 1343-140563 母;西園寺実衡女、廷臣;  
1349正五下左近中将/57正四下/58従三位非参議/越後権守/63権中将/64正三位、  
1367従二位権大納言/71正二位/89右大将兼任/90致仕/1402出家、  
歌人;1381宮中御遊・歌会参加/84後円融退位後初度の三席参加、新後拾遺1175、  
[立帰り越ゆべきものと思ひきやたえにしなかのあふ坂の関](新後拾;十四恋1175)

B4236 宗実(むねざね・伊達だて、政宗男) 1613-166553 仙台に生/陸前亙理領主伊達成実の養子、  
1646家督嗣;亙理領主、歌人、銃術を修得;奥秘を伝える、1631「宗実公和歌」著、  
[宗実(;名)の幼名/通称/法号]幼名;喝食丸、通称;治部/安房、法号;円照院

B4237 致眞(むねざね・川谷かわたに、藩士川谷藤兵衛勝致男) 1706-6961 土佐安芸郡野根村の人、土佐藩士、  
神道・儒・天文・暦算;谷垣守門、1738江戸で和算;豊島門/帰京後;暦学者/和算塾を開塾、  
1760留守居組、63(宝暦13)9月1日の日食を予測;藩主山内豊敷より賞;64新扨従格に昇進、  
「薊山詩集」「薊山雑集」「薊山小集」「南海暦談」「改旋新術」「紀元演段」「授時改旋暦書」著、  
[致眞(;名)の通称/号]通称;貞六、号;薊山けいざん

致眞(むねざね・宮下) → 弁覚(3世べんかく・宮下みやした、医者/歌) B 2 7 1 5

B4238 宗重(むねしげ・中御門なかみかど、冬定男/本姓;藤原) 1304-6764 鎌倉・南北期廷臣;少納言/左大弁、  
蔵人頭/1350参議従三位/1363権中納言/66従二位、歌人;新続古今集223/723、藤葉集入、  
[夏衣けふたちかふる袖もなほ着つたなれにし花の香ぞする](新続古今;夏223)、  
[さきの世のむくいをしらぬ契こそなほあふことのみなりけれ](藤葉;恋456)

D4238 宗重(むねしげ) ? - ? 室町期;開闢かいこう大夫、  
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(5句)

- B4239 **宗茂**(むねしげ・立花たちばな、筑前岩屋城主高橋鎮種男)1569-1642 74 母;斎藤鎮実の姉の仁志姫、豊後東郡箕村に生/1581(13歳)筑前立花城主立花[戸次]鑑連の養子/85家督嗣、1586島津軍を立花城に防衛/87豊臣秀吉に従軍;九州平定に協力、関ヶ原で西軍に属す、1604徳川秀忠より5千石・06家康より陸奥棚倉1万石賜/10加増され3万石/20柳川に転封、柳川藩主;左近将監・飛騨守/従四下、1637隠居/38島原乱に養嗣子忠茂と出兵、家訓を遺す、「橋宗茂記」「立花宗茂筆記」「立花立斎家中掟書」「木庵禪師との問答書」著、妻;鑑連の女、[宗茂(;名)の幼名/別名/号]幼名;千熊丸、  
別名;弥十郎/宗虎/統虎/鎮虎/正成/親成/尚政/俊正/信正/経正、出家号;立斎、法号;大円院、忠茂の養父
- B4241 **宗重**(むねしげ・伊達だて/天童、伊達定宗2男)1615-1671 斬殺 57 天童頼重の養子、兄宗実没;実家を継嗣、遠田郡涌谷領主、仙台藩主伊達忠宗に代り将軍家綱の就任を賀す、仙台4代藩主綱村の後見伊達兵部宗勝と奉行原田甲斐宗輔の政務を憂う、伊達式部宗倫との采地の境界争いの判定に策謀ありと幕府に訴訟;1671(寛文11)大老酒井雅楽頭忠清邸で原田甲斐と対決;原田に斬殺される、書画を嗜む、「伊達安藝等より伊達式部宛書状等」著、  
[宗重(;名)の幼名/通称]幼名;虎松丸/左京、通称;甲斐/信濃/安藝
- B4242 **宗臣**(むねしげ・桑折こおり/くわおり、初代宇和島藩主伊達秀宗4男)1634-86 53 伊予宇和島藩主、1640(7歳)桑折宗頼むねよりの養嗣/妻;宍戸定清女、1652藩の家老職;城代家老、1664(寛永4)義弟頼邑(宗頼男)に家督譲渡;隠居、歌;飛鳥井家の門/俳諧:北村季吟門、書画・茶・弓道・禅にも通ず;多彩の趣味の文化人、1664「弊囊集」編/72「大海集」7巻編、1677「知新抄」、79「詞林金玉集」編、81-「文宝日記」「桑折宗臣吟詠集」「桑折宗臣日記」著、「郭公千句」「宇和島百人一句」「宇和島百人一首」「宗臣自詠発句帳」著、頼長の兄、1670下河辺長流[林葉累塵集]10余首入/76西鶴「俳諧師手鑑」/82風黒「高名集」入、  
[峯入に持てど吹かぬは貝もなし](手鑑;七月大峯入山修行/甲斐もなしに掛る)  
[神代よりかはらぬ月の影そへて空すみわたる朝倉のこゑ]、  
(林葉累塵;冬731神楽/朝倉は神楽歌の曲名)、  
[辞世 月の入る山のかなたは雲晴れて心にかかるくまもなきかな]、  
[宗臣の幼名/別名/通称/号]幼名;頼隆、別名;宗明むねあき/宗恭/宗武/宗周むねちか/通貞、通称;百助もすけ/親左衛門、号;本水/青松軒/藤栄軒、法号;禅林青松院
- E4234 **宗成**(むねしげ・楠くすのきり、) ? - ? 江前中期;大坂の歌人、1682河瀬菅雄[麓の塵]26首入/1706大坂平野杭全く神社奉納3百和歌;河瀬菅雄らと参加、  
[山姫の霞の衣かさねても猶かぜさむききさらぎの空](麓の塵;春33)、
- B4243 **宗茂**(むねしげ・中尾なかお、通称;出雲守)1672-? 1734 存 神道家、河内丹北郡川辺村の八幡宮領池上庵で日本書紀神代巻を講義;1734「神代講義辨」著  
宗重(むねしげ・下間しもつま) → 蓮位(れんい/れんに;法諱、真宗僧) 5 1 8 9  
宗重(むねしげ・杉谷) → 宗重(むねたか・杉谷、軍記作者) B 4 2 4 0  
宗重(むねしげ・中尾) → 槐市(かいし・中尾なかお、藩士/俳人) 1 5 9 9  
宗成(むねしげ・高階) → 宗成(むねなり・高階、廷臣/歌人) C 4 2 0 4  
宗茂(むねしげ・水竹軒) → 静林(じょうりん;法諱・水竹軒、僧/歌人) L 2 2 9 9  
宗茂(宗茂むねしげ・伊与田) → 勝由(かつよし・伊与田いよだ、香道家) O 1 5 0 1  
棟重(むねしげ・島) → 重老(しげおい・島しま、神職/国学/歌人) B 2 1 9 4
- E4210 **宗ト**(むねしめ・中村なかむら、) ? - 1822 讃岐三木郡の八栗城主、武将/歌人、1580(天正8)居城であった田井城が火災で焼失;1581(天正9)八栗城を築き居城とす、翌1582(天正10)長宗我部元親の数珠掛孫兵衛久重らの軍勢に攻められるが撃退;夜陰に紛れて備前に逃亡、  
[宗ト(;名)の初名/通称]初名;恒頼、通称;新左衛門
- 4285 **宗季**(むねすえ・清原きよはら、良兼男)1323-1383 61 鎌倉後期・南北期廷臣;主水正/従四上、1371大外記;内昇殿を許可/少納言、漢学者;光明・後光厳・後円融3代天皇の侍読、1381「康暦三年辛酉革命外記勘例」著、  
[宗季(;名)の初名/法号]初名;宗枝、法号;寅亮院

- B4244 **宗輔**(むねすけ・藤原ふじわら、宗俊男)1077-1162<sup>86</sup> 母;左大臣源俊房女、廷臣;1122参議/  
1142高倉天皇大嘗会に権大納言/1156右大臣/57太政大臣/58従一位/60辞職/62出家;没、  
宗忠の弟、連歌:菟玖波集;1句入、舞・笛堪能、  
蜂飼が趣味/世に蜂飼大臣はちかひのおとどと称せらる;堤中納言「虫めづる姫君」のモデルか?、  
[宗輔(;)名)の通称]京極太政大臣/蜂飼大臣/堀川  
宗助(むねすけ・小林) → 茂大(しげひろ・小林こばやし、国学者/歌) O 2 1 3 9  
宗輔(むねすけ・原田) → 甲斐(かい・原田はらだ、家老/伊達騒動) G 1 5 4 6  
宗蔵(むねぞう・青地) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
- B4245 **宗隆**(むねたか・藤原ふじわら、長方男)1160<sup>or66</sup>-1205<sup>46or40</sup> 母;藤原通憲[信西]女、廷臣;1198参議、  
1200従三位/1201権中納言/02正三位/05(元久2)出家;翌日没、  
歌人;1186経房家歌合/95民部卿家経房歌合参加/1200若宮社歌合参加、  
月詣・万代・和漢朗詠集入集、千載集1153、  
[見る夢の過ぎにしかたをさそひきて覚むる枕もむかしなりせば](千載;雑1153)、  
(せばは反実仮想;結び省略/暁の目覚めに懐旧の情に浸る)、  
[宗隆(;)名)の通称]梅小路中納言うめがこうじのちゅうなごん、長兼・兼高の兄
- B4240 **宗重**(むねたか/むねしげ・杉谷すぎたに)?-? 江前期の軍記作者;  
寛永1624-44頃「大友興廢記」23巻著
- D4251 **宗隆**(むねたか/そりゅう・篠屋)?-? 江前期京の俳人、1667「俳諧小相撲」入、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[十返とがりも見もとりやせん松の雪](手鑑/松は十返りの花咲く)
- B4247 **宗堯**(むねたか・徳川とくがわ/家名;松平、高松藩主松平頼豊長男/本姓;源)1705-30<sup>早世26</sup> 母;湯浅氏、  
1711水戸徳川家の養子;1718(享保3)綱条没により家督継嗣;常陸水戸藩4代藩主、  
「成公文集」著、  
[宗堯(;)名)の幼名/字/号]幼名;軽麻呂/軽丸/鶴千代、字;子勲、号;観山、諡号;成公
- D4270 **致隆**(むねたか・加藤かとう、号;野人/柳軒)1724-81<sup>58</sup> 安藝豊田郡の医者、国学者、
- B4248 **棟隆**(むねたか・稲掛いながけ[稻懸/稻垣]/本姓;平、山口昭達男)1730-1800<sup>71</sup> 稲掛導孝の養子、  
伊勢松阪の豆腐屋、国学・歌:本居宣長門、「かるも草」「早苗集」「浪下集」「棟隆詠藻」著、  
「三集類韻」「ことのはのさかえ并詠草」「古言梯要抜歌」「萱草」/1771「月盛集」著、  
息子本居大平編「八十浦の玉」中巻;2首入、  
[千代遠く絶えぬ神わざ伝へ来て御糸の郷にたてる機殿](八十浦;594/麻績機殿に奉)  
[棟隆(;)名)の別号/通称/号]別号;為昭、通称;什介/十助/安次郎/安兵衛/十兵衛、  
号;棟庵/実入/悦可、屋号;田丸屋(須賀直見の豆腐屋を継嗣)、  
法号;華落院、本居大平の父
- B4249 **宗孝**(むねたか・高橋たかはし/本姓;紀/初姓;犬塚、母;高橋宗直女)1762-1815<sup>54</sup> 高橋宗之の養嗣子、  
廷臣;御厨子所預/備前守/1814正五下大監物、宗芳の父、  
1771「打敷之図」90「御遷幸次第其他」99「御賀御膳」1809「立坊御膳供進次第」、  
「屯食勘物」「新嘗祭神饌行列次第」外著多数
- D4269 **宗喬**(むねたか・太田おた、)1787-1854<sup>68</sup> 備中都宇郡の御崎神社祠官/のち早島の国鉾神社祠官、  
国学;藤井高尚門、「高梁川嘉永洪水絵図」画(1850[嘉永3]の高梁川氾濫による早島洪水)、  
[宗喬(;)名)の通称/号]通称;丹宮/和泉/監物/丹波守、画号;梅園
- B4252 **棟隆**(むねたか・疋田ひきた、佐々木源内男)1807-84<sup>78</sup> 京の史家、水戸藩士疋田盛盈の養子;藩士、  
1853「近世外史」を編纂し藩主徳川斉昭に献上;褒賞を受/山陵探索の命を受ける、  
勤王派/維新後は東京で教務省出仕、1855「山陵諸説集」/65「柏原御陵探索書」、  
1867「近世名臣諫諍録」、「柏原天皇陵考説」「山陵外史徴按」「神光奇書」著、  
[棟隆(;)名)の通称/号]通称;作左衛門/作次郎、号;筑山/水交園魚麿
- B4250 **宗恭**(むねたか・宮下みやした、宗辰男)1812-48<sup>37</sup> 信州伊那の医者;高遠藩士中村元恒[中俣ちゅうそう]門、  
松本の沢辺升順門/江戸の小島春庵[尚質なおかた]・本間玄調[棗軒そうけん]門、  
1840帰郷し開業医/種痘で功、歌人、1834「医諭」、「種痘小論」著、片桐源一と交流、  
[宗恭(;)名)の通称/号]通称;興蔵/恭造、号;陶斎、法号誠真院
- 4251 **致恭**(むねたか・天野あまの/本姓;藤原、通称;左京)?-? 江後期;旗本/幕臣、本所割下水北に住、

歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[手折りなば露や乱れんしかりとてただに過ぐべき野辺の萩かは](大江戸倭歌;秋732)

- D4272 **致高**(むねたか・河崎かわさき、)? - 1869 越前福井藩士、国学・歌;田中大秀・橘曙覧門、  
[致高(;)名]の通称] 三郎助/次郎助
- D4268 **宗隆**(むねたか・小畑おぼた/旧姓;柴山)1818-1886<sup>69</sup> 豊後岡藩士/国学者;由学館国学司業助教、  
[宗隆(;)名]の通称] 鹿太
- B4251 **致孝**(むねたか・鈴藤すずふじ/鈴木/初姓;藤枝)1826-1868**自殺**<sup>43</sup> 上州前橋藩刀工藤枝家の生、  
鈴木家を継嗣、前橋藩士多賀谷家に出仕/1855幕臣;鈴藤に改姓、江戸住/砲術;江川坦庵門、  
1855幕命で長崎の蘭人に天文地理造船を修学/57帰府;軍艦操練教授方/60咸臨丸で渡米、  
帰国後;小十人格軍艦頭取/軍艦役勤方/1868軍艦役、病のため榎本武揚の箱館戦に不参加、  
痛憤して自殺、1860「航垂日記」著/「咸臨丸難航図」画、  
[致孝(;)名]の字/通称/号]字;子享、通称;勇次郎、号;萃庵
- D4278 **宗功**(むねたか・車戸くるまど/本姓;藤原、)1835-1903<sup>69</sup> 近江犬上郡多賀大社祠官、国学;平田鉄胤門、  
自邸を諸国勤王派の交流の場とす/彦根藩と萩藩・高知藩との意思疎通を図る、  
維新後;高宮神社社掌  
[宗功(;)名]の通称/号]通称;造酒、号;屋別廼舎
- E4213 **宗鷹**(むねたか・永友ながとも、司つかさ男)1835-86<sup>52</sup> 日向高鍋の都農神社宮司、  
国学;塙検校門、  
[宗鷹(;)名]の初名/通称]初名;宗敬、通称;靱負ゆげい
- 致恭(むねたか・岩本) → 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人) N 4 0 8 6  
棟隆(むねたか・平井) → 棟隆(とうりゅう・平井、卜占家) I 3 1 2 3  
宗隆(むねたか・藤原) → 宗能(むねよし・藤原、廷臣/故実/歌) C 4 2 8 0  
宗孝(むねたか・三雲) → 仙嘯(せんしょう・三雲みくも、篆刻家) F 2 4 9 5
- 4205 **宗尊親王**(むねたかしんおう、後嵯峨天皇皇子)1242-74**早世**<sup>33歳</sup> 1252-66鎌倉6代将軍/中務卿/一品、  
1266将軍職解任;帰京/72出家、歌;藤原為家・光俊(眞観)門、歌合催;鎌倉歌壇の隆盛、  
1261「宗尊親王家百五十番歌合」催、1264家集「瓊玉(けいぎょく)和歌集」;眞観撰、  
1266「柳葉(りゅうよう)和歌集」;自撰、65「宗尊親王三百六十首」67「中書王御詠」、  
「宗尊親王千首」、「続古今集」撰に参加、「竹風和歌抄」「百番自歌合」、蹴鞠/管絃を好む、  
勅撰190首;続古今(67首7/10/42/51/60以下)続拾(18首)新後撰(17首)玉葉(22首)以下、  
[大伴のみつの浜松かすむなりはやひのもとに春やきぬらん](続古今;春7)、  
[宗尊親王の通称/法名]通称;中書王/中務卿親王(;続古今)、法名;覚恵/行澄/行証/行勝  
宗尊親王家右衛門督(むねたかしんのうけのうえもんのかみ)→ 右衛門督(うえもんのかみ) 1 2 0 4  
宗尊親王家小督(むねたかしんのうけのこごう)→ 小督(こごう、歌人) C 1 9 4 9  
宗尊親王家新右衛門督(むねたかしんのうけのしんうえもんのかみ)→ 新右衛門督(しんうえもんのかみ、歌人) D 2 2 5 6  
宗尊親王家備前(むねたかしんのうけのびぜん)→ 備前(びぜん、歌人) C 3 7 4 9  
宗尊親王家三河(むねたかしんのうけのみかわ)→ 三河(参河みかわ、備前と姉妹) 4 1 6 5
- B4253 **宗武**(むねたけ・樋口ひぐち)1674- 1754<sup>81歳</sup> 京の国学者;今井似閑門、契沖を慕う、  
書;1726青蓮院宮尊祐親王門、似閑の蒐集した契沖の關係書を賀茂三手文庫に寄贈尽力、  
「花月堂文」、1717「続国史神祇集」編/48「百人一首改観抄」補填、  
[宗武(;)名]の通称/号]通称;主水もんど、号;花月堂、法号;法山院
- B4254 **宗建**(むねたけ・難波なんば/飛鳥井/本姓;藤原、難波宗尚むねひさ男)1697-1768<sup>72</sup> 母;金森重照女、廷臣、  
1723従三位/30参議/53正二位/58権大納言、国学・歌;吉見幸和門、蹴鞠に長ず、  
1746江戸城内で吉宗・家重の上覧、「考聞録」「難宗随筆」「蹴鞠問答」道祐「随筆分類抄」編、  
「遠碧軒記分類抄」「記録部類」編/「御鞠場之記」「宗建卿勘文記」/1728-37「宗建卿記」、  
法号;大徹院、宗城むねきの父
- 4206 **宗武**(むねたけ・田安たやす/徳川/松平/本姓;源、8代将軍徳川吉宗男)1715-71<sup>57</sup> 母;竹本正長女、  
和歌山藩江戸赤坂藩邸の生/1729元服;父吉宗の諱字を受け宗武と改名、従三位、  
左近中将兼右衛門督/1731江戸城田安門内に邸を得て徳川三卿の田安家の祖、儒/和学者、  
1742田安家に荷田在満が出仕「国歌八論」を献上、1746十万石の采邑を受;田安家の確立、  
有職故実/国学;賀茂真淵門、真淵は1746から13年間田安家和学御用として出仕、

荷田在満との「国歌八論」論争;「国歌八論余言」(朱子学的[理]で反論)、「臆説剩言」、「歌論」(在満[国歌八論再考]に反論)、家集「天降言ありごと」「悠然院様御詠草」、「田安御集」、1746「歌体約言」、68「楽曲考」編、「摘要冠辞考」「玉函叢説」「くさむすび」「玉函秘説」外著多、徳川家重の弟/一橋家の祖一橋宗尹むねただの兄、正室;近衛家久女の森姫(守姫/宝蓮院)、側室;お登耶(香詮院)、田安治察(2代)・松平定信の父、

[雨降れば青みやます常磐木の木の間をよそふ桜葉の色](天降言)、  
[宗武(;名)の幼名/法号]幼名;小次郎/小二郎、法号;悠然院寛山円休大居士

B4255 **旨武**(むねたけ・津村つむら) 1756- 1828 73 伊勢山田妙見町の国学者;本居春庭・大平門、歌:1820「文政三庚辰歳月次歌合」24「文政七甲申年月次歌合」催、  
[旨武(;名)の通称] 正太夫/荘太夫しょうだゆう/一止

D4283 **宗武**(むねたけ・上妻こうづま、通称;謙三) 1837-1914 78 大隅種子島の戸長、国学者、1883「熊毛集」編

宗武(むねたけ・桑折) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2

宗武(むねたけ・高野瀬) → 公光(きみみつ・高野瀬たかのせ/藤原、藩士/歌) U 1 6 6 5

宗武室(むねたけのしつ・田安) → 森姫(守姫もりひめ・田安/近衛、歌人) K 4 4 3 4

宗武女(むねたけのむすめ・田安) → 兼子(かねこ・田安たやす、脩姫、酒井忠徳妻/歌) S 1 5 8 0

4207 **宗忠**(むねただ・藤原ふじわら、宗俊男) 1062-1141 80 母;藤原実綱女、平安後期廷臣;堀河天皇蔵人頭、1099参議/1100従三位/36右大臣/38従一位;出家、故実/管弦、詩文/歌、白河院・堀川院に信愛、1105中宮篤子内親王花合に参加/07鳥羽行幸時の詠歌参加、1131尚齒会を主催、歌合講師、記録日記「中右記」「中右記部類」「郁芳門院崩御記」著、「藤原実綱隨身兵仗記」「政部類記」「口言部類」「国後要抄」「韻花集」著、歌人;勅撰2首(中御門右大臣名);続古今1869/玉葉230、雲葉集入、  
[千代を経てそこまで澄める池水に深くもうつる花の色かな](続古;賀1869、1107[嘉承2]3月鳥羽行幸の時池上花を講ずるに詠)、  
[九重にうつさざりせば山桜ひとりやこけの上に散らまし](玉葉;春230、1105[長治2]閏2月中宮花合のついでに詠む)

[宗忠(;名)の通称]中御門右大臣なみかどのうだいじん、宗輔の兄、宗能・宗成の父

B4256 **宗忠**(むねただ・黒住くろずみ) 1780 - 1850 71 備前御野郡今村宮の禰宜、両親没し3年間の闘病、1814冬至の朝日を拝し靈感を得て全快;黒住教を興す;布教活動、「道歌集」「至誠講義」著、  
[宗忠(;名)の幼名/通称/神号]幼名;権吉、通称;左之吉/右源太/左京、神号;宗忠大明神

D4254 **宗紀**(むねただ・伊達だて、村寿長男) 1792-1889 長寿 98歳 伊予宇和島藩7代藩主;1824父隠居で襲封、従四下/遠江守/左近権少将、藩財政窮迫のため財政改革;大坂商人からの借金を無利子・櫛蠟はぜろうの専売・特産品保護・検地実施・儉約奨励・農業技術改善・融通会所設立;物価統制、諸政策で財政再建成功、1844養子宗城に譲り隠居;入道、53ペリー来航時幕府に開国献策、隠居所潜淵館建設;邸内に天赦園を築庭、正室;鍋島治茂女の観、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[古巢とも思ひし花は散りはてて若葉に迷ふ谷の鶯](大江戸倭歌;夏403谷鶯迷新樹)、

[宗紀(;名)の別名/字/通称/号]幼名;扇千代丸/扇松丸、初名;候正/宗正、字;伯綱、通称;主馬/遠江守/伊達入道、号;春山/南台/九淵/天赦園

E4218 **宗忠**(むねただ・服部はつとり、旧姓;野辺) 1820-70 51 出羽本庄藩士;寺社奉行、国学;平田篤胤門、  
[宗忠(;名)の通称] 斧太郎/和七郎/平右衛門

宗忠(そうちゅう・服部) → 宗忠(むねただ・服部はつとり/野辺、藩士/国学) E 4 2 1 8

宗胤(むねたね・相馬) → 義堯(よしたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2

D4265 **宗民**(むねたみ・池辺いけべ、通称;清兵衛) 1834-98 65 伊勢飯野郡の国学・歌人;佐々木弘綱門

B4257 **致親**(むねちか/致信?・平たいら or 源みなもと、源為清男[勅撰作者部類説])?-? 平安中期廷臣;五位典薬允、1038事に座し隠岐に配流、歌;金葉集262(平致親名)

[大井河もみちを渡る筏師いかだしは棹ににしきをかけてこそ見れ](金葉;冬262)

E4240 **宗親**(むねちか・平たいら、心戒坊) ?- ? 平安後期・鎌倉期の武将;平宗盛の養子、阿波守/1185(元暦2)平家滅亡;出家;仏性房門/共に高野山参籠;俊乗房重源を辿り入宗、樹下坐禅など厳しい修行;帰国後居所定めず聖として各地放浪;その言談[一言芳談]入、

鴨長明[発心集]入/徒然草49段入

- B4258 **宗親**(むねちか・藤原ふじわら、改名;俊親、親経男)1183-1228<sup>46</sup> 母;季行女、鎌倉前期廷臣;  
従四下東宮権大進/左衛門権佐/治部権大輔/中宮大進、妻;大蔵卿為長女、俊国の父  
詩人;父門、1201元久詩歌合(詩で父と参加)、  
[長堤草縷展草毯 斜岸柳糸宛麴塵](元久詩歌合;卅五番左69/右は俊成卿女の歌)
- B4259 **宗親**(むねちか・長沼ながぬま/中沼、宗秀男or兄秀行男?/本姓;藤原)?-1383 鎌倉末・南北期廷臣;  
駿河権守、五位、歌人;藤葉集2首入集(長江宗親名)、1346成立「風雅集」1922、  
[思ひねの夢よりほかはたのまれずさらではかへる昔ならねば](風雅;十七雜1922)、  
[聞侘びぬ身はならはしの夕とも思ひなされぬ萩のうは風](藤葉;秋191)
- B4260 **宗睦**(むねちか・徳川とくむつ/家名;松平、宗勝男/本姓;源)1733-99<sup>67</sup> 母;一色古暦女お嘉代(英敵院)、  
尾張9代藩主;1761父没;家督継嗣/従二位・権大納言、藩政改革、儒;須賀安貞・細井平洲門、  
藩校明倫堂開設;学問奨励、1792「宗睦還暦詩歌集」、「宗睦御詠百首」「明公及夫人御詠」、  
「外山御屋形詩歌」「宗睦卿四十賀詩歌集」外著多数、妻;近衛家久女の好(歌人)、  
[宗睦(名)の幼名/字/通称/号]幼名;熊五郎、字;子和、通称;右兵衛督、  
諡号;明公/法号;天祥院、治休・治興の父/斉明の養父  
妻 → 宗睦室(むねちかのしつ・徳川、歌人) B 4 2 6 1
- D4298 **棟参**(むねちか・千秋あき/本姓;服部、棟徳男)1801-73<sup>73</sup> 母;くま(土屋八十郎女)、家督継嗣、  
美濃養老郡の大地主/商家、国学者、子弟教育;学校創設に関与;学校御用掛、  
妻;うめ(1841結婚/安八郡の傍島新七郎女)、子は娘のみ;息女らくの婿養子棟載が家督嗣、  
[棟参(名)の字/通称/号]字;生万、通称;春二郎/庄六郎、号;笙峰  
宗親(むねちか・難波) → 宗長(むねなが・難波/藤原、蹴鞠/歌人) B 4 2 9 8  
宗親(むねちか・伊達) → 敏親(としちか・伊達だて、領主/詩人) M 3 1 8 2  
宗近(むねちか・鈴鹿) → 秀暦(ひでまろ・鈴鹿すずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
宗周(むねちか・桑折) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2  
宗邇(むねちか・上島) → 鬼貫(おにつら・上島うえじま/平泉、俳人) 1 4 2 4
- B4261 **宗睦室**(むねちかのしつ・徳川、名;盛/好、法号;転陵院、近衛家久女)1730-78<sup>49</sup> 母;真涼院、京の歌人、  
1752徳川宗睦と結婚/1761尾張9代藩主夫人;江戸住、「明公及夫人御詠」
- B4262 **宗継**(むねつぐ・松木まつき/家名;中御門なみかど、松木宗宣男/本姓;藤原)1400-52<sup>53</sup> 廷臣;1423参議、  
1446権大納言/49正二位、歌人;1433足利義教邸初度御会・50後崇光院仙洞歌合など参加、  
新続古今集撰集時の和歌所寄人、1434「永享百首」参加、新続古今2首;679/937、宗綱の父、  
[池水につがはぬ鴛鴦をのいとどなほ影さへ見えずこほるころかな](新続古;冬679)
- B4263 **宗継**(むねつぐ・立入たり、近江野洲郡立入城主立入宗長男)1528-1622<sup>長寿95</sup> 1562(永禄5)家督継承、  
禁裏御倉職に就く/左京亮/従五下、1567正親町天皇使者として織田信長入京を促す、  
1571信長創設の貸米制度を管理、1578信長と石山本願寺との和議を計る、  
子孫は以後禁裏上御倉職を継承、妻;磯貝久次女、月溪聖澄の兄、  
「立入左京亮宗継たりさきよのすけむねつぐ入道隆佐記」(;立入経徳たりつねり編)、  
[宗継(名)の幼名/号]幼名;幸夜又磨、号(剃髪後);隆佐、法号;金忠院、康善やすしの父
- D4261 **宗統**(むねつぐ・井上いづえ、通称;薩摩)?-? 江後期;美作英多郡上山村神社社司、歌人、  
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、  
[みまさかやあかたの河原河のぼり巨勢の社に月を見るかも](巨勢総社千首、  
秋の夜美作国巨勢の総社に詣でて詠)
- E4201 **宗統**(むねつぐ・東条とうじょう、)1824-1901<sup>78</sup> 上総市原郡の里正?/国学者、  
[宗統(名)の通称/号]通称;喜惣治、号;文堂/吾妻
- B4264 **宗綱**(むねつな・松木まつき/家名;中御門なみかど、宗継男/本姓;藤原)1445-1525<sup>81</sup> 母;藤原家輔女、  
廷臣;1466参議/68権中納言/88権大納言/1518従一位/准大臣/出家(法名;玄空)、  
1511以降伊勢智積御厨の家領に滞在;中御門宣胤に勤務を酷評される、  
「宗綱公記」/1490「貫之自筆本土佐日記」書写/1491「延徳三年踏歌節会次第」著、  
1491「陽照院儀同踏歌節会御次第」、「樂所奉行方宗綱公記」、連歌;新菟玖波;3句入、  
法号;陽照院、宗藤の父
- B4265 **致経**(致恒むねつね・平たいら、致頼[1011没]男)1007-1048<sup>42</sup> 平安中期武将/廷臣;六位左衛門大尉、

藤原頼道に出仕;伊勢北部から尾張を本拠;武勇に秀づ、1021東宮史生安行の殺害で解官、  
1031平正輔と私闘、歌:後葉集入、  
詞花集336(勅勘中に深覚僧正が奏上し赦免;5月5日に感謝の歌)、  
[君引かずなりなましかばあやめ草いかなるねをか今日はかけまし](詞花;九雑336)、  
(引は根を引くと引立てる/ねは根と音/かけは懸けと声を出すを各々掛る、  
引く・ね・かくはあやめ草の縁語)、

[致経(;名)の字/通称]字;大箭だいせん、通称;大箭の左衛門尉

参考 深覚僧正→ 深覚(しんかく);法諱、藤原師輔男/真言大僧正)D 2 2 6 7

- B4266 **宗経**(むねつね・藤原ふじわら/家名;中御門、初名;宗国、権大納言宗家男)1166-? 平安後期廷臣;  
左兵衛権佐/左近衛権少将/1198正四下/1199左近衛中将/76後白河院五十賀の童舞を務む、  
母;藤原能定女or長慶女の高松院右衛門佐、歌人;1194中宮任子和歌会参加/新勅撰1174、  
[暁の鐘ぞあはれをうちそふるうき世の夢のさむる枕に](新勅撰;雑1174)
- B4267 **宗経**(むねつね・平たいら;桓武流、経親男)1294-134956 母;四条隆氏女、北朝廷臣;蔵人頭/修理大夫、  
1331参議・従三位/40権中納言/44従二位、時経の父、歌人、1330[七夕御会三首和歌]参加、  
1340[持明院七夕詩連句会]参加、藤葉集3首入集/連歌:菟玖波集;3句入、  
勅撰5首;風雅(833/1505)新千載(1924)新拾遺(377/778)、  
[とふ人のあとこそあらめ松風のおとさへたゆる山の白雪](風雅;八冬833)、  
[深草や我がふる里も幾秋か野となりはててうづら鳴くらん](藤葉;秋217)
- B4268 **宗恒**(むねつね・高橋たかはし、初名;幸治、宗定男/本姓;紀)1640-170667 廷臣;御厨子所預、雅楽頭、  
備前守/1691従四下、故実家;野々宮定基門、一条兼輝後援で古来の行事復興に尽力、  
「類聚雑要抄」の絵図作成、京岡崎に隠居、1684「御鎮守勸請祝文并詩歌」89「御最花記」、  
1690「三節会御膳之図」1702「御元服記」、「公事類絵図」「聚楽行幸記」「世俗立要抄」外著多、  
親宗の父、宗直の祖父
- B4269 **宗恒**(むねつね・浅野あさの、吉長男)1717-178771 母;前田綱紀女、1731將軍吉宗面前で元服;宗恒名、  
1752父の遺領継嗣;広島藩主襲封/従四下/刑部大輔/侍従/伊勢守/安藝守/但馬守、  
1763致仕、「年々当座御会和歌聞書」編、  
[宗恒(;名)の幼名/法号]幼名;仙次郎/岩松、法号;鶴阜院
- E4233 **宗恒**(むねつね・山本やまと/本姓;源、)1760-182364 京の聖護院宮侍臣、楽師;笛が得意/和学者、  
[宗恒(;名)の通称]上総介/長門守/左兵衛尉、宗明(1784-56/楽師/笛)の父
- B4270 **宗経**(むねつね・南条なんじょう)1798-184649 伊勢桑名藩士;学頭勤/学頭、1818・22「英船渡海來記」著、  
[宗経(;名)の通称/号]通称;半兵衛/弥惣右衛門、号;楽山楼/芝蘭書室、法号;金源院
- B4271 **宗恒**(むねつね・伊達だて、宗賀男)1803-6159 陸前亘理領主;父を継嗣、「十炷香之記」著、  
[宗恒(;名)の幼名/通称]幼名;兵力、通称;藤五郎/安房/播磨
- E4229 **宗恒**(むねつね・宮沢みやざわ、敬宗たかむね男)1832-191786 信濃伊那郡の国学者;平田鍊胤門、宗義の兄、  
[宗恒(;名)の通称]市十郎/市蔵
- 宗恒(むねつね・井上) → 宗恒(そうこう・井上、俳人/狂歌) F 2 5 0 5  
宗恒(むねつね・平田) → 可竹(かちく・平田ひらた、藩士/兵法家) N 1 5 1 2  
棟常(むねつね・山岸) → 半残(はんざん・山岸やまざし、藩士/俳人) H 3 6 7 4
- B4272 **宗任**(むねとう・安倍あへ、通称;鳥海とりうみ三郎、頼時男)?-? 平安中期武将/陸奥の豪族;安倍貞任の弟、  
1062前九年役で父兄と共に源頼義に敗北、捕虜;太宰府へ配流/出家、松浦党は後裔という
- B4273 **宗遠**(むねとお・伊達だて、朝村or行朝男/本姓;藤原)1324-8562 伊達氏8世/南朝の武将、  
五位弾正少弼、父(奥州式評定衆の一員/朝村・行朝は同一説あり)と共に南朝方、  
奥州各地転戦し勢力拡大、  
歌人:勅撰4首;新千載(755)新拾遺(1847)新後拾遺(652/1117)、  
[越えぬまの関とはならで相坂は過ぎ行く人のへだてなりけり](新千載;離別755)
- E4235 **宗遠**(むねとお・宮崎みやざき、)? - ? 江前期;上方の武士/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]8首入、  
[山風のふかば消えなむはかなさもまことの雲にまさる花かな](林葉累塵;春158)  
[人を思ふ深さいづくにくらべましほり江もしほのみちひこそあれ](同集;恋813)
- B4274 **致時**(むねとき・中原なかはら、有象ありかた・ありゆき男)960-101152 平安前期廷臣;984大外記/斎宮頭、

- 987明経博士、肥前守・信濃守・伊勢守歴任/1004従四上、歌;後拾遺集82、  
[梅が香を桜の花ににほはせて柳が枝にさかせてしがな](後拾遺;春82)
- B4275 **致時**(むねとき・藤原ふじわら、時経男?)?-? 平安後期廷臣;従五位下/大和守?、  
「殿暦」入の勸学院有官別当致時と同一か?、歌;金葉集解(;橋本公夏筆本拾遺)67、  
[朝倉のこゑこそ空にきこえけれあまの岩戸を今やあくらん](金葉解;67/神楽の心)
- B4276 **宗時**(むねとき・藤原ふじわら、行時男?)?-? 鎌倉期廷臣;東宮大進/左近将監/刑部少輔/正五下、  
歌;1213内裏詩歌合参(群書類従223所収)、  
[有明の雲吹きはらふ秋風にひとりしぐるゝいはしろの松](内裏詩歌合;十九番右)
- B4277 **宗時**(むねとき・安倍あへ、宗長男?)- ? 1367存 南北期廷臣;陰陽家/兵庫頭・権天文博士/四位、  
歌人:1350足利直義勸進「玄恵追悼詩歌」/66年中行事歌合/67新玉津島歌合参加、  
勅撰;新拾遺1603、連歌;菟玖波集;3句入、  
[あさぢふのをのの秋風はらへどもあまりて露やなほ結ぶらむ](新拾遺;十八雑1603)
- B4278 **宗辰**(むねとき・柘植つげ)1691 - 1762? 信濃松代藩士;使役/2百石、  
竹内軌定と真田家の旧紀伝類を集録;「真武内伝」編/「真武内伝附録」著、  
[宗辰(;名)の通称/法号]通称;彦六、法号;俊松院
- E4223 **宗辰**(むねとき・前田まゐだ、藩主吉徳長男)1725-46早世? 母;側室;浄珠院(上坂以与)、加賀金沢の生、  
1736(元文元)江戸へ;正四下/左近権少将/佐渡守;宗辰と改名、和学者、  
1744(延享元)正室:会津藩主松平正容女の常姫(梅園院)、45(延享2)父没;家督継嗣;  
加賀藩6代藩主(加賀前田家7代)/左近衛権中將/加賀守、正室常姫出産;母子共に没、  
1746(延享3)没/弟利安(重熙)が家督嗣、  
[宗辰(;名)の初名/字/通称/号]幼名;勝丸/初名;利勝、字;伯拱、  
通称;犬千代/又左衛門/佐渡守/加賀守、号;梅塙/皓然斎/闇章堂、諡号;大応公
- B4279 **宗時**(むねとき・持明院じみょういん/本姓;藤原、権大納言高倉永房男)1732-95? 母;家女房、  
持明院家胤養子、廷臣;1746侍従/48左近少将/49正五下/52右近中將、  
1754輕服中内侍所を経て参番の咎;近習遠慮を命じられる(広橋兼胤[公武御用日記]入)、  
1762従三位/69右兵衛督/71参議/74踏歌外弁/77従二位/89権中納言/93正二位、  
書家;屋代弘賢の師、宗時(;名)の初名;永武、妻;家胤女、女;高倉永範の室  
宗辰(むねとき・田村) → 顕寛(あきひろ・田村たむら、旗本寄合/歌) H 1 0 8 9
- B4280 **宗俊**(むねとし・藤原ふじわら、俊家男)1046-97? 母;源隆国女、廷臣;1067参議/68従三位/81正三位、  
1092権大納言、笛・笙・箏/琵琶に長ず、1084「宗俊卿記」、基俊・宗通の兄、  
宗忠・忠亮・宗輔・相命の父
- B4281 **宗俊**(むねとし・高階たかしな、成経男、時宗男で宗成むねなりの弟説?)?-? 鎌倉期廷臣;刑部大輔/正四下、  
歌人;近衛家歌会常連/1300宗成「遺塵和歌集」27首入、勅撰2首;玉葉1233/続千載1706  
[葦のやの仮寝も近くみつ潮に磯越す波を枕にぞ聞く](玉葉;八旅歌1233)、  
(照念院入道鷹司兼平が難波に行くにつけての詠歌)、  
娘も歌人 → 宗俊女(むねとしのむすめ・高階、歌人) B 4 2 8 6
- B4282 **宗利**(むねとし・北村きたむら) ? - ? 江戸人、立圃[1595-1669]門、立圃「鶉鷺誹諧」入、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[座組みつゝぼごんたんぼぼ鞆草つづみぐさ](手鑑/座組;胡座をかく/鼓音に蒲公英を掛る)
- B4283 **宗俊**(むねとし・青山あおやま、忠俊男)1604-79? 青山家宗家3代目/幕臣;1621従五下/因幡守、  
1623父が將軍家光の勘気;塾居/父に連座し相模高座郡溝郷に塾居/1634赦免;38書院番頭、  
武蔵相模3千石を受け旗本、1644大番頭/48信州小諸藩主;加増され3万石、  
用水・新田開削;増産政策、1662大坂城代、遠州浜松藩主に移封;5万石、  
歌人;飛鳥井家入門/西山宗因を招聘、  
[宗俊(;名)の幼名/初名/通称]幼名;伊勢千代、初名;光俊、通称;藤五郎
- B4284 **宗利**(むねとし・伊達だて、秀宗男)1634-1708? 伊予宇和島藩主;父を継嗣;1657襲封・従四下、  
大膳大夫/侍従/遠江守、藩政整備;諸法令制定・鬮持制(独自の地割制度)を敷く、  
歌:「自詠愚草集」著、妻;美作津山城主松平光長女の稲姫、  
[宗利(;名)の幼名/号]幼名;犬松/兵助、号;賢山、法号;天梁院、政宗の孫
- E4215 **宗敏**(むねとし・長瀬ながせ、年宗としむね男)1740-1805? 信濃飯田の商家/歌人;澄月門、福住清風の父、

- [宗敏(；名)の通称/号/屋号]通称;五郎右衛門(父の称)、号;乎哉、屋号;南部屋
- B4285 **宗敏**(むねとし・吉田よしだ、宗敬男)1783-1844<sup>62</sup> 代々武州幡羅郡下奈良村の里正(庄屋);1806嗣、巨額を投じ治水事業に尽力;天保飢饉に貧民救済、「旅の記」「旅行五戒」著、1817「日のひかる山の道記」23「八十八箇所順拝紀行」著、  
[宗敏(；名)の字/通称/号]字;士行/子行、通称;市右衛門/市三郎/慎助、号;瑤泉、  
法号;徳寿宗敏信士
- E4226 **宗甫**(むねとし・松尾まつお、)1827-1860<sup>34</sup> 河内志紀郡の医者/河内狭山藩医、  
国学・歌;伴林光平門、  
[宗甫(；名)の字/通称/号]字;士憲、通称;主税ちから、号;柳坡
- D4282 **宗敏**(むねとし・木暮くぐれ、旧姓;小久保)1838-1913<sup>76</sup> 武蔵大里郡の歌人;尾高高雅門、  
のち橘道守・鈴木弘恭ひろたか門、歌人;大日本歌道奨励会支部役員、  
「宗敏遺稿抄」(息子隆太郎編)、  
[松が枝にふれる白雪むらさきえてひとしほまさる深みとりかな](遺稿抄冒頭;1880作)、  
[宗敏(；名)の通称/号]通称;捷三郎、号;捷徑/薪水居
- 宗利(むねとし・高田) → 宗賢(むねかた・高田たかた、国学者/俳人) B 4 2 2 2  
宗俊(むねとし・寺西) → 尚亭(しょうてい・北川/寺西、藩士/儒者) U 2 2 3 8
- E4239 **宗利妻**(むねとしのつま・伊達だて、名;稲子/稲姫、松平光長2女)1639-? 父は美作津山・越後高田藩主、  
1658(万治元)伊予宇和島藩主伊達宗利(1634-1708)と結婚、歌人、  
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[人ならばうき名やたゝん宵々にわが手枕たまくらに通ふ梅が香](若むらさき;11)
- B4286 **宗俊女**(むねとしのむすめ・高階たかな) ?-? 鎌倉後期歌人;1300宗成むねなり編「遺塵和歌集」入  
宗富(むねとみ・高橋) → 宗国(むねくに・高橋/紀、廷臣) B 4 2 3 0
- B4287 **宗友**(むねとも・藤原ふじわら、宗季男) ?-? 平安後期廷臣;1110文章生/51従五下美濃守、  
詩人;中右記部類紙背漢詩集入、52「本朝新修往生伝」著
- B4288 **宗朝**(むねとも・小山おやま、時村[時朝]男/本姓;藤原) ?-? 鎌倉後期武将/五位出羽守、  
歌人;続千載1557、  
[つれなくてなにとうき世に残るらん思ひも出でぬ有明の月](続千載;十五恋1557)
- E4237 **宗友**(むねとも、) ? - ? 鎌倉南北期;廷臣/散位、  
歌;1320[元応二年八月十五夜月十首]入、  
[枝しげき木のみをわけて山の端にいざよふ月も影ぞほのめく](十五夜十首;51)  
[心あらば月にへだつる浮雲をよそに吹きなせ夜半の秋風](同上;55)
- E4238 **宗倫**(むねとも・藤原ふじわら、) ? - ? 南北期;武士、細川家の家臣?  
歌人;1375頃細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、  
[雪つもる里の軒端に咲く花のそれとみえぬも香はにほひつつ](大山祇百首;3)
- B4289 **致知**(むねとも・坂野さかの、助右衛門男)1728-99<sup>72</sup> 越前金津の醤油業;家業を嗣/歌:冷泉為村門、  
晩年剃髪;本願寺別院再建に尽力、1799「雪窓集」、「吉崎八景和歌」著、浅田包知かねとの兄、  
[致知(；名)の幼名/字/通称/号]幼名;助太郎、字;茨岐、通称;市郎右衛門、  
号;宗春そうしゅん、屋号;米屋、法号;釈宗春信士、教順寺昌瑞の師/敏知としとの父
- B4290 **致知**(むねとも・矢部やべ、藩士近藤知雄男)1772-1850<sup>79</sup> 矢部致晴の養嗣子;丹波亀山藩士/禄百石、  
馬廻役/普請奉行/大目付/長柄奉行/桜田門番所番頭代を歴任、1794学問所世話役、  
1812学校御用掛/22旧記係/35致仕、古文献を調査、1818「物印満写真略」20「東産腊葉写」、  
「盪魚庭落葉」「救荒本草設辨抄」「闇眠独話」「桑下漫録」著、  
[致知(；名)の幼名/通称/号]幼名;佐市、通称;節雄/八郎兵衛、  
号;朴斎/節斎/朴節斎/良洞庵
- B4291 **致知**(むねとも・大村おむら、大村七郎左衛門の養子)1793-1867<sup>75</sup> 金沢藩士;1812遺知継嗣;番外組、  
持弓頭/定番頭、1865致仕、1848「栄岳院養子一卷」著/1847-54「日記」著、  
[致知(；名)の通称/号]通称;肴次郎、号;自脩
- E4209 **宗知**(むねとも・中野なかの、旧姓;高木) ?-? 筑前粕屋郡の生/筑前鞍手郡の高木家養子、  
大庄屋、国学/歌;伊藤常足(1774-1858)門、  
[宗知(；名)の通称/号]通称;彦次郎/源七、号;石有

- B4292 **宗友**(むねとも・杉村すぎむら) ? - 1858 江後期神職;足代弘訓門、歌/俳諧を嗜む、茶事;神田竹堂門、「俳諧ひまつぶし」、  
[宗友(;名)の字/通称]字;俊道、通称;礼蔵/清太夫
- D4275 **致知**(むねとも・岸さし、通称;相模、藩家老有馬一知男)1831-1912<sup>82</sup> 筑後久留米藩士、国学者、幕末期に京で朝廷工作  
宗知(むねとも・五十川) → 春昌(はるまさ・五十川[河]いそかわ、医者) G 3 6 8 3  
宗知(宗智むねとも・沢田) → 風月庄左衛門(初世ふうげつしょうざえもん、書肆) 3 8 5 2  
宗友(むねとも・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0  
宗友(むねとも・石井) → 宗友(そうゆう・石井、行本ぎょうほん、連歌) D 2 5 0 6  
宗具(むねとも・江村) → 専斎(せんさい・江村、医者/歌/連歌) 2 4 3 0  
宗虎(統虎むねとら・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9
- B4293 **宗直**(むねなお・大佛おさらぎ、宣時のぶとき男/本姓;平/家名;北条)?-? 鎌倉後期1308-17頃武将;五位陸奥守、歌人/勅撰4首:玉葉(941)続千載(800/1985)続後拾遺(1104)、  
[さゆる夜の氷の上にもる鴨はとけてねられぬねをのみや鳴く](玉葉;冬941)
- B4294 **宗直**(むねなお・八木やぎ、光政男/本姓;日下部くさかべ)1603-65<sup>63</sup> 幕臣;;1621父の遺知嗣;千石、1638東海寺普請を指揮/作事奉行/54従五下但馬守/59山田奉行;伊勢内宮の造営、伊勢山田没;知行4千石、高豊の父、1661「菅神宝前詩歌」、「宮崎文庫式条並同文庫条例外宮式大概」著、  
[宗直(;名)の別名/通称/法名]別名;守直、通称;勘十郎、法名;了貞
- E4203 **宗直**(むねなお・徳川とくがわ、松平頼純5男)1682-1757<sup>76</sup> 母;観樹院(太田家)、伊予西条藩主の家、1706兄頼雄が廃嫡;世子となる/江戸西条藩邸で頼雄復権を強諫の家老渥美勝之を手討ち、1711(正徳元)西条藩2代藩主、1716(正徳6)宗家の従弟吉宗が將軍就任のため紀伊6代藩主、西条藩は弟頼渡が嗣、従二位・権大納言、藩財政再建に尽力;藩財政再建・銅銭鑄造など、歌;冷泉為村門、正室なし/側室11人;6男10女、1757(宝暦7)江戸中屋敷で没、  
[宗直(;名)の別名/通称/法号]別名;甚太郎(幼名)/頼致よりよし(・松平)、  
通称;義大夫/玄蕃頭/左京太夫、法号;大慧院
- B4295 **宗直**(むねなお・高橋たかはし/本姓;紀、高橋親宗2男or養子)1703-85<sup>83</sup> 京の出身/廷臣;1720(享保5)御厨子所預、46若狭守/75従四上、祖父宗恒の遺志を継ぎ大嘗会等の復興尽力、儒;伊藤東涯門/神道;吉見幸和門/国学;滋野井公澄門/歌;京極宮門/故実;野宮定基門、宗澄・宗之の父、1746(延享3)宗澄に御厨子所預を譲;京岡崎に隠居、小沢蘆庵・澄月と交流、1736「冠装官器図識」67「筵響録」、「徒然草抄」「宗直日記」「草庵漫録」「近代類要」外著多数、  
[宗直(;名)の号]号;凶南、諡号;文敬先生ぶんけいせんじょう
- E4200 **宗直**(むねなお・土崎つちさき、通称;千里之助/号;三枝園)?-1841 出羽秋田郡の八橋山王神社祠官、国学;本居春庭門  
宗直(むねなお・藪内やぶのうち) → 竹心(ちくしん・藪内、茶人) D 2 8 2 3  
宗直(むねなお・藤木) → 寂源(じゃくげん:法諱・一如;号、社僧/書) V 2 1 9 4  
宗直(むねなお・土屋) → 喬直(たかなお・土屋つちや、幕臣/旗本) Y 2 6 3 1  
宗直(むねなお・北川) → 尚亭(しょうてい・北川/寺西、藩士/儒者) U 2 2 3 8
- B4296 **棟仲**(むねなか・平たいら、重義男)?- ? 1059存 母;関白藤原道隆女(藤原高節養女)、平安期廷臣;1025蔵人検非違使として丹生使を勤める、周防守/因幡守/従五上、教成のりげの弟、周防内侍・律師朝範・忠快の父、歌人;和歌六人党の1、1038権大納言師房歌合参加、歌合講師;袋草子に証歌偽作の逸話、兄教成・甥基綱も歌人、1039内侍所御神楽・40神楽の歌人、勅撰;後拾遺集2首(589/1066)、  
[思ひかねかたみに染めし墨染の衣にさへも別れぬるかな](後拾遺;哀傷589)、  
(父重義の服喪明けの日の歌/続いて590に兄教成の歌)
- B4297 **宗愔**(むねなか・吉田よしだ、宗懌男/母;佐橋佳武女)1762-? 医者;1797幕府医官;家督継嗣、兵部卿/式部卿、1823「婦多良廼道の記」87「歴代名医一覧」、「寒窓随筆」「読傷寒論俗解」、  
[宗愔(;名)の幼名/号]幼名;七之丞、号;如草、  
宗仲(むねなか) → 宗仲(そうちゅう、「韻鏡」開版/連歌) I 2 5 4 4  
宗仲(むねなか・川田) → 喬遷(きょうせん・川田かわた、藩士/儒者) O 1 6 2 5

- B4298 **宗長** (むねなが・難波なんば、別名; 宗親、難波頼経男/本姓; 藤原) 1164-1225<sup>62</sup> 祖父難波頼輔の養子、  
 廷臣; 後鳥羽天皇の側近; 寵臣/1189源義経の腹心の父の配流に連座し解官/のち復官、  
 1208刑部卿/14従三位/25病で出家、難波流蹴鞠の祖、歌人: 1200「院当座歌合」参加、  
 1208「蹴鞠譜六次第」、新続古今集1771、飛鳥井雅経の兄、宗教の父、  
 [野辺の色は朝おく霜にむすぼほれうらみによわる葛の下風] (新続古; 1771/院歌合)
- B4299 **宗長** (むねなが・紀き/家名; 高橋、宗信男) ?-? 鎌倉後期1278-93頃廷臣; 代々御厨子所預; 1282継嗣、  
 正五下左馬頭/1289安藝守・豊前守、「懸盤之図」画、「厨事類記」「御祠堂御膳之図」著
- C4200 **宗長** (むねなが・安倍あべ、有長男) ?-? 1347存 鎌倉南北期廷臣; 天文博士/雅楽頭/従四下、  
 足利直義の室の着帯の祓いを行う、歌: 風雅1510、  
 [松かげの水せきいれてすみよしの岸のうえ田に早苗取るなり] (風雅集; 雑1510)
- C4201 **宗条** (むねなが・松木まつきの/家名; 中御門、宗保男/本姓; 藤原) 1625-1700<sup>76</sup> 母; 広橋兼勝女、  
 廷臣; 1654参議/75正二位/88内大臣、「御正殿御庭作記」「後西天皇御即位次第」著、  
 [宗条(;名)の初名/法号] 初名; 宗良、法号; 浩妙院
- D4256 **宗長** (むねなが・伊藤いとう) ?-? 江中期; 美濃岩手の旗本竹中家の家老、千家流茶人、  
 菊舎尼の茶道の師、  
 [宗長(;名)の号] 自然齋じねんさい/桜雲亭/桜寧舎
- 宗永 (宗長むねなが・山口) → 正弘(まさひろ・山口やまぐち、武将/領主) G 4 0 9 3  
 宗永 (むねなが・田村) → 建頭(たけあき・田村、藩主/故実/歌) E 2 6 3 3  
 宗長 (むねなが・源) → 通清(みちきよ・源みなもと、廷臣/歌人) B 4 1 3 9  
 宗長 (むねなが・中条) → 長宗(ながむね・中条ちゅうじょう/藤原、武家/歌) P 3 2 5 3
- 4208 **宗良親王** (むねながしんのう/むねよし、後醍醐天皇皇子) 1311-85<sup>75</sup>? 母; 二条為世女の為子、  
 1325妙法院門跡、1330天台座主、元弘の乱で父に随い笠置に籠る; 1332笠置陥落;  
 幕府軍に捕縛/讃岐へ配流、1333帰京; 天台座主に復す/36一品/37還俗; 宗良と改名、  
 以後南朝の軍を率いて東国を転戦; 信濃大河原で病没、歌人; 歌会主催、家集「李花集」、  
 「征東大將軍宮編年和歌集」/1375「五百番歌合」判/76「宗良親王千首」、  
 1377「南朝内裏千首」81「新葉和歌集」編纂; 99首入、  
 [さほひめの霞の衣うちはへて袂ゆたかに春や立つらむ] (李花集: 春)  
 [宗良親王(;名)の通称/法諱] 通称; 信濃宮/信濃中書王、征東大將軍宮、法諱; 尊澄  
 宗良親王家京極(むねながしんのうけのきょうごく) → 京極(きょうごく、新葉集歌人) N 1 6 7 5
- C4203 **宗業** (むねなり・藤原、経尹男/実重の養子) ?-? 鎌倉前期期廷臣; 1200文章博士/17非参議/出家、  
 詩人; 1205元久詩歌合; 詩参加、  
 [杭酒酌花遊客盃 溢魚輸税鉤郎船] (元久詩歌合; 十七番左)
- C4204 **宗成** (むねなり/むねしげ・高階たかしな、宗章or時宗男) ?-? 鎌倉後期廷臣; 刑部権少輔/右京大夫/従四上、  
 1300高階家一族歌集「遺塵和歌集」編纂(; 自歌92首)、宗俊(成経男?)・宗円(泰重男?)の兄、  
 勅撰19首; 続拾遺(569/805/915)新後撰(4首)玉(1324)続千(4首)続後拾(2首)以下  
 [秋の夜の露よりほかの夢をだに結びもはてぬ荻の上風] (続拾; 雑秋569/荻風驚夢)、  
 息 → 成朝(なりとも・高階、歌人) H 3 2 7 7  
 → 成尚(なりひさ・高階、歌人) I 3 2 0 3  
 宗成女 (むねねりのむすめ) → 成朝姉(なりともあね、歌人) H 3 2 8 0  
 → 兵衛佐(ひょうえのすけ・新陽明門院、歌人) F 3 7 1 0  
 → 中將(ちゅうじょう・新陽明門院、歌人) G 2 8 4 0
- C4205 **宗城** (むねなり・伊達だて、旗本山口直勝2男) 1818-92<sup>75</sup> 母; 蒔田広朝女、  
 1828伊予宇和島藩士伊達寿光の養子/1829伊予宇和島藩主伊達宗紀の養嗣子、  
 1844養父隠居; 宇和島藩主襲封; 従四下大膳大夫/侍従、養父の藩政改革を継承;  
 殖産興業・軍制改革推進; 高野長英・村田蔵六を招聘、板倉志摩之助登用; 威遠流砲術改良、  
 富沢礼中を登用; 種痘所設置、福井の松平春嶽・土佐の山内容堂・薩摩の島津斉彬と四賢侯、  
 幕政に参画; 將軍候補に一橋慶喜を推し大老井伊直弼と対立; 1858安政大獄で排除; 隠居、  
 謹慎解除; 文久1861-64頃より朝幕周旋・公武合体に尽力/66イギリス公使パークスと接見、  
 アーネスト・サトウと交流、1867新政府の議定職; 戊辰戦争に抗議し辞任、69民部卿兼大蔵卿、  
 軍事外交の要職歴任; 1871清李鴻章と日清条約調印/81ハワイ国王カラカウアを接待、

侍従/伊予守/正二位、歌人：高崎正風門：「竹のひとふし」著（；正風編）、  
「伊達宗城日記」著、妻；鍋島齊直女の猶子、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[このごろはなべて柳のけふるより霞や深き春の夜の月]（大江戸倭歌；春149/月前柳）、  
[宗城（；名）の幼名/字/通称/号]幼名；亀太郎/知次郎/兵五郎、字；子藩、  
通称：亀三郎/知次郎/兵五郎/大膳大夫/遠江守/伊予守、号；南洲/藍山、法号；靖国院

宗成(むねなり・鳥山) → 松岳(すうがく・鳥山、医者/詩人) 2 3 9 6

宗成(むねなり・夏目) → 一雨(いちう・夏目なつめ、札差/俳人) C 1 1 4 4

C4206 宗愛(むねなる・高橋たかはし、宗芳男/本姓；紀) 1819-? 1867存 廷臣；御厨子所預/采女正/1845薩摩守、  
従四下、宗謙の父、「五十日物之図」1848「大嘗会日記」63「石清水社行幸絵図」外著多数

D4277 棟貫(むねぬき・隈元くまもと、旧姓；清水) 1829-1902 74 日向都城藩士、歌人；八田知紀門  
藩主島津久静ひさながの命で1862島津久光の上京に先立ち京阪探索隊に参加；  
大館晴勝・木幡栄周・豊丸勝任・山下章・坂元良敏・立山時常と京阪を探索活動、  
[棟貫（；名）の通称/号]通称；仲助/仲介、号；苔の屋

C4207 宗宣(むねのぶ・平たいら、初名；宗信、親宗男) 1177-1231 55 鎌倉期廷臣；1194和泉守/96少納言、  
1198春日神人の訴で停職；播磨に流罪/1201赦免/02兵部大助/本位に復/04宮内少輔、  
1204勘解由次官；改名宗宣/11蔵人；13事に座し除籍/21修理兼大夫/従四上/27非参議、  
従三位/1231中風病で出家；没、歌；1213内裏詩歌合参加（群書類従223所収）、  
[初瀬山花の梢にこもるなり雨うちそふる入りあひの鐘]（内裏詩歌；三番右）

C4208 宗宣(むねのぶ・大佛おさざき、宣時男/旧姓；北条/本姓；平) 1259-1312 54 母；北条時広女、武将；  
鎌倉幕臣；1297六波羅探題/1305鎌倉幕府連署/11幕府執権/従四下陸奥守、  
1312出家；没、法名；順昭、宗泰の兄、歌人；二条為世・冷泉為相・定為法印らと交流、  
勅撰27首；新後撰(343/967/1435)玉葉(5首273/367/738/907/1147)続千(8首)続後拾以下、  
[程もなく雲のこなたに出でにけり嵐にむかふ山の端の月]（新後撰；四秋343）

C4209 宗信(むねのぶ・海部あまべ) ? - ? 南北期室町幕臣？/鎌倉幕府六波羅出仕の海部但馬権守一族、  
連歌；1360頃相阿と同席(菟玖波；409)、北野社千句参加（；発句)/菟玖波；6句入、  
[月残る一夜の松の木の間かな]（菟玖波；発句2117/北野社千句に）

C4210 宗宣(むねのぶ・松木まつゆき/家名；中御門、中御門宗泰男？/本姓；藤原) 1372-? 1429存 廷臣；1409参議、  
左中将/1411権中納言/16従二位/23出家/勅勘で10数年蟄居；29赦免され参院(薩戒記入)、  
歌人；1407内裏九十番歌合参加、新続古今1665、宗継・隆濟の父  
[時鳥おのが五月のころだにもなにとそのぶの杜に鳴くらん]（新続古今；雑1665）、  
[宗宣（；名）の別号/法名] 別名；宗量（；初名）/宗教、法名；常祐

C4211 宗将(むねのぶ・徳川とくがわ/家名；松平、宗直長男/本姓；源) 1720-65 46 母；現成院(服部氏)、  
江戸青山御殿に生/1757父没；紀州藩7代藩主/従三位/権大納言、日蓮宗を厳しく排撃、  
藩政には消極的、次男重倫が家督嗣、徳川治貞・松平頼央・松平信有・内藤貞幹の兄、  
正室；徳子(今出川公詮女)/継室；高子(一条兼香女)/側室4人；八重の方(吉田家)外  
1751「挫日蓮」著、  
[宗将（；名）の幼名/通称/法号]幼名；直松、通称；常陸介、法号；菩提心院

D4286 宗信(むねのぶ・島津しまづ、継豊長男) 1728-49 早世 22 母；側室於嘉久(渋谷家貫臣女)、薩摩藩主の家、  
従四下侍従/1746(延享3)父隠居により島津氏23代当主/薩摩藩6代藩主/左近衛少将  
1748従四上左近中将/薩摩守、幼少より伊集院仁右衛門の教育/才氣煥発で将来を囑望、  
日置流弓術；東郷実明門、婚約者に徳川宗勝長女の房姫、  
1749(寛延2)江戸より帰途浮腫を発症；故国後没、弟重年が嗣、  
[宗信（；名）の別号/通称/号]幼名；益之助/初名；忠頭ただあき、通称；又三郎/薩摩守、  
法号；慈徳院

C4212 宗衍(むねのぶ・松平まつだいら、宣雄男) 1729-82 54 出雲松江6代藩主；1731(3歳)父遺領を継嗣、  
1732害虫で農作物大被害・後見の家老達が増税；享保大一揆発生/1742元服；宗衍と改名、  
従四下/侍従/出羽守、1747家老合議制廃止/小田切尚足を登用し財政改革；泉府方新設等、  
天災続き1752失敗/60幕命で叡山山門修築；財政破綻/67失意の中で息治郷に譲渡；隠居、  
1777出家、隠居後奇行の逸話多し(女性の背中に花の刺青・裸の茶会など)、  
浄瑠璃を作詞「年朝嘉例寿」(；初世豊前掾作曲)、

- [宗衍(；名)の幼名/号]幼名；幸千代、出家号；南海、法号；天隆院
- C4213 **宗信**(むねのぶ・桂かつら、別号；常政)1735-1790 56 大阪今橋中橋筋北横町・舟町の絵師；月岡雪鼎門、人物画花鳥画を得意/肉筆美人画・読本狂歌本の挿絵を描く、1769「女撰要和国織」80「狂歌両節東街道」81「狂歌五題集」88「絵本三国志」画、[宗信(；名)の通称/号]通称；源吾/源五郎/左司馬、号；雪典/眉山/通神道人/通神亭
- C4214 **宗順**(むねのぶ・藤島ふじま/家名；春原/本姓；藤原、宗韻男)1756-1821 66 京の新日吉いまひえ神社祠官、廷臣；勘解由判官、後桜町院の蔵人、歌人；小沢蘆庵門、師から託された蔵書に藤島家蔵書を合わせた「蘆庵文庫」を新日吉社で管理、[日もすがら詠ながめもあかず木の本に心とまりぬ花のした臥ぶし](短冊)、[宗順(；名)の通称/号]通称；撰津/石見/勘解由、号；松径
- E4220 **致陳**(むねのぶ・深野ふかの、旧姓；三浦)1760-1832 73 筑前遠賀郡の国学者、[；名)の通称] 与七/喜右衛門
- 宗信(むねのぶ・佐々木三郎)→宗氏(むねうじ・京極/源、武家/歌/連歌) B 4 2 0 5  
 宗信(むねのぶ・紀) → 興信(こうしん；法諱、廷臣/法師/歌人) B 1 9 4 4  
 宗信(むねのぶ・深田) → 明峯(めいほう・深田ふかだ、藩儒者) 4 3 3 5  
 宗信(むねのぶ・深田) → 慎斎(しんさい・深田/永原、明峯の養子/藩儒) O 2 2 3 8  
 宗信(むねのぶ・堀内) → 仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人) F 2 4 0 3  
 致信(むねのぶ・清原) → 致信(まさのぶ/むねのぶ・清原きよはら、廷臣) F 4 0 5 0
- E4204 **宗将側室**(むねのぶのしつ・徳川とくがわ、八重の方、旧姓；吉田)1712-1800 83 江戸の生、歌人；賀茂真淵門、紀州藩7代藩主徳川宗将むねのぶ(1720-65)の側室、徳川重倫・内藤学文/致姫(松平重富室)の母/重倫が紀州藩8代藩主を継嗣 [八重の方(；通称)の法号] 清信院
- C4215 **棟範**(むねのり・平たいら；桓武流、範家男)?-? 平安末期廷臣；右大弁/右衛門権佐、歌；1186文治二年経房家歌合参、[君が代は淀のかは水尽きもせず久しかるべき流れなりけり](経房家歌合；七番右14)
- C4216 **宗教**(むねのり・難波なんば、宗長男/本姓；藤原)1200-? 1278存 鎌倉期廷臣；刑部卿/1253従三位、1268従二位/78出家、蹴鞠に長ず、「卷書」著
- C4217 **宗範**(むねのり・赤松あかまつ、範資男/本姓；源)?-? 南北期武将；五位宮内小輔、光範・範実の兄弟、歌人；新拾遺1096、[逢ふことはかたしき衣さむしろに寝ぬ夜かさねてぬる袖かな](新拾遺；十二恋1096)
- C4218 **宗教**(むねのり・高橋たかはし、宗衡長男/本姓；紀)[1532-54]頃生-1570 廷臣；1560(永禄3)御厨子所預、従五下、1566「庖丁譜」著、宗治むねはるの兄
- C4219 **宗矩**(むねのり・柳生やぎゅう、宗厳むねよし男)1571-1646 76 母；興原助豊女、1594徳川家康の家臣、1600会津征討の功により柳生庄に采地/將軍家秀忠家光の兵法師範、関ヶ原で活躍、1629従五下/但馬守、32総目付/36大和柳生藩主、家光の「武家諸法度」制定に尽力、兵法/剣術；父[新陰流の祖]門/活人劔かつにけん、参禅；沢庵と親交、申楽・茶・華道を嗜む、「五卷書」「兵法家伝書」「柳生但馬守宗矩書状」著、三厳みつよし(十兵衛)/宗冬/義仙の父、[兵法は人をきるとばかりおもふはひがごと也 人をきるにはあらず 悪をころす也 一人の悪をころして万人ばんにんをいかすはかりごと也](兵法家伝書)、[宗矩(；名)の幼名/初名/通称/号]幼名；新左衛門、初名；宗頼、通称；又右衛門/但馬守、号；如雲、法号；西江院
- C4220 **宗得**(むねのり・田中たなか、宗二男)1625-1700 76 京の神道家；信州高遠藩主鳥居忠則に出仕、江戸住/吉川惟足門/1666岩代会津藩主保科正之に推挙され加賀金沢藩主前田綱紀に出仕、1680神事俵を下賜/1685江戸藩邸で日本書紀神代卷を講ず、「日本書紀神代私抄」著、1689「神代卷家伝聞書」編、養嗣子；式如、[宗得(；名)の通称/号]通称；平三郎/一閑、号；一閑叟
- C4221 **宗範**(むねのり・森本もりもと、号；墨流斎)?-?享保(1716-36)頃没 大和式下しきげ郡大木村の医者、和学者、1732柿本寺に柿本寺の僧らと[歌塚]の碑を建立、1723「歌塚縁起」、「和陽皇都廟陵記」著
- C4222 **宗矩**(むねのり・松平まつだいら、白河新田藩主松平知清男)1715-49 35 越前福井藩主松平宗昌の養嗣子、1721宗昌の養子/24家督；福井藩主襲封、藩政に精励；学問奨励/文武・書画・謡に通ず、

従四下侍従/兵部大輔/左近衛権少将、言行録「徳正君御出語」、「多葉粉の伽」著、  
[宗矩(；名)の幼名/号]幼名；千次郎、号；蘭谿、法号；徳正院、養子；重昌

- D4299 **宗範**(むねのり/そうはん・辻つじ、) 1758-1840<sup>83</sup> 近江坂田郡国友村の郷士、幼時より国学修学、  
茶道家；富岡友喜(小室藩茶頭)門；遠州流茶道の奥義修得、小堀宗中に奥義を再伝授、  
遠州流では[返し伝授]と称し宗範を[中興の立役者]とす、徳川將軍家の茶道師範、  
華道・書道・礼法、歌・俳諧、南画、造園に通ず、歌；[鳩のうみ]入、  
晩年；郷里で真宗に帰依；1840(天保11)没、  
国友一貫斎(幕府鉄砲鍛冶/宗範姉みわ男)の叔父、  
[宗範(；名)の通称/号]通称；又右衛門、号；供道斎/添景舎、
- D4263 **宗乗**(むねのり・朝原あさはら、宗勝男) 1764-1834<sup>71</sup> 伊予牛淵神官、歌人、  
[宗乗(；名)の初名/通称]初名；百枝、通称；肥後守
- D4296 **宗矩**(むねのり・高木たかぎ、) 1816-1882<sup>67</sup> 阿波徳島藩士/国学者；本居内遠門、維新後；中講義、  
歌人；歌集「まきの下枝」著、  
[宗矩(；名)の初名/通称/号]初名；靖、通称；政五郎/真蔵、  
号；思風/真木廼舎/不沢庵/自珍斎
- E4231 **宗矩**(むねのり・山崎やまさき、通称；正六/才八郎) ?-1884 江後期；讃岐高松の国学者/歌人、  
国学・歌；藩士友部方升まさのり(1787-1854)門、  
[なる鐘のひびき渡るか梓弓屋島に近き岡の古寺](喜岡寺きおかじでの詠)
- C4223 **宗則**(むねのり・寺島てらしま/松木、薩摩藩郷士長野祐照男) 1832-93<sup>62</sup> 薩摩出水の蘭医；八木昇平門、  
1833伯父松木宗保の養子/45家督嗣、江戸で蘭学；川本幸民・伊東玄朴門、  
1856蕃書調所教授手伝/薩摩藩主島津斉彬の侍医/1861幕府遣欧使節に随行、  
1863薩英戦争で英艦の捕虜/横浜で和議交渉、1865出水泉蔵の変名で渡英、  
1866寺島陶蔵に改名/68新政府の参与兼外国事務掛/外務卿として外交を主導、  
千島樺太交換条約・日朝修好条規を締結/岩倉の後を受け税権回復の対米交渉、  
「寺島陶蔵書翰集」、「洋靛製ようてんせい調査方書」訳、  
[宗則(；名)の通称/変名]通称；徳太郎/藤太郎/弘庵/弘安/陶蔵、変名；出水いづみ泉蔵
- D4285 **宗徳**((むねのり・清水しみず、寛一の長男) 1843-1909<sup>67</sup> 母；勢津、武蔵入間郡水富村の大庄屋、  
代々名主・広瀬神社神官、幼時より聡明；1855(13歳)学問・書道；梅沢台陽門/尊円流修学、  
国学・歌人；井上頼圀門、1862(20歳)名主；父継嗣、下邑せきと結婚；信治・一三の父、  
維新後；戸長兼民事取締役/広瀬神社神官、教育活動に尽力；自宅で寺子屋開設、  
1873広瀬神社境内に幼育学校設立、1875上広瀬村・入間川村間に渡船を開設、  
産業振興；養蚕業発展に尽力；河原宿に県内最初の機械紡績工場[暢業社]を設立、  
伝統織物魚子織なこりを改革発展；組合を創設し全国に販売、1879埼玉県議会議員、  
生糸貿易会社[同仲社]を横浜に創業；国内貿易業者の発展に尽力、1879共進会審査員、  
1885内国勸業博覧会審査官、他府県の審査員として活躍、  
1886蚕糸業組合を結成；組合長に就任；養蚕家の養成/88養蚕改良のため[公業館]設立、  
1886入間川の砂利採掘事業、1890衆議院議員、92北海道開拓に尽力；次男一三を入植、  
1895川越鉄道敷設完成/1901入間馬車鉄道建設、02入間馬車鉄道2代社長、  
しかし、養蚕・織物業不振/北海道開拓事業失敗/鉄道の負債などで理想は果せず、  
1904妻せき死没/後妻；山本八十女を娶る、1909脳溢血で没、広瀬社大櫓前に頌徳碑、  
1889「入間郡町村略誌」97「蚕業読本」1902「夢物語」著
- C4224 **致令**(むねのり・津田つた) ? - ? 幕末期江戸の儒者；西島長孫門、「蓬原居吟行」編、  
[致令(；名)の字/号]字；士春、号；蓼溪りょうけい
- B4246 **宗徳**((むねのり・寺師てらし) 1856-1912<sup>57</sup> 薩摩鹿兒島藩士；1882(明治15)大蔵六等属；  
租税局勤務、島津久光の遺命で叔父市来広貫と維新史を調査；史談会結成の中心；幹事、  
「米使日本公開日誌」訳

宗則(むねのり・堀田) → 梅園(ばいえん・堀田、商人/国学/歌) 3 6 6 3  
宗矩(むねのり・村井) → 求林(きゅうりん・村井、商家/和算家) M 1 6 9 9  
宗矩(むねのり・富田) → 無三(むさん・富田、農家/代官/俳人) 4 2 5 6  
宗徳(むねのり・藤堂) → 良精(よしきよ・藤堂とうどう、城代/大将) N 4 7 9 9

- 宗教(むねり・松木) → 宗宣(むねのぶ・松木まつゆき/中御門/藤原、廷臣/歌) C 4 2 1 0
- 4209 **棟梁**(むねはり/むねやな・在原、業平男)?-898 平安前期廷臣;蔵人、従五上/雅楽頭/左兵衛佐、左衛門佐/898筑前守、歌人:中古36歌仙の1、家集「棟梁集」(散佚;存在不明)、889頃寛平御時后宮歌合参加、勅撰7首;古今(15/243/902/1020)以下、息子;元方/息女;敦忠母(本院北方;時平室)・本院侍従(歌人)、[春立てど花もにほはぬ山里はものうかるねに鶯ぞ鳴く](古今;春15)、[秋風にほころびぬらし藤袴つづりさせてふ蟋蟀きぎりすなく](古今1020;誹諧歌、寛平后宮歌合)
- C4225 **宗梁**(むねはり・水原みずはら、別名宗濟、通称;平蔵/岩三郎/梁りょう)?-1859? 江後期近江日枝社祠官、歌、1849刊「古学通辨」、「仮字例」、北原史郎(美瑞)の父
- C4226 **宗治**(むねはる・高橋たかはし、宗衡2男/本姓;紀) 1555-89<sup>35</sup> 廷臣;1576(天正4)御厨子所預/従五下、雅楽助、「庖丁譜」「将軍家御参内御献立」著、宗教の弟、宗好の父
- D4235 **旨治**(むねはる・井上) ? - ? 三河住人、狂歌;狂歌;1666行風「古今夷曲集」入
- E4211 **宗春**(むねはる・中山なかやま、?) - 1692 佐渡河原田の神道;橋三喜(光義みよし/1635-1703)門、歌・連歌・皇典に通ず、1681(天和元)小倉実起さねおきの配流の時に自邸に寄宿;歌の贈答、小倉実起[いかにして契りや置きし此宿にちよをかさねる菊のさかつき]、返し宗春[ちきり置きし言の葉までも色そひて君にすすむる菊のさかつき][宗春(;名)の初名/通称]初名;元春、通称;新左衛門
- C4227 **宗春**(むねはる・徳川とくむね/家名;松平、綱誠20男/本姓;源) 1696-1764<sup>69</sup> 母;宣揚院梅津(三浦氏女)、尾張7代藩主;1730兄(6代藩主)の急死で家督嗣:襲封、従三位/権中納言/追贈;大納言、芝居・遊里を開設、華美奔放;吉宗の幕府と対立/1739蟄居幽閉、1731「慈忍集」「温故政要」、「享保尾陽典録」「尾陽訓」「源通春教訓」著、巷談「ゆめのあと」に業績・逸話入、[我好むことは人にも好ませ我きらひなる事は人にも嫌はせ候やうに仕しなすは甚だ狭き事にて 人の上たる者別べしてあるまじき事なり](温故政要)、[宗春(;名)の幼名/初名/号]幼名;万五郎/求馬、初名;通春、号;養拙、諡号;逞公ていこう、法号;章善院
- D4281 **宗春**(むねはる・小泉こいずみ、旧姓;坂野) 1728-99<sup>72</sup> 越前金津の歌人;冷泉為村門、
- E4216 **宗治**(むねはる・萩原はぎわら、) 1822-1906<sup>85</sup> 上野勢多郡の神官、国学者、維新後;中教正  
宗春(むねはる→そうしゅん・細川)→ 宗春(そうしゅん・細川、医者/随筆) H 2 5 8 7  
宗春(むねはる・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6  
宗治(むねはる・西尾) → 公龍(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6
- C4229 **宗尚**(むねひさ・難波なんば/本姓;藤原、飛鳥井雅章男) 1668-99 難波宗量の養子、江戸前期廷臣、侍従/1697従三位、1690「宗尚卿日記」、[宗尚(;名)の初名/法号]初名;雅広、法号;定光院
- C4230 **宗怡**(むねひさ・吉田よしだ、宗恬むねやす男) 1689-1724<sup>36</sup> 幕府医官/兵部卿、病で弟宗愷に家督譲渡、「由頤文稿」「仁学余意」「韓客筆語由頤余稿」「重編本草和名」「方制参考」著、[宗怡(;名)の幼名/号]幼名;小四郎、号;由頤/心酔
- C4231 **宗久**(むねひさ・安部あべ、通称;薩摩) 1781-1869<sup>89歳</sup> 土佐吾川郡池川村の神職、「時変記」「池川年代記」「関所逃散記」「祭祀」著  
宗久(むねひさ・末吉) → 宗久(そうきゅう・末吉、連歌/俳人) G 2 5 7 7  
宗久(むねひさ・高木) → 岸芷(がんし・高木たかぎ/細木、俳人) G 1 5 3 6  
宗久(むねひさ・玉井) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6  
宗古(むねひさ・高橋) → 宗国(むねくに・高橋/紀、廷臣) B 4 2 3 0
- C4232 **宗秀**(むねひで・大江おおえ/長井、大江時秀男) 1265-1327<sup>63</sup> 母;安達義景女、武家;正五下/甲斐守、宮内大輔/掃部頭、1282鎌倉幕府引付衆(関東評定衆)、法号;道雄どうゆう、貞広の兄、貞秀の父、歌人:伏見院宸筆判詞歌合参加、柳風和歌抄・藤葉集入集、勅撰23首;新後撰(470/1325)、玉葉(7首201/381/432/599以下)続千(5首)続後拾(2首)風雅(3首)新千(2首)新後拾(2首)、[木末こずるをばまばらになして冬がれの霜の朽葉に嵐吹くなり](新後撰;六冬470)、[ふきなれぬおとよりやがてかなしきはゆふべの荻に秋の初風](柳風抄;秋冒頭歌61)
- C4233 **宗秀**(むねひで・長沼ながぬま/中沼/本姓;藤原、長沼秀行男or祖父宗泰男)?-? 鎌倉末・南北期武家、

五位淡路守/1299鎌倉將軍家政所下文により所領安堵//左衛門尉、南北期には北朝方、歌:1311「為道十三回忌歌」、柳風抄・続現葉・藤葉集入、連歌:1355「賢俊月次連歌」参/菟玖波3句入、勅撰19首;新後撰(1133)玉葉(2032)続千(4首)続後拾(2首)風雅(3首)新千(5首)以下、[面影のうき身にそはぬ中ならばわれもや人を忘れはてまし](新後撰;十五恋1133)、[ふくかぜのつらさもしらじ咲く花のちらぬにかへる春のかりがね](柳風抄;春20)

D4253 **宗秀**(むねひで・松平まつだいら/本庄ほんじょう、宗允3男)1809-7365 本庄松平家出身;丹後宮津6代藩主、父没寺は幼少のため叔父宗発を挟み1840(天保11/32歳)家督継嗣;従四下/侍従/図書頭、丹波守/のち伯耆守、大老井伊直弼の下で寺社奉行;安政大獄を行政化;志士多数を処罰、大坂城代のち京都所司代;朝廷及び幕府内部からも反対され更迭、1852富士登山強行(※袖日記入)、1864老中;京を幕府下に置こうと幕府軍3千率い上京;企画は失敗、1866第2次長州征伐に安藝広島に出陣し指揮;劣勢濃く和平工作;部下の宮津藩士依田伴蔵を使者に立てるが射殺され失敗、のち幕府に発覚;老中罷免;家督を息子宗武に譲り隠居謹慎、維新後;本庄宗秀を名乗り新政府に出仕;伊勢大宮司など歴任、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[遠方に立つ白雲を花と見て尋ねぞ登る春の山道](大江戸倭歌;237)、

[宗秀(;名)の幼名/後名]幼名;秀次郎、後名;本庄宗秀

※袖日記;富士宮の浅間神社の門前で商を営んでいた酒粕屋の日記;

1843(天保14)-63(文久3)約20年間執筆、1852宗秀の無断登山は大名登山の最初の記録

参照 → 伴蔵(ほんぞう・依田よだ、残念さん) H 3 6 7 5

E4206 **宗英**(むねひで・那須なす、通称;文五郎)?-1875 江後期;紀伊田辺の国学者・歌人;熊代繁里門

E4227 **宗英**(むねひで・松田まつだ、) ? - 1871 江後期;近江甲賀郡信楽代官多羅尾家家臣、

歌人:[鳩のうみ]入

宗秀(むねひで・後藤) → 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 5 4

宗仁(むねひと) → 鳥羽天皇(とばてんのう、歌人) O 3 1 6 8

宗仁(むねひと・長谷川) → 宗仁(そうにん・むねひと・長谷川、武将/茶人) I 2 5 6 6

C4234 **宗平**(むねひら・鷹司たかつかさ、宗嗣男/本姓;藤原)1287-134660 鎌倉末南北期廷臣;頭中将/右衛門督、1325参議/26致仕、1329正三位、歌人;1324内裏両席御会参加/和歌御会始の奉行、連歌:菟玖波;3句入(105/314/529)、忠頼(二条良基の側近)の父、[花のかげとやなほ霞むらむ](菟玖波;一春105/前句;山里の夕は月に成にかり)

C4235 **宗衡**(むねひら・高橋たかはし、宗頼男/本姓;紀)1525-8359 廷臣;御厨子所預/雅楽助/1551若狭守、1564従四下、「庖丁譜」「手日記」、1544「御齒固の注文」/57「諒闇御膳色目」著  
宗教・宗治の父

E4221 **宗衡**(むねひら・藤原ふじわら、)1799-186668 陸奥(陸中)胆沢郡の国学者、  
[宗衡(;名)の通称/号]通称;小源吾、号;雪斎

C4236 **致平親王**(むねひらしんのう、村上天皇皇子)951-1041長寿91 母;藤原在衡女の更衣正妃、965元服、971兵部卿、976太宰帥、981出家;近江の天台宗園城寺の余慶に入室/智弁門/明王院住、勅撰2首;新古1414/続後拾969、冷泉天皇・円融天皇・昌平親王の兄弟、  
[致平親王(;名)の通称/法名]通称;明王院宮/法三宮、法名;悟円

C4237 **宗広**(むねひろ・結城ゆうき、祐広男)1266-133873 母;熱田範広女、鎌倉末南北期陸奥白河の武将、初め北条氏家臣/後醍醐天皇討幕論旨を受け寝返る/新田義貞に応じ鎌倉を陥落、建武新政府に北畠顕家と義良のりなが親王を奉じ奥羽鎮定、尊氏軍を京に破る、顕家が高師直と戦い敗死後に陸奥に赴く途中難船;伊勢漂着;病死、上野介/贈正三位、親朝・親光の父

C4238 **宗広**(むねひろ・結城ゆうき) ? - ? 1487存 室町幕府足利義尚の近臣、  
歌:1487頃「十二番歌合」参加

C4239 **宗広**(むねひろ・甲良こうら、氏広男/本姓;藤原)1574-164673 祖父は丹波長秀の匠(建仁寺流)、近江犬上郡甲良の工匠;家業継承/1596家康に出仕;幕府作事方甲良家の初代、伏見城内工事・京吉田神社造営等の功で豊後守、作事方大棟梁、江戸城改築・東照宮造営、1636致仕剃髪/近江唯念寺を創建、1636「上棟鉦初柱立伝」著、



三条院[東宮]の返歌1033、

忘れず思ひいでつつやま人をしかぞこひしく我もながむる)

- C4246 **宗雅**(むねまさ・源;村上流、雅綱男)?-1204 廷臣;刑部卿従三位/関白忠通の乳母子、娘は摂政藤原良経の乳母、九条家に出仕、「古事談」著者の源顕兼あきかねの父
- C4247 **宗雅**(むねまさ・中御門なかみかど、初名;宗基、宗平男/本姓;藤原) 1217-69<sup>53</sup> 鎌倉期廷臣;蔵人頭、左大弁、1262従三位/65参議/67正三位/69(文永6)病氣;出家/没、室;藤原信盛女、宗貫・宗冬・宗有・宗成・宗濟・信聖・範憲の父、「宗雅卿記」「改元記」「仁治御元服記」著、歌人;1263龜山殿御会参加/藤葉集入、[とはるべきたのみも過ぎて年月のうきにはよわる我がころかな](藤葉;恋459)
- C4248 **宗政**(むねまさ・池田いけだ、藩主池田継政男) 1725or27-64<sup>40-38</sup> 母;伊達吉村女、備前岡山藩主;1752襲封、弾正大弼/伊予守/従四下侍従、文武に秀で書画・歌を嗜む、1739-64「宗政公日記」著、正室;黒田継高女の藤子、治政(藩主)・相良長寛の父、[宗政(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;峯千代、初名;尚政、通称;茂十郎/弾正大弼、号;恒嶽/流霞楼/燕々子、法号;寿国院
- E4207 **宗正**(むねまさ・那須なす、嘉当よしまさ男) 1848-1917<sup>70</sup> 紀伊田辺の商家;三栖屋、国学者;熊代繁里門、1889頃繁里同門の宇井可道よしみち中心に同族那須宗道らと晚桜社を結成;歌会開催、[宗正(;名)の通称/号]通称;平七郎、号;桃園/娛夢庵千々丸、屋号;三栖屋  
宗正(むねまさ・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4  
宗将(むねまさ・徳川) → 宗将(むねおぶ・徳川とくがわ/松平、藩主/文筆) C 4 2 1 1
- C4249 **宗増**(むねまさ・信濃小路しのこうじ、淡路守) 1578-1646<sup>69</sup> 安桃-江初期官人;九条家の諸大夫、従五上、狂歌作者、「宗増両度百首」著、1666行風「古今夷曲集」35首入 [ぐどぐどとするまに春はつき弓の矢をいるやうに日は立ちにけり]、(古今夷曲集;春歌101/光陰矢の如しを踏まえる/はる・矢・立つが弓の縁語、つき弓は槻弓と尽きとの掛詞)
- C4250 **宗益**(むねまさ・立入たてり、直貞男) 1674-1743<sup>70</sup> 禁裏上御倉職/従五下伊勢守、経康つねやすの父、「立入宗益記」著、「上御倉家譜」編
- C4251 **宗通**(むねみち・藤原ふじわら、俊家男) 1071-1120<sup>50</sup> 母;源兼長女、廷臣;1094参議/95正三位、1101正二位/11権大納言/中宮大夫、幼少時に白河天皇に養育され天皇の近臣として活動、[天下之権威傍若無人也](;中右記)と称される、「藤原宗通日記」、歌人;1091・92[左近権中将宗通家歌合]主催、93郁芳門院根合・95郁芳門院前裁合参加、勅撰2首;金葉564/新勅274、[草枕さこそは旅のとならめけさしもをきて帰るべしやは](金葉;564)、(行尊僧正が邸に一泊し独鈷とを忘れたので返す歌/床と独鈷・霜と強意助詞を掛る)、[宗通(;名)の幼名/号]幼名;阿古丸、号;坊門、宗俊・基俊の弟、伊通・季通・成通の父
- C4252 **宗倫**(むねみち・倉田くらた、通称;本右衛門)?-? 江前期剣術家;森牛之助友庵(柳生十兵衛門下)門、師森友庵の大円鏡智流から1681[克己流]を創始、井沢蟠竜「武士訓・刀劍の条」を批判、1723「打出杭」著、安丸之勝の師
- E4202 **宗道**(むねみち・時尾ときお、旧姓;時岡) 1817-62<sup>46</sup> 備前邑久郡の神職;黒住教;黒住宗忠門、宗忠没後6高弟の1人として布教活動、[宗道(;名)の号]克太郎  
☆ 6高弟;時尾宗道・石尾乾介けんすけ・河上忠晶・赤木忠春・星島良平・森下景端
- D4287 **宗道**(むねみち・田村たむら、旧姓;松岡) 1839-1909<sup>71</sup> 紀伊田辺藩士、国学者者、のち田辺の鬮鶏神社社司、[宗道(;名)の通称/号]通称;民次、号;懷善
- E4205 **宗道**(むねみち・那須なす、道一みちかず長男) 1848-1914<sup>67</sup> 紀伊田辺の商家;三栖屋の生、国学者;熊代繁里門/1889頃繁里同門の宇井可道よしみち中心に晚桜社を結成;歌会開催、[宗道(;名)の通称]小八郎(父の称継嗣)
- C4253 **宗満**(むねみつ・黒田くろだ/家名;京極、京極満信男/本姓;源) 1279-1357<sup>79</sup> 近江伊香郡黒田邑の住、筑前黒田家の祖、武家;従五下/左衛門尉、1301出家、歌人;風雅集1832、[なげくべき事をあまたの身のうさにまづは涙のなにに落つらむ](風雅;十七雑1832)

- D4232 **宗光**(むねみつ・藤原ふじわら) ? - ? 左金吾[左衛府の唐名]、鎌倉幕府御家人/將軍側近の武士、  
 早歌作者;1319?月江「別紙追加曲;鹿島靈驗/同社壇切」作詞  
 藤原宗光には2説 二階堂宗光説 (外村説)  
 中宗光(敦宗男)説 (井浦説)
- C4254 **宗光**(むねみつ・柳原やなぎはら、資明すけあきら男/本姓;藤原)1322-47早世26 母;法印大僧都実耀女、  
 鎌倉南北期廷臣;春宮大進/左兵衛佐/春宮亮歴任;三事兼任/正四下左中弁;没、  
 歌人;持明院統歌壇で活動;1344仙洞歌会/46仙洞三首歌会・仙洞歌会に参加;講師、  
 風雅集1396、  
 [恨みしをわがうきふしになしやはつるそれよりたえし中ぞと思へば](風雅;恋1396)
- C4255 **宗満**(むねみつ・松木まつきのき/家名;中御門/本姓;藤原、飛鳥井雅教男)1537-9357 松木まつきのき宗藤の養子、  
 廷臣;1575参議/81権中納言/87正二位/93出家;没、連歌;1577「何人百韻」、  
 1590「陽光院を悼み奉る詞」、「陽光太上天皇昇遐記」著、  
 [宗満(;名)の初名] 宗房
- C4256 **宗光**(むねみつ・帖佐ちやう)1560- 161657 薩摩島津家の家臣/武将、小田原・朝鮮・関ヶ原に従軍、  
 1780-1611「帖佐彦左衛門日記」著、  
 [宗光(;名)の通称/法号]通称;彦左衛門、法号;竹隠栄修居士
- D4292 **宗充**(むねみつ・伊達だて、村良4男)1787-184357 陸奥登米郡登米邑主;登米伊達家第11代当主;  
 1803(享和3)兄村幸没により家督嗣;陸奥仙台藩一門第5席;幸充と改名/さらに宗充に、  
 小島・赤生津村の開墾事業・北上川などの堤防修築、正室;常子姫(片倉村典女)、  
 齊邦(仙台藩12代藩主)・邦寧・大立目充宣の父、  
 [宗充(;名)の別号/通称]幼名;秀之助、初名;幸充、通称;右京/民部/右近/式部/長門
- C4257 **宗村**(むねむら・伊達だて、初名;久村ひさむら、吉村よしむら男)1718-175639 母;久我通名女の貞子(長松院)、  
 仙台6代藩主;1743襲封/従四上左近権中將/越前守/陸奥守、田辺希賢・希文らの進講を受、  
 馬・槍・劍・軍・砲術を修学/歌人;家集「花影はなかげ集」「続花影集」編、「四季の詞」「庭の雪」著、  
 「武蔵野の道の記」著、「御先代様方御詠歌」「政徳院殿故羽林中將忠山浄信公御自詠」著、  
 治世については「忠山公治家記録」に詳しい、  
 正室;雲松院温子(峰姫/利根姫;紀伊藩主徳川宗直2女/吉宗の養女)、  
 側室;性善院信子(坂信之女/於世勢の方1719-63、重村・愷姫・堀田正敦の母)  
 側室;證子(於理久の方/蓮台院/佐野宗智女、土井利徳の母)  
 側室;豊(瑤池院/橋本秋長女、村倫の母)  
 側室;静子(於留代の方/尚賢院/安田義高女)  
 側室;円智院(静/於喜与の方/林通明女/林子平の姉、土井利置・方子[松平治郷室]の母)  
 側室;於登恵の方(惟善院/丹野敬之女)・側室;諫貞院(石川定道女)  
 [宗村(;名)の幼名/号]幼名;勝千代/総次郎、号;忠山、法号;政徳院
- E4228 **宗邑**(むねむら・峰岸みねぎし) ? - 1815 江戸の国学者・歌人;加藤景範門、  
 大坂城代堀田相模守家の家士、  
 [宗邑(;名)の通称/号]通称;宗古、号;松濤庵、法名;空阿  
 棟持(むねもち・設楽) → 滴水(てきすい・設楽じだら、医者) C 3 0 0 4
- C4258 **棟基**(むねもと・平たいら) ? - ? 鎌倉期廷臣;勘解由次官、詩;1213内裏詩歌合参加、  
 [両来柳色裊含露 霞底桃顔醉話春](内裏詩歌;廿五番左)
- C4259 **宗基**(むねもと・高橋たかはし、安藝守宗俊男/本姓;紀) ?-? 南北期廷臣;1312-42頃御厨子所預/備前守、  
 1341従四下民部少輔、歌;新千載752、連歌;菟玖波集3句入、宗藤の父、  
 [たのめおくかごととばかりに東路の道のはてまで思ひこそやれ](新千載;離別752)、  
 (常陸国へまかる人に贈る歌)
- C4260 **宗元**(むねもと・土岐浜ときはま、通称;豊後入道) ?-? 戦国期歌人;東とう中務丞門、  
 1494東家古今伝授を受(古今集注の或聞書中)
- C4261 **宗基**(むねもと・斎藤さいとう/本姓;藤原) ?-? 室町幕臣/遠江守、奉行人、  
 歌人;1503-5頃「武家歌合」参加、  
 [春はなほ霞へだててまきもくの檜原が奥ぞ深みどりなる](武家歌合;二番左)
- C4262 **宗基**(むねもと・二条にじょう/本姓;藤原、九条幸教男)1727-54早世28 右大臣二条宗熙の養嗣子、

江中期廷臣、1740従三位/45内大臣/49右大臣/52従一位、54致仕;没、書家、  
1749「岡崎国久卿九十賀和歌」、「寛延度大嘗会辰日次第記」

- D4252 **宗翰**(むねもと・伊達だて、伊達村寿4男)1796-1845 50歳 伊予宇和島藩主の家に生、  
1816(文化13)伊予吉田藩主伊達村芳の婿養子:村芳の長女於敬と結婚/養父隠居、  
家督継嗣;伊予吉田藩襲封/従五下紀伊守、藩財政再建;1822俵約令制定、  
1832年(天保3)大飢饉などで財政悪化;窮民救済に尽力、文武を奨励、1843隠居、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[花咲けば流るる水にかげ見えて梅津の川の風ぞかをれる]、  
(大江戸倭歌;春133/川辺梅)、  
[宗翰(;名)の幼名/通称]幼名;左京、通称;伊織/駒次郎、法号;大法院  
宗元(むねもと・近藤) → 瓶城(へいじょう・近藤こんどう/安藤、儒者) B 2 7 5 2  
宗基(むねもと・斎藤) → 玄勝(げんしょう;法諱、廷臣/歌僧) C 1 8 1 3  
宗基(むねもと・中御門) → 宗雅(むねまさ・中御門なかみかど/藤原、廷臣/記録) C 4 2 4 7
- C4263 **宗盛**(むねもり・平たいら、清盛男/重盛の弟)1147-85 斬殺39 武将/従一位内大臣、源義仲に敗れ都落、  
壇ノ浦で捕縛/1185近江で処刑  
宗弥(むねや・林) → 風草(ふうそう・林はやし、商家/俳人) 3 8 8 8
- C4264 **宗安**(むねやす・中原なかはら) ? - ? 鎌倉前期廷臣;散位、歌人、  
1201(建仁元年9月)和歌所影供歌合(宮内卿らと参加)/03影供歌合参加(九条良経らと)、  
[たれとはむほとりをしまの夜半の雨あはれも秋も深草の里](和歌所影供;五番右10)
- C4265 **宗泰**(むねやす・長沼ながぬま/中沼/本姓;藤原、長沼時宗男)?-? 1283存 鎌倉期武家/幕府御家人、  
左衛門尉、歌人/勅撰8首:続拾遺(519)新後撰(1233)玉葉(1914)続千(1395/2148)以下、  
[嵐吹く木末こぎょうつろふ花の色にあだにも残る峰の白雲](続拾遺;七雑春519)、  
[宗泰(;名)の通称/法名]通称;又四郎左衛門、法名;覚源
- C4266 **宗泰**(むねやす・大佛おさらぎ、宣時男/家名;北条/本姓;平)?-? 鎌倉後期武将/民部少輔、執権宗宣の弟、  
貞直の父、歌人;宇都宮歌壇の1、冷泉為相「拾遺風体和歌集」入集、  
勅撰3首;新後撰(987)玉葉(886)続千(419)、  
[ふけぬるはこぬ人ゆゑにうきものをまたれがほにもいづる月かな](新後撰;恋987)
- C4267 **宗泰**(むねやす・中御門なかみかど、宗重男)?-1380 南北期廷臣;1373参議/77権中納言/78正三位、  
宗宣の父、歌人;三条公豊主催「三十首歌会」参加、新続古今集1344、  
[まどろまぬ今朝のまたねの床にだにつらき別れは夢かと思ふ]、  
(新続古;1344/三十首歌会)
- C4268 **宗康**(むねやす・丹波たんば、親康男)1505-29 早世25 医者;父門、1519宮内少輔/26従四下/28典薬頭、  
口科を専門、「口科秘決」「口中之書」「口中奇方」「丹波宗康口科書」「兼康家秘伝方」著
- C4269 **宗泰**(むねやす・立入たてり、康善やすし男)?-? 安桃・江初期1596-1615頃廷臣;代々禁裏上御倉職、  
1611正六上/左京進、1601「御讓位御即位御下行帳」著
- D4293 **宗泰**(むねやす・伊達だて、通称;愛知丸/参河守、政宗4男)1602-39 37 母;側室祥光院/伏見屋敷生、  
1603(慶長8)父政宗が仙台青葉城に移城;愛知丸が玉造郡の岩出山城主;知行3000石、  
傳役に山岡重長、1614元服;改名宗泰/1625(寛永2)正室;伊達宗利女(池照院)を迎える、  
1627(寛永4)陸奥国仙台藩一門第八席・岩出山伊達家初代当主;従五下・三河守/10670石、  
以後;藩命で江戸に常駐;大名並の勤務、側室;服部意伯女(瓊林院):宗敏(1625-78)出産、  
1639(寛永15)江戸に没、宗敏が家督嗣
- C4270 **宗恬**(むねやす・吉田よしだ、初名;宗運、宗恪男)1657-1720 64 幕府医官:1682家督嗣/86法印/89奥医、  
1692御匙/93辞職;寄合医/1717奥医に再任、「飲撰摘要」「懷巻鍼灸暑」「家秘約囊方」著、  
[宗恬(;名)の幼名/通称/法号]幼名;岩麻呂、通称;宗運/意安、法号;如雲、宗怡(むねひさ)の父
- D4259 **宗泰**(むねやす・久野くの) ? - ? 江後期;歌人、藩士?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[雲はみな取りはててほのぼのと雪よりあくる遠かたの山](大江戸倭歌;冬1281遠山雪)
- E4224 **宗恭**(むねやす・前田まえだ、)1802-1855 54 大隅種子島の国学者・歌人;八田知紀門、  
種子島に桂園派歌道を広める、豊山ほうざん(1831-1913)の父、  
[宗恭(;名)の字/通称/号]字;伯敬、通称;十九郎、号;紫州

- C4271 **宗恭**(むねやす・伊達だて、通称; 広助)?-? 江戸後期最上流和算家; 佐藤一清(1820-70頃)門、「算法円理一問解」編  
 宗保(むねやす・高橋) → 宗芳(むねよし・高橋/紀、廷臣/記録) C 4 2 9 0  
 宗康(むねやす; 俗名) → 善如(ぜんにょ; 号・俊玄; 法諱、本願寺4世) G 2 4 4 8  
 棟梁(むねやす・在原) → 棟梁(むねはら・在原、歌人) 4 2 0 9
- 4210 **宗于**(致行むねゆき・源みなもと; 光孝流、光孝天皇皇子是忠親王男)?-939 894(寛平6)源姓/臣籍降下、兵部大輔/右馬頭/933右京大夫/939(天慶2)正四下; 没、歌人; 892頃寛平御時后宮歌合・898亭子院女郎花合参加、36歌仙の1、家集「宗于集」、紀貫之と交流/大和物語に説話入/閑院大君の父、古今六帖・和漢朗詠等入、勅撰16首; 古今(6首24/182/315/624/788/801)後撰(3首)新勅(2首)続千(2首)続後拾以下、[山里は冬ぞさびしさまさりける人めも草もかれぬと思へば](古今集; 六冬歌315)
- C4272 **宗行**(むねゆき・藤原/葉室、別名; 行光、行隆男)?-1221**誅殺** 鎌倉期廷臣; 1204少納言/18権中納言、正三位/1221承久変で院方に加担; 被誅、詩人; 1205元久詩歌合; 詩参加、母; 美福門院越前、行長の弟、[松県花芳輪酒地 浮梁風暖売茶人](元久詩歌合; 廿三番左)
- C4273 **宗行**(むねゆき・藤原ふじわら、宗茂男)?-?**夭逝** 南北期廷臣; 五位蔵人/下野守、大炊御門小路箒(勅撰作者部類入)、勅撰6首; 玉葉(1986)続千載(675/1358/1492)風雅(1547)新千載(2033)、[月影にわけいる野辺のかへるさは露なき草ぞしをりなりける](玉葉; 十四雑1986)
- C4274 **宗行**(むねゆき・平たいら) ? - ? 鎌倉南北期連歌作者; 菟玖波集; 2句入(645/999)、[しきみ摘あかつき露の玉たすき](菟玖波; 645/前句; かけて心に頼む法かな)
- C4275 **宗歴**(むねゆき・朽網くたみ、入田親廉男)?-1586 朽網親満没後継嗣/豊後直入郡朽網の豪族、大友家の家臣; 宗麟・義統の加判衆/大友家の処遇に不満; 1586島津勢を豊後に導く、「朽網家年中掟書」著、[宗歴(;名)の別名/法号]別名; 市正/鑑康/鑑安(あきやす?)、法号: 救民院
- C4277 **致之**(むねゆき・三上みかみ) ? - ? 江中期兵学者; 首藤通興門/甲州古伝流を修学、初め故あって変名で隠棲; のち筑後久留米藩主有馬頼貴に出仕、1790頃江戸桜田に開塾、「城制類聚」「水戦考」「築城要法」「事原」/1792「孫子集説」、[致之(;名)の通称/号]通称; 庄兵衛、号; 環斎/信盈
- C4278 **宗之**(むねゆき・三井みつひ、元之男)1821-7555 代々大坂の眼科医; 家業継嗣/歌人; 熊谷直好門、1845直好「浦の汐貝」編/序、[宗之(;名)の字/号]字; 孟君、号; 孤鳳、  
 宗之(むねゆき・久貝) → 蓼湾(りょうわん・久貝くがい、幕臣/詩人) J 4 9 6 9  
 宗之(むねゆき・水原) → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4  
 宗子女(むねゆきのむすめ・源) → 閑院大君(かんのいんのおおぎみ、後撰歌人) D 1 5 4 1
- C4279 **棟世**(むねよ・藤原ふじわら、保方男)?-? 平安期廷臣; 筑前・山城・摂津守/左中弁/正四下、清少納言と結婚; 女のコマ(小馬命婦)誕生、重通(朱雀院判官代/従五下)の父
- C4280 **宗能**(むねよし・藤原ふじわら、初名; 宗隆、宗忠男)1085-117086 母; 藤原行房女、廷臣; 1131参議、1132従三位/1143正二位/61内大臣/64致仕/68出家、有職故実精通; 催馬楽の名手、「中内記」「仗坐図」「県召除目次第并作法」/1165「直物抄」著、歌人; 1117内裏歌合/34中宮亮頭輔家歌合参加、「朗詠九十首抄」、万代集入集、[あかなくに惜むもしらず傾くも思ひくまなき秋の夜の月](頭輔家歌合; 二番左3)、[宗能(;名)の通称]新中納言(; 頭輔家歌合)/中御門内大臣なかがみかどのないだいじん
- C4281 **宗良**(むねよし・藤原ふじわら、忠俊男)?-? 平安後期廷臣; 河内守/従五下、藤原良基(後拾遺歌人)の甥、歌人; 1121(保安二年閏五月十三日)内蔵頭長実白河家歌合参加(; 散位宗良名)、[照る月をながめぬ夜半はなけれどもあかでも年の老いにけるかな](長実歌合; 五番右)
- C4282 **棟義**(むねよし・斯波しば/家名; 石橋、斯波和義男/本姓; 源)?-? 南北期1362-87頃の武将; 五位陸奥守、1367常陸の吉良氏の叛乱鎮圧に起用され奥州を本拠に軍事指揮; 国人層に背れ一族没落、歌: 新後拾遺1052、

[恋ひしなぬ身のためつらき命ともさてながらふる契にぞしる](新後拾遺;恋1052)

- C4202 **宗巖**(むねよし・柳生やぎゅう、号;石舟斎)1527-1606 戦国期大和柳生庄の土豪/剣術家;上泉秀綱門、柳生新陰流の祖、松永秀久の家臣/家康の家臣、宗矩むねりの父
- C4283 **宗好**(むねよし・高橋たかはし、宗治男/本姓;紀)1589-1647 59 廷臣;御厨子所預/雅楽頭/従五下、1627民部大輔/41致仕/45出家、宗定の父、「庖丁譜」「將軍家御参内御献立」著、
- C4284 **宗賀**(むねよし・甲良こうら、宗次男/本姓;藤原)1628-1717 長寿90 幕臣;幕府作事方甲良家3代目、宗広の孫、江戸城の普請・修復/日光東照宮造営/1653豊前の称を許可;五位、1677作事方大棟梁、1699致仕;出家/1702善光寺本堂再建依頼を受け1707竣工、「工匠式」著、宗員むねかずの父、  
[宗賀(;)名]の別名/通称/号]別名;助五郎(;)初名)/宗清、通称;豊前、号;宗賀そうが(;)出家号)
- C4285 **宗敬**(むねよし・長沼ながぬま;本姓、津田長政男)1635-90 56 源頼朝家臣長沼宗政の末裔/播磨明石の生、1640(6歳)父と死別/明石藩主松平[戸田]光重庇護の下移封先的美濃加納城下で成人、儒;円明院僧門/甲州流兵学を習得、1652美濃加茂藩近習/1656致仕、江戸に出る、一時筑後久留米藩主有馬家に出仕;1668致仕、浪人中に中国兵法を修学研究;長沼流兵学を確立;その祖となる、1682明石藩主松平直明に出仕;退任し大坂に出る、山城伏見に閑居;門人の育成、「長沼流握奇集解」「長沼流古学談聞書」「兵要録」、「握奇集解」「握奇八陣集解」「火器隊略説」「軍語」「四箇口義」「兵要録筆授」外著多数、  
[宗敬(;)名]の幼名/別名/通称/号]幼名;鶴千代、別名;広敬、  
通称;伝次郎/三左衛門/外記、号;澹斎たんざい
- C4286 **宗良**(むねよし・田村たむら/鈴木/本姓;坂上、仙台藩主伊達達宗男)1637-98 62 母;三田村家女の於房、伊達家功臣鈴木元信を継嗣/1653伊達政宗室陽徳院の遺言で田村家を再興、初代陸前岩沼藩主;3万石/従五下右京亮/隠岐守、藩主伊達綱村(2歳)の後見人として伊達宗勝と原田甲斐と共に就任、1671伊達騒動の責任を問われ閉門;72赦免、文武に長ず、「瑞雲院殿日記」著、  
[宗良(;)名]の幼名/通称/法号]幼名;亀千代、通称;右京、法号;瑞雲院
- C4287 **宗義**(むねよし・手島てしま/初姓;富永/別姓;上河、号;蓋庵)?? 奈良の富永家の生/京の近江屋主人、妻;上河家の女、心学者、手島堵庵の父、1727「商人夜話草」、「塵とり」「子弟訓」
- D4260 **宗義**(むねよし・丹羽にむ)1726 - 1822 長寿97歳 美濃苗木の儒者;飯田藩儒臣加藤尚質ひさただ門、信濃飯田藩士、歌人;桃沢夢宅・香川景樹門、ひで(歌人)の父、義則の祖父、  
[宗義(;)名]の通称] 弾右衛門
- D4274 **宗嘉**(むねよし・城島きよま、旧姓;吉島)1729-1896 68 肥前小城藩士、茶・歌人;村崎宗肅むねかね(ト斎)門、  
[宗嘉(;)名]の通称] 徳斎
- C4288 **宗好**(むねよし・間宮まみや)1762?-1836 75? 尾張丹羽郡扶桑村の国学者、「美濃雑事紀」編/1782「神社順拝記」、  
[宗好(;)名]の通称/号]通称;勘右衛門、号;算耆亭/ト鱗
- E4208 **宗芳**(むねよし・中小路なかこうじ/本姓;菅原、)1764-1842 79 京の廷臣;京極宮に出仕、長岡天満宮社司、和学者・歌人;有栖川職仁よりひとし親王門、  
[いつしかと今年も半は杉の戸を明る外面に秋風そ軟ふく](短冊)、  
[宗芳(;)名]の通称/号]通称;槌五郎/山城、号;鶴翁
- C4289 **宗栄**(むねよし・広瀬ひろせ、内海うつみ重清男)1774-1853 80 丹後田辺藩士広瀬宗武の養嗣子、京留守居代/勘定奉行兼蔵奉行、和漢学修得/石門心学を修学;藩内普及/求心舎で講義、1851「田辺孝行子伝」著、  
[宗栄(;)名]の通称]伝吉/善兵衛/季十郎/主税ちから
- C4290 **宗芳**(むねよし・高橋たかはし、初名;宗保、宗孝男/本姓;紀)1794-1843 50 廷臣;御厨子所預/采女正、1816若狭守/34従四下、1808「新嘗祭雑記」18「大嘗会日記抄」40「諒闇類聚抄」外著多数  
宗愛むねなるの父
- C4291 **致美**(むねよし・山本やまもと) ? - ? 江後期伊予大洲の医者、1858ドイツ人フーフランド「扶氏診断」訳(付 生理学総論)、  
[致美(;)名]の号] 節庵/遮莫楼
- D4264 **致美**(むねよし・伊舟木いばらき)1830-64 35 播磨姫路藩士、国学;秋元安民門、

[致美(；名)の通称] 宗一郎/源一郎

棟吉(むねよし・桂田) → 竜山(りゅうざん・桂田かつらだ、医者/国学) E 4 9 1 5  
宗好(むねよし・岡本) → 宗好(そうこう・岡本おかもと、歌人) B 2 5 4 9  
宗善(むねよし・興山) → 好継(こうけい・興山、武士/歌人) I 1 9 3 8  
宗善(むねよし・伊勢村) → 重安(じゅうあん・伊勢村、仏師/俳人) G 2 1 7 9  
宗義(むねよし・伊達) → 斉義(なりよし・伊達だて/田村、藩主) N 3 2 7 0  
宗義(むねよし・山下) → 利章(としあき・山下、藩士/古文書整理) L 3 1 9 6  
宗良親王(むねよししんのう) → 宗良親王(むねながしんのう、天台僧/南朝/歌人) 4 2 0 8

D4243 致頼(むねより・平たいら、通称;平五大夫、公雅男)?-1011 平安中期武将;四天王の1、廷臣;従五下、備中掾、998同族平維衡と合戦;位階剥奪/隠岐配流、1001斜面のち藤原伊周に接近;道長暗殺計画(未遂)に参加、優れた4人の武将の1(十訓抄)

C4292 宗頼(むねより・高橋たかはし、宗国長男/本姓;紀) 1494-1546 53 廷臣;1520御厨子所預/雅楽助、1533(天文2)若狭守、民部大輔/1546従四上、「御厨子所預柑類座人」著、1546「庖丁譜」著

E4230 宗頼(むねより・八木やぎ、重頼男)?-? 戦国期但馬の武将;山名家の家臣、詩歌人;正月に詩詠、1465(寛正6)3月將軍足利義政の洛北大原野花見盛會に主君山名宗全と参加、1467応仁乱後;五山僧と詩の交流、1480(文明12)頃山名政豊下国に従い1481但馬守護代、在国中;大徳寺春浦宗熙に詩を贈る、和漢精通の武将;詩・歌・連歌に精通、1483(文明15)山名政豊軍が播磨との国境真弓峠で赤松政則軍に勝利し南下;1484(文明16)播磨野口合戦で宗頼は北野神像(道真像)を発見;横川景三に賛辞を依頼、以後は史料なく没年不詳、息子4人;遠秀・豊賀・貞直・宗世、曾孫に豊信がいる、

C4292 宗頼(むねより・高橋たかはし、宗国長男/本姓;紀) 1494-1546 53 廷臣;1520御厨子所預/雅楽助、1533(天文2)若狭守、民部大輔/1546従四上、「御厨子所預柑類座人」著、1546「庖丁譜」著

D4280 宗頼(むねより・桑折こおり/くわおり、石母田景頼男) 1603-81 79 江前期;伊予宇和島藩士;伊達家家臣、父の代で桑折に改姓/宇和島藩城代家老、7千石、国学者/歌人、藩主伊達秀宗男宗臣(宗明)が養嗣;家督嗣、

[宗頼(；名)の通称/号]通称;万蔵/中務/左衛門/但馬、号;牧松軒/不伝居士

宗頼(むねより・柳生) → 宗矩(むねり・柳生やぎゅう、藩主/兵法家) C 4 2 1 9

C4293 無能(むのう;法諱・守一;字、俗姓;矢吹) 1683-1719 37 岩代石川郡須釜の浄土僧;桑折大安寺良道門;得度、山崎専称寺良通門;名越派修学/下総飯沼弘経寺で修学、江戸増上寺で日課念仏の行、専称寺に戻り良通より宗戒兩脈を受く、1704専称寺仏前で日課念仏一万遍と不犯を誓う、1713伊達郡小島梅松寺の寓居で姪根を断ち常座不臥の生活;作歌し庶民を教化、「観心詠歌集」「いろは和讃」「発願和讃」「近代奥羽念仏験記」、「無能和尚和讃集」外編著多、[無能(；法諱)の別法諱/法名]別法諱;学運、法名;興蓮社良崇

無能(むのう;号) → 泰洲(たいしゅう;道号・弘恭;法諱、黄檗僧) K 2 6 2 0

無能(むのう・梅津) → 六車(ろくしゃ・梅津うめづ、書家/日記) 5 2 9 0

無能子(むのうし) → 友次(ゆうじ・吉田よしだ、俳人) C 4 6 1 7

夢梅(むばい) → 稻坂(とうは・松岡、藩士/俳/詩/書) G 3 1 9 0

夢梅軒(むばいけん) → 章峰(しょうほう・夢梅軒、通俗本作者) B 2 2 6 0

C4294 夢泊(むはく) ? - ? 戦国期歌人/僧?, 1560「四季分類歌集」編

C4295 鷓白(むはく) ? - ? 俳人;1688不卜「続の原」入、[碁に飽きて幾度いくたびも見る木の目哉](続の原;十一番右22/評;心至りて詞未だ至らず)

無帛(むはく・中尾) → 樗軒(ちゅうけん・中尾、鑑定/文筆) K 2 8 3 6

無範和尚(むはんおしょう) → 光厳天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9

D4245 無比(むひ;道号・单況たんきょう;法諱)?-? 南北朝臨濟僧;虎関師錬門;嗣法、攝津報国寺を開山、延文1356-61頃法兄竜泉令淬に勧めて師錬「元亨釈書」を大蔵經に入;勅許される、「獅子筋」「獅子絃」編

夢筆(むひつ・牧野) → 竹所(ちくしょ・牧野まさの、幕臣/詩人) D 2 8 1 8

夢弼(むひつ・田岡) → 凌雲(りょううん・田岡たおか、藩士/儒者) G 4 9 4 0

務敏(むびん・野村) → 重威(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌) R 2 1 2 8

- 無不可齋(むふかさい) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8  
 無不香園(むふこうえん) → 祐雋(すけとし・久須美/藤原、幕臣/文筆) G 2 3 6 5
- C4296 夢仏(むぶつ・枝桑庵しそうあん)? - ? 江中期江戸本町の俳人;江戸雑俳の先達、折句五文字の流行を開く、門人十寸尾ますおらと夢仏側を結成;江戸雑俳界の中心、「折句集」、1752「鳴沢たかね」66「菊多摺」69「誹諧犬八重垣」81「袖鏡」編、1767丸窓「豆鉄炮」68志夕「世話文殊」69「誹諧犬八重垣」75千百「相合袴あいはいばかま」入[夢仏(;号)の別号]枝桑庵/未熟庵/観翠堂/観葉観堂菊人/二瞳庵/菊四眸きくしぼう
- C4297 無物(むぶつ;号・飯田いだ、名;豊年/別号;桂庵) 1769-1820<sup>52</sup> 武州俳人:素丸2世門、江戸住、1797「誹諧不二門」著
- 無物(むぶつ・岩本) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2  
 無仏庵(むぶつあん) → 幽月庵元越(ゆうげつあんもとこし、鍼医/合巻/狂歌) B 4 6 3 9  
 無仏齋(むぶつさい) → 貞幹(さだもと・藤原/藤、国学/故実家) 2 0 2 7  
 無仏称尊(むぶつしょうそん) → 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7  
 無物亭(むぶつてい・岩下) → 草司(そうじ・岩下いわした、商家/俳人) H 2 5 6 3  
 無仏坊(むぶつぼう) → 幽月庵元越(ゆうげつあんもとこし、鍼医/合巻/狂歌) B 4 6 3 9  
 無不非軒(むふひけん) → 三千風(みちかぜ・三井/大淀、俳人) 4 1 0 3  
 無紛子(むぶんし) → 頼央(よりなか・藤田ふじた、暦算家) J 4 7 2 9  
 無分別軒(むぶんべつけん・長山) → 重行(じゅうこう・長山、藩士/俳人) X 2 1 2 4  
 務平(むべい・小出) → 東郊(とうこう・小出こいで、儒者/詩) D 3 1 7 8  
 郁子園(むべぞの) → 寛光(ひろみつ・片岡/所、名主/国学/歌) H 3 7 4 1  
 無別仙(むべつせん) → 暮来(ぼらい・岡崎おかざき、俳人) E 3 9 7 9  
 野木瓜亭(むべてい) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3  
 郁子舎(むべのや) → 宍夫(しお・尾崎おさき、国学者/歌人) N 2 1 7 2  
 無辺(むへん・内藤) → 丈草(じょうそう・内藤なとう、藩士/俳人) 2 2 2 5  
 無辺(むへん・佐野) → 尚友(しょうゆう・佐野さの、日蓮僧/国学) U 2 2 8 6  
 無辺坊(むへんぼう) → 憲斎(けんさい・中川ながわ、書家) I 1 8 9 4  
 無辺法界俳士(むへんほうかいはいし) → 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2  
 無法(むぼう・黒田) → 一貫(かずつら・黒田、家老/儒者) M 1 5 2 9
- C4298 無睦(むぼく・蔭山かげやま、名;玄端)?-? 江前期大阪の俳人;  
 1673雲愛子(西鶴)「俳諧歌仙画図」入/1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」入、  
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [花のりんりんともたげよ車百合](哥仙;十七右/花の輪りん/凜りんと擡たげよ)
- C4299 無墨(むぼく・長尾ながお、名;渲、藩士宇夫形うぶがた豊久男)?-1894 信州高遠の儒者:父門・中村元起門、1860高遠藩校進徳館助教/1868藩政を批判;追放/長尾に改姓、詩;漁樵吟社設立;子弟教育、「無墨山人百律」「説論要略」「善光寺繁盛記」、  
 [無墨(;号)の通称/別号]通称;平右衛門、別号;冀北きほく/天雁てんがん
- 無木(むぼく) → 斧木(ふぼく、諏訪/飯田、澄月門/歌僧) D 3 8 7 6  
 夢墨(むぼく・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3  
 務本(むほん・阿部) → 重道(しげみち・阿部あべ、藩士/和算家) S 2 1 8 1  
 無本覚心(むほんかくしん) → 心地(しんち;道号・覚心、無本/臨濟僧) 2 2 6 0  
 無品親王(むほんしんのう、新統古今集) → 後崇光院(ごすこういん、歌人) 1 9 3 4  
 無品親王家侍従(むほんしんのうけのじじゅう、檜葉集) → 侍従(じじゅう)
- むま(馬むま/うま) → 馬(うま、歌人;頼忠家歌合参) D 1 2 3 3
- D4240 むましの(;組連) ? - ? 江戸四谷の雑俳の組連、  
 取次;1759「川柳評万句合」入;  
 取次例;[はら立つて出る傘からかさひらき過ぎ](前句;だまし社こそすれ々々)、  
 (だまされて腹立ちまぎれに傘を広げるとおちょこになった)
- 馬長(むまなが・田口) → 馬長(うまおさ・田口朝臣、万葉歌人) 1 2 8 2  
 馬内侍(むまのないし) → 馬内侍(うまのないし、歌人) 1 2 8 8  
 馬命婦(むまのみょうぶ) → 馬命婦(うまのみょうぶ、歌人) D 1 2 3 4

- D4200 **身麻呂**(むまろ/みまろ・若倭部わかやまとべ)?-? 遠江**鹿玉郡**あらたまのこおり出身、755防人主帳丁、万葉廿4322、  
[我が妻はいたく恋ひらし飲む水に影かごさへ見えてよに忘れず](万葉;廿4322)
- D4201 **無満**(むまん・藍沢あいざわ、藤右衛門男)1778or75-186487or90 上州勢多郡上小出村の国学者;行妙門、  
詩文;藤森弘庵門、神道・儒学・仏道・書道に通ず、俳人;無耳庵蓮阿・乙二と交流、書家、  
寺子屋師匠;多くの子弟を教育、前橋藩主に出仕、船津冬翁・天野桑古・幻亜らの師、  
「蓼園文集」「蓼園無満発句集」「蓼園漫書」「小出往来」「こそこのよみ」「二子山考」著、  
「前橋八幡奉額句合」、1846「無満演説俳林句話」著、  
[無満(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;茂造、名;君雄きみお、通称;藤右衛門、  
別号;蓼園/乙満/乙磨おとまる/丑丘居士/東寧/丹丘/赤城樵者/羅庵主人/多伝園
- 無味菴(むみあん) → 常有(つねあり・神田、郷土史家/歌) B 2 9 6 7  
無味庵(むみあん) → 春坡(しゅんぱ・金谷/高橋、商家/俳人) L 2 1 7 4  
無味斎(むみさい) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2
- D4202 **無明**(むみょう;法諱・梅天ばいてん;道号、俗名;須田宅之/通称;弥左衛門)1607-7670 江前期豊後の人、  
多田満仲8世の孫、豊前竜王藩主能見重直の家臣/遊化中の臨濟僧愚堂東寔門;1655出家、  
嗣法/1660京の白河寺の中興開山/ほか諸寺の開山、伊勢慈眼寺没、没後に贈妙心寺第一座、  
「現邪集」「梅天禪師和歌集」、「梅天禪師法語」「梅天無明禪師語録」「十魔記」外著多数
- 無名(むみょう・池野) → 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2  
無名庵(むみょうあん) → 川柳(初世せんにゅう、名主/前句付点者) 2 4 3 9  
無名庵(むみょうあん) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
無名庵(5世むみょうあん) → 雲裡(うんり・渡辺わたなべ、俳人) B 1 2 6 3  
無名庵(7世むみょうあん) → 重厚(じゅうこう・井上・菅原、僧/俳人) H 2 1 3 7  
無名庵(9世むみょうあん) → 斑鳩(はんきゅう・森谷、僧/俳人) H 3 6 3 7  
無名庵(12世むみょうあん) → 礪山(れいざん・寺田てらだ、観月/俳人) 5 1 3 1  
無名庵野翁(むみょうあんのやおう・高津野々翁こうづのやおう) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
無名園(むみょうえん) → 惟時(これとき・平松ひらまつ、国学者) R 1 9 1 9  
無名園(むみょうえん) → 古道(こどう・村井、医/俳人) D 1 9 4 1  
無明園一草(むみょうえんいっそう) → 東郭(とうかく・二宮/鷺見、儒/兵学) C 3 1 1 5  
無名翁(むみょうおう) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8  
無明狂者(むみょうきやうしゃ) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2  
無名子(むみょうし) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8  
無名指叟(むみょうしろう) → 利和(としかず・吉田よしだ、歌人) M 3 1 1 4  
無明道人(むみょうどうじん) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8  
無明坊(むみょうぼう) → 孟遠(もうえん・山本、俳人)
- D4203 **夢々**(むむ) ? - ? 尾張津島の俳人;1689「あら野」2句入、  
[鶯になじみもなきや新屋敷](あら野;巻二)
- 無夢(むむ・一清) → 一清(いっせい・無夢、南北期僧侶) B 1 1 5 2  
夢々庵(むむあん、其阿) → 心阿(しんあ;号・泰道;法諱、時宗僧/俳) N 2 2 2 7  
無々庵水月(むむあんすいげつ) → 戒定(かいじょう・伊藤いとう、浄土僧/歌) T 1 5 5 4  
夢々翁(むむおう) → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3  
無々居士(むむこじ) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5  
無々道人(むむどうじん) → 清丸(きよまる・川合かわい、神職/思想家) T 1 5 9 6  
むめ → むめ(うめ、俳人/雑俳) E 1 2 2 6  
むめ(んめ) → うめ女(梅女うめじよ、俳人) B 1 2 4 9  
むめがへ → 梅枝(うめがえ、俳人) E 1 2 2 5  
無名(むめい・壬生) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6  
無名居(むめいきよ) → 古道(こどう・村井道静、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1  
無名子(むめいし) → 敬首(きやうじゅ;法諱・祖海;字、浄土僧) G 1 6 7 8  
無名子(むめいし) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8  
無名子(むめいし) → 草山(そうざん;道号・祖芳;法諱、臨濟僧) H 2 5 4 5  
無名子(むめいし) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7

- 無名士(むめいし・高野) → 長英(ちやうえい・高野たかの、蘭学者/医者) H 2 8 3 9  
 夢明坊(むめいぼう) → 孟遠(もうえん・山本やまと、俳人) 4 4 4 3
- D4204 無名野夫(むめいやぶ;号) ? - ? 江前期謡曲の評論家、  
 1687「奈良土産謡評判」著(;反駁書に1688「奈良土産返答」(著者不明)がある)  
 无妄(むもう・中野) → 敬斎(けいさい・中野なかの、儒者/医者) F 1 8 6 1
- D4205 無文(むもん・山田やまだ) ? - ? 江前期備後鞆の俳人:立圃/種寛門、  
 1672「備後表」編、1672種寛「続詞友俳諧集」入/79宗臣「詞林金玉集」入
- D4206 無門(むもん;道号・原眞げんしん;法諱、別法諱;義空、俗姓;滝山) 1627-1686 安藝広島  
 の臨濟僧、広島藩士の家の生/幼時の禅林寺の虚櫺了廓門;1633出家/51肥前長崎渡来  
 の道者超元門、1655肥前佐賀藩領主諫早茂真の招聘で水月庵住/近江犬上郡樽崎  
 の高源寺住持、1686京妙心寺内水月院住;没、妙心寺大蔵經奉納願主;1672書写完成、  
 「答客問」著  
 無文(むもん;道号・元選) → 元選(げんせん;法諱・無文、臨濟僧) C 1 8 5 0  
 無文(むもん・野々口) → 立圃(りゅうほ・野々口/雛屋、細工師/俳人) 4 9 1 3  
 無問(むもん;字) → 日詔(にっしょう;法諱・自証院、日蓮僧) E 3 3 2 1  
 無悶子(むもんし・戸田) → 旭山(ぎよくざん・戸田とだ、医者/本草家) O 1 6 9 6  
 無悶子(むもんし) → 窮楽(きゆうらく・亀田かめだ、鍛冶屋/書家) M 1 6 9 5  
 無悶子(むもんし) → 鯨山(げいざん・山崎やまさき、儒者) F 1 8 8 1  
 無夜庵(むやあん) → 玉屑(ぎよくせつ・観応・栗本2世、真言僧/俳人) D 1 6 0 3
- D4207 夢遊(むゆう、俳優堂やくしやど) ?-? 江後期歌伎役者事跡の研究家、  
 1859「役者名山尽」60「役者商売往来」  
 夢遊(むゆう) → 雲櫺(うんれい;道号・泰禅;法諱、曹洞僧) 1 2 9 4  
 夢遊(むゆう・田中) → 秀穂(ひでほ・田中たなか、神職/歌人) K 3 7 0 6
- D4208 無有庵(むゆうあん) ? - ? 江中期俳人;1759「誹諧紫苑草しおんそう」編  
 無有庵(むゆうあん) → 松什(しょうじゅう・鈴木、俳人;1798-1853) S 2 2 9 7  
 無由庵(むゆうあん) → 太初(たいしょ・高こう、俳人) K 2 6 3 2  
 無憂子(むゆうし) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1  
 夢遊道人(むゆうどうじん) → 昌永(まさなが・山村やまむら、藩士/蘭学者) F 4 0 3 4  
 無用(むよう;法諱) → 大用(だいう;道号・無用、臨濟僧) L 2 6 1 6  
 無用(むよう・小林) → 葛古(かっこ・小林こばやし、俳人) C 1 5 4 3  
 無用道人(むようどうじん;号) → 誠拙(せいせつ;道号・周樗;法諱、臨濟僧) C 2 4 4 5  
 無抑(むよく;字) → 覺参(かくさん;法諱・無抑、曹洞僧) J 1 5 8 9
- E4217 むら(・八羽はつば、旧姓;藤卷) 1835-1911 77 伊勢度会郡の内宮権禰宜八羽光謙みつたのの妻、  
 国学/歌人
- D4288 村頭(むらあき・田村たむら、伊達宗賛4男) 1705-55 51 伊予宇和島藩主家の生、  
 1726(享保11)田村誠頭のぶあきの養子/1727養父没;陸奥一関藩主;従五下隠岐守/左京大夫、  
 鷹狩や狩獵を好む、正室;百(田村誠頭3女)、子なく伊達吉村5男の村隆が養子家督嗣、  
 [村頭(;)名)の初名/通称/法号]初名;典頭、通称;喜七郎/弁之助、法号;靈鳳院
- D4267 村雄(むらお・今村いまむら、) 1750-1839 長寿90 摂津兵庫の商家/国学者;寺子屋経営、  
 [村雄(;)名)の別名/通称/屋号]別名;量興(かづおき?)、通称;長右衛門/長兵衛、屋号;今村屋  
 村雄(むらお・桑原/井上) → 婆束(ばそく・桑原、五流斎2世/俳人) E 3 6 7 8  
 村雄(むらお・二階堂) → 藤到(ふじゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌) I 3 8 5 6  
 武羅雄(むらお・下曾根[禰]) → 信敦(のぶあつ・下曾根、幕臣/砲術) 3 5 9 2
- D4209 村岡(むらおか;通称・津崎つさき、名;梅子/矩子のりこ、津崎左京女) 1786-1873 88 父は大覚寺門跡の家臣、  
 1798(13歳)近衛家に出仕;通称;老女村岡局むらおかのつばね、歌人/書家、  
 近衛忠熙の信頼厚く勤王派として活動;西郷隆盛・月照らを助け2度投獄、  
 釈放後は嵯峨直指庵に住、「村岡矩子日記」著、津崎元矩(大覚寺門跡諸大夫)の妹  
 村岡局(むらおかのつばね) → 村岡(むらおか、勤王派歌人) D 4 2 0 9
- D4210 鬘興(むらおき・徳田とくだ) 1738- 1804 67 薩摩藩士/兵法家、甲州流兵学;園田与藤次門、  
 1759江戸で山県大弐門/帰国後合伝流;須藤昌勝門、島津家の旧制軍法を称揚、  
 1774演武館創設に際し兵学講習を希望;不許可;76薩南大島に流罪/87赦免;著述に専念、

- 「武学關鍵」「旧国実話」「孫子一覽」「薩陽武備徼附徳田邕興事歴」「銃陣詳節」外著多数、  
 [邕興(；名)の通称/号]通称；小藤次/彦次郎、号；孫欲軒、法号；孫欲軒利主宝武居士
- D4294 **村風**(むらかぜ・伊達だて、吉村3男) 1715-35早世21 母；側室の於曾恵の方(円球院/鈴木家出身)、  
 陸奥仙台住、伊達右京家3000石を興す；早世で一代で無嗣断絶、和学/歌、  
 [村風(；名)の通称]通称；益之助/右京
- D4211 **村良**(むらかた・むらよし・伊達だて、仙台藩主伊達吉村よしむら男) 1743-8644 陸前登米領主伊達村倫の養子、  
 1752家督嗣；登米領主、甥の藩主伊達重村を補佐、1779「三分一所認齋八十年賀」、  
 1780「山松の梢」著、  
 [村良(；名)の通称/法号]通称；政五郎/式部、法号；護法院
- 村銘(むらかた・青木/伊達)→ 一貫(いっかん/かづつら・青木/伊達、藩主) G 1 1 7 8  
 村賢(むらかた・伊達/土井)→ 利徳(としなり・土井どい/源、藩主/歌人) N 3 1 3 3  
 村勝(むらかた・田村) → 村隆(むらたか・田村/伊達、藩主) 4 2 1 8
- 4211 **村上**(むらかみ・大伴宿禰おとものすくね) ?-? 奈良期廷臣；771従五下肥後介/772阿波守、  
 754民部少丞/71肥後介/72阿波守、752遣唐副使大伴胡麻呂餞宴に参加、  
 754正月大伴家持邸賀宴に参加、万葉四期歌人；1436-37/1493/4263/4299、  
 [含ふめりと言ひし梅が枝今朝降りし沫雪あはゆきにあひて咲きぬらむかも](万葉；1436)  
 (言ひしの主語は坂上郎女かor大伴家持か/含むは蕾がふくらむ意)  
 利上と同一? → 利上(としかみ・大伴) M 3 1 3 0
- 4212 **村上天皇**(むらかみてんのう、名；成明/法名；覚貞、醍醐天皇第14皇子) 926-96742 母；藤原基経女の穩子、  
 朱雀天皇・兼明親王・源高明らの弟、940元服/944立太子/946即位、皇后；藤原師輔女の安子、  
 藤原実頼・師輔を左右大臣にし文治政治；後世[天暦の治]と称せらる、967(康保4)没、  
 冷泉・円融天皇・承子内親王・輔子内親王・選子内親王(大斎院)・規子内親王などの父、  
 琴・笙・琵琶を嗜む/詩歌人、951万葉集訓読/951勅撰集「後撰集」撰進を梨壺五人に命ず、  
 958内裏詩合・960内裏歌合催、文粹入、和漢朗詠集・和漢兼作集・新撰朗詠集など入、  
 「清涼記」「天暦御記」「古詩集」「年中行事」「村上御集」「天暦御製詩草」著、菟玖波5句入、  
 勅撰57首；後撰(1379/1381)拾遺(16首305/309/320以下)新古(10首164/465以下)新勅以下、  
 [教へ置く事たがはずは行末の道遠くとも後あとはまどはじ](後撰集；二十慶賀1379)、  
 (親王で大宰帥の時[18-9歳]に伯父藤原忠平から書物を贈られた際の答歌)
- D4273 **群樹**(むらき・木田余きだまり/本姓；源、) 1685-174056 近江彦根藩士、歌人；[近江歌人伝・鶴]入、  
 [群樹(；名)の初名/通称]初名；定群さだむら、通称；長之丞/兵左衛門
- D4212 **夢羅久**(夢楽むらく；初世・朝寝房あさねぼう、本姓；里見) 1777-183155 江戸麻布の浄瑠璃太夫・落語家、  
 初め江戸麴町の質商伊勢義に奉公/のち芸界に入；浄瑠璃の豊竹宮戸太夫門；戸志太夫名、  
 落語家；1803三遊亭可楽門/烏亭焉馬の三升連/嘶の会に参加；1812烏亭焉馬門に転ず、  
 嘶本；「田舎芝居忠臣蔵」/1808頃「笑ふ門」著、  
 [朝寝房夢羅久(；号)の本名/通称/別号] 本名；里見勝蔵、通称；上総屋新兵衛、  
 俳号；珍重/芸号；豊竹戸志太夫/狂歌；流俗亭珍重/嘶家号；珍蝶亭夢楽、笑語楼夢羅久
- D4213 **夢羅久**(2世むらく・朝寝房、本名；立川金馬) ?-? 落語嘶家；初世烏亭焉馬門/1831襲名  
 夢羅久(3世むらく・朝寝房、1856襲名)→ 可楽(4世からく・三笑亭) F 1 5 9 2
- D4265 **村子**(むらこ・池田いげだ、伊達吉村2女) 1706-174641 江戸の生/備前岡山藩主池田継政の正室、歌人、  
 宗政(藩主)の母、  
 [村子(；名)の別号/号]別名；和姫かずひめ/常姫、法号；心定院
- D4239 **紫**(むらさき；組連) ? - ? 江中期江戸木挽町の雑俳の組連、  
 取次；1737「琴公評万句合」入、  
 取次例；[夕ゆふなべも油が高い鼻か寝よう](万句合/前句；むまいせんさく々々)、  
 (夕なべは夜なべ仕事/夫の誘い文句)
- D4247 **紫珊瑚**(むらさきさんご) ? - ? 江前期の雑俳点者；青木鷺水門、  
 1704「万歳ゑぼし付合大全」編；鷺水序
- 4213 **紫式部**(むらさきしきぶ、名；香子？、藤原為時女) 970-973頃生-1031?62-59? 母；藤原為信女、  
 996父の越前赴任に同道/998帰郷、藤原宣孝と結婚/999賢子けんし(大式三位だいにのさんみ)出産、  
 1002夫と死別、1005?一条天皇中宮彰子の女房、「源氏物語」著、1009-11「紫式部日記」執筆、

彰子が皇后となり少なくとも1019までは出仕、歌人；最晩年に家集「紫式部集」編、  
勅撰62首；後拾遺(10/104/433)千載(9首299/430以下)新古(14首191/204以下)新勅(5首)、  
続後撰(4首)続古今(7首)続拾(3首)玉葉(8首)続千(1864)続後拾(2首)以下、万代集入、  
[紫式部(；女房名)の別称]藤式部、惟規の姉妹/賢子(大式三位)の母、  
[めぐりあひて見しやそれともわかぬ間に雲がくれにし夜半の月かな](新古；1499)、  
☆袋草紙に紫式部の名由来2説入

紫色主(むらさきのいろぬし) → 艶二(えんじ・塩屋しおや、洒落本/狂歌) 1 3 9 8

D4214 紫由加里(むらさきのゆかり・萩原藤十郎)?-? 江戸の狂歌；四方連、小川町住、1785徳和歌後万載；1首入、  
[牡丹なら名にめでしとも見許さめ菊の籬まがきにしまはいかにぞ](後万載；十一739)、  
(菊のませ垣に下部がししするを見て詠む/牡丹に唐獅子・竹に虎・菊に?)

D4215 武良自(むらじ・中臣朝臣なかとみのあそみ)?-? 万葉四期歌人；八1439(春雑歌)、  
中臣系図の正六上尾張掾武良士[広見男、中臣宅守と従兄弟]と同一か？  
[時は今はるになりぬとみ雪降る遠き山辺に霞たなびく](万葉；八春の雑歌1439)

村路(むらじ・置石) → 置石村路(おくいしのむらぢ、狂歌) B 1 4 8 1

4214 村成(むらじげ・伊達だて、亘理領主伊達実氏男)1686-1726<sup>41</sup> 陸前仙台藩士、1712日光廟普請総奉行、  
天流刀術・一宮流居合術を修得；奥義を究める、「伊達村成短冊」著  
[村成(；名)の幼名/通称]幼名；兵力、通称；藤五郎/安房

4215 村女(むらじよ) ? - ? 伊勢?の俳人；雑俳点者、1692菊子「咲やこの花」点入  
4216 群女(むらじよ・並井なみい、別号；呉綾斎ごりょうさい、俳人至席女)?-? 江後期天保1830-44頃大阪雑俳点者、  
：父至席門、1790父没後；呉綾斎を継嗣/父の門弟を率いる、1792「某花集」96「大練諱」編、  
1802父追善「至席十三回忌追善集」編

村次郎(むらじろう・矢部) → 定令(さだり・矢部やべ/原田、幕臣/奉行/歌) P 2 0 6 3

4217 村資(むらすけ・田村たむら/本姓；坂上、伊達村良男)1763-1808<sup>46</sup> 仙台に生/1778藩主伊達重村の猶子、  
1778田村村隆の養嗣子；陸中一関藩主；1782家督嗣、従五下左京大夫、学問所教成館を創設、  
1798致仕、宗徧流茶；水谷義閑門、  
1789「田左久隠御差扣伺之留」/1804「観心院六十賀和歌」著、

[村資(；名)の幼名/通称/号]幼名；保之助、通称；内膳、号；蛭雪庵/馴月庵(じゆんげつあん/不滞庵  
村薄の和泉守(むらすすきのいずものかみ) → 乗岳(のりさと/のりむら・松平、藩主/享保改革推進) E 3 5 5 8

村瀬源三郎(むらせげんざぶろう) → 源三郎(げんざぶろう・村瀬、歌舞伎作者) B 1 8 9 1

4218 村隆(むらたか・田村たむら/本姓；坂上、初名；村勝、伊達吉村男)1737-82<sup>46</sup> 陸前仙台の生、  
1742伊達村倫の養子/1752陸中一関藩主田村村頭むらあきの養嗣子；55遺領継嗣；一関藩主、  
従五下/下総守/右京大夫、1760幕府の勅使馳走役、  
1777建部亮策・大槻玄沢を江戸に遊学させ蘭学を修学させる、  
1750「寛延三年正月八日村勝亭会始」/「九月廿八日当座等」著、村資の養父、  
[村隆(；名)の幼名/通称/法号]幼名；幸五郎、通称；式部/右京、法号；景德院

村隆(むらたか・伊達) → 村候(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7

村竹(むらたけ・園その/窓まどの) → 園村竹(そのむらたけ、狂歌) E 2 5 1 7

4219 村胤(むらたね・伊達だて、通称；助三郎、陸前宮床領主伊達村興男)1707-31<sup>早世</sup><sup>25</sup> 仙台藩士、  
家督を継嗣前に没；弟村茂が嗣、「圭璋集」著、妻；久我通名女の孝姫(のち通子)、  
涌谷の伊達村胤とは別人

D4216 村継(むらつぐ・宮原/「宮部」は誤)?-? 平安初期廷臣；大外記/826外従五下、  
詩；文華秀麗集入(；宮部村継名)、  
[皇猷こうゆう遠く被おびて車書同じく 関路長く開ひらけて古鎮空むなし  
白馬時よりよりに来れど吏の問ふことも無く 東に西に行客こうかく日夜通ふ]、  
(文華秀麗集；下雑詠119/御製「古関に過よきる」に和し奉る)

村継(むらつぐ・片倉) → 鬼子(きし・片倉かくら、邑主/俳人) B 1 6 1 9

村常(むらつね・伊達) → 村望(むらもち・伊達/三沢、領主/詩文) D 4 2 2 2

村任(むらとう・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5

D4217 村候(むらとき・伊達だて、藩主伊達村年の長男)1726-94<sup>70</sup> 母；仙台藩主伊達吉村女の徳子(富子)、  
伊予宇和島藩主；1735襲封/従四下民部大輔/侍従/土佐守、

藩政改革;宗利以来の鬨持制廃止、文部奨励、  
武士心得25か条を提示;殖産興業に尽力、安藤陽洲を招聘;藩校内徳館創設、  
「白痴篇」「伊達秘録」「楽山文庫」著、歌人;「伊達村侯公歌集」、妻;佐賀藩主鍋島宗茂女護姫、  
[村侯(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;伊織、別名;村房/村隆/政徳/政教、  
字;伯昭/時卿、号;天台/楽山/南強、法号;知止院

- D4289 **村年**(むらとし・伊達だて、宗賛3男) 1705-3531 母;側室(宇和島藩士中里家の女)、  
伊予宇和島藩4代藩主/従四下・遠江守、正室;仙台藩主伊達吉村女の徳子のりこ(富子)、  
1728-31享保の風水害など藩内の凶作・大飢饉;藩財政窮乏、藩政改革を計画;  
1735(享保20)参勤交代帰国途中播磨加古川に客死、長男村侯が家督嗣、  
[村年(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;伊勢松、別名;宗貞/貞清、字;伊織、法号;泰雲院
- D4295 **村倫**(むらとも・伊達だて、宗村4男) 1749-76早世28 陸奥遠田郡涌谷邑主伊達村胤の養嗣子;  
1753(宝暦3)養父没;家督嗣/陸奥仙台藩一門第4席涌谷伊達家8代(亙理氏26代)当主、  
藤四郎を村倫と改名/通称;安藝、1763(宝暦13)領内に謀反発覚;計画者を処罰、  
1768(明和5)正室;薫子(謙光院/白石城主片倉村廉女)、1776(安永5)病没  
[村倫(;名)の通称]藤四郎/安藝  
☆登米伊達家の村倫むらりとは別人
- D4246 **村寿**(むらなが・伊達だて、藩主伊達村侯むらとき男) 1763-183674 母;佐賀藩主鍋島宗茂女の護姫、  
伊予宇和島藩主;1794襲封/従四下大膳大夫/遠江守/右近衛権少将、幕命;東海道諸川修復、  
1824致仕/左京大夫と称す、1804「出伊川越一件」著、妻;仙台藩主伊達重村女の助子  
村直(むらなお・伊達) → 大蔵(おおくら・伊達だて、領主) C 1 4 7 9  
村主(むらぬし・大伴、万葉4299) → 村上(むらかみ・大伴) 4 2 1 1
- D4218 **村倫**(むらり/むらとも・伊達だて、村和男) 1715-42早世28 登米伊達家6代当主伊達村永の家督嗣、  
1724(享保9)陸奥仙台藩一門第5席登米伊達家7代当主/登米領主、  
日置流射術;氏家豊寿門/柳生新陰流刀術;丹野了幻門/高麗流八条家馬術;佐伯次芳門、  
正伝流兵術;家臣羽田景道門、歌人、1742(寛保2)没;家督は養子村勝が嗣、  
「詠草」「着到百首」「組台五首」「十五首組台」「道中にて読候詠草」著、  
「助三郎殿依饗応催之二首通題」著、  
[村倫(;名)の通称/号]幼名;中村羊之助、通称;助三郎/近江、号;玄山  
☆涌谷伊達家の村倫むらりとは別人
- D4219 **村英**(むらひで・荒木あき) 1640- 171879 江戸南鍋町の和算家;高原吉種門/のち関孝和門;高弟、  
算術指南、「角中径平中径」「奇角諸数演段」「諸約術」「古事雑話」、「荒木先生茶談」外著多数、  
[村英(;名)の通称]彦四郎  
村房(むらぶさ・伊達) → 吉村(よしむら・伊達だて、藩主/詩歌文) H 4 7 6 1  
村房(むらぶさ・伊達) → 村侯(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7
- D4220 **村文**(むらぶみ・石川いしかわ、村俊男) 1746-180055 陸前伊具郡角田邑主9代目、歌人;「独詠五百首」、  
[村文(;名)の通称]小膳/修理しゅり/大和左衛門  
村麿(むらまる・葛原) → 秀藤(ひでぶし・葛原くずはら、神職/国史) D 3 7 7 7
- C4228 **村盈**(むらみち・北風きたかぜ) ? - ? 摂津兵庫の商家;豪商、歌人、  
1721(享保6)「北風氏奉納和歌集」著/1723刊私撰集「かのこまだら」尚山と共編、  
[村盈(;名)の号]白藤軒
- D4221 **村径**(むらみち・武田たけだ) 1711- 178272 大阪鴻池家の家司、俳人;湖照にほてる門、  
1752「誹諧両大仏」53「春光録」58「四時望」編/59「おくのほそ道鈔」;最古の細道注釈書、  
1775「福力庵句選」76「常盤福多味」著、鬼貫「仏兄七久留万さとえななるま」書写、  
「夕の艸」編、「歎花抄」「花雲雀」「村径発句」「歎花抄」「古今伝授及道統系譜」外著多数、  
[村径(;号)の通称/別号]通称;伴兵衛、別号;五嶺館/福力庵
- D4222 **村望**(むらもち・伊達だて、三沢宗直男) 1697-176569 伊達数馬村隆の養子、養母;伊達綱宗女の清、  
陸中江刺郡の岩谷堂領主;養父を継嗣、詩文に秀づ、1723「雄心院殿奉悼之詩歌並序文」  
[村望(;名)の幼名/初名/通称]幼名;万次郎、初名;村常、  
通称;左兵衛さひょうえ/主殿とのも/下総しもおさ/靱負ゆげい
- D4223 **村盛**(むらもり・坂井さかい、通称;摂津守)?-? 1533存 戦国期武将;尾張織田家家臣/小守護代、清須住、

連歌:1527(大永7年4月2日)宗長・宗牧を迎え熱田神宮滝の坊で何人百韻張行;宗長と親交、  
1533尾張来訪の山科言継と会見

村山古今(むらやまこきん) → 古今新左衛門(こきんしんざえもん・村山、役者/古今節)M1914

D4224 村幸(むらゆき・伊達だて、幼名;辰之輔/通称;式部、村良むらかた2男)1777-1803早世27 村資の弟、  
兄が陸前一関藩田村家を嗣いだため家督の陸前登米領主を嗣ぐ、  
仙台藩主伊達斉村遺言で幼君周宗を補佐、歌人:「詠八景和歌」「詠三十首和歌」「詠草」、  
「詠二十首和歌」「投家僕候詠草」著

村良(むらよし・伊達) → 隆韶(たかつぐ・岩城いわき、藩主/学問/歌)V2672

村良(むらよし・伊達) → 村良(むらかた・むらよし・伊達だて、領主) D4211

村由(武良由むらよし・堀田/伊達) → 正敦(まさあつ・堀田/紀/伊達、藩主/歌)B4015

D4225 村和(むらより・伊達だて/田村、仙台藩主伊達綱宗男)1661-172262 母;三沢清長女の初子、江戸に生、  
水沢領主;1695兄綱村より3万石分与/従五下美作守、1699江戸で家臣が幕府従者と騒動、  
根白石に幽閉;領地を宗家に返還/田村を名乗る、1719赦免/世子村詮は柴田川崎村2千石、  
歌人:「詠十五首和歌」「詠三十首和歌」「着到百首」著、

[村和(;)名)の幼名/別名/通称/号]幼名;鶴千代丸、別名;顕孝あきたか/村任、

通称;織部おべ/将監しょうげん/上野こずげ/左京、入道号;定岳じょうかく、法号;寂照院

夢狸窟(むらくつ) → 丈水(じょうすい・大塚/柏木、俳人) K2216

夢竜(むりゅう・中村) → 水竹(すいちく・中村なかむら、篆刻家) E2385

D4226 無了(むりょう;法諱・浄界じょうかい;字、俗姓;平)1784-185572 美濃池田郡脛永村の真言僧:

1797(14歳)近江長浜妙覚院栄雅門;出家/1801大和長谷寺に修学/11尾張熱田実相院住、

1817長谷寺に再修学/21髪切山鏝慶門;律に入る/27攝津武庫山下に結庵;苦修練行、

1842河辺郡清澄寺住、「萍遊漫草」「三教指帰講録」「即身義智記玄談」著、

[無了浄界の号] 露庵/信天翁、

D4227 無量(むりょう;号・滝たき、名;清/清甫)?-? 江後期文化1804-18頃出雲の儒者、

1816「大学図解」著(;亀田鵬斎・大田錦城が激賞)/17「傷寒論轍義」注、「傷寒論辯名」著

無量(むりょう・野呂) → 天然(てんぜん・野呂のろ、医者) D3098

無量(むりょう・福田) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B2609

無量(むりょう・平沢) → 太奇(太奇たいき・平沢、俳/狂歌) B2619

無量庵(むりょうあん) → 天口(てんこう・無量庵、俳人) D3045

無量庵(むりょうあん) → 海寿(かいじゅう・石雲庵、俳人) I1569

無量院(むりょういん) → 栄周(えいしゅう・木幡こばた、藩儒/歌人) U1309

無量軒(むりょうけん) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3233

無量斎(むりょうさい) → 眞元(しんげん・武田たけだ、暦算家) O2223

無量寿院(むりょうじゅいん) → 堯仁(ぎょうにん;法諱・光教;字、真宗僧)O1643

無量寿院(むりょうじゅいん) → 祐済(ゆうせい;法名、天台僧/連歌) C4693

無量寿院(むりょうじゅいん) → 祐常(ゆうじょう;法諱、天台僧) C4661

無量房(むりょうぼう;号) → 蔵山(ぞうざん;道号・順空;法諱、臨濟僧)K2583

無量坊(むりょうぼう) → 芝柏(之白しはく・根来ねごろ、俳人) F2145

D4228 無倫(むりん・志村しむら)1655 - 172369(一説1717没63) 越後の僧/江戸木材町四丁目住、

俳人;季吟門、1689等躬「葱摺」入、97「帙文夾かみばさみ」編、99調和「洗朱あらいしゅ」入、

1700「とりわけて」評、1700「蒲の穂」編/03「不断桜」編、13「正徳三癸巳無倫撰」、

追善集;一周忌「葉の雫」13回忌「俳諧三の水」(;共に息子倫里りり編)、

[無倫(;)号)の別号/法号]別号;拾葉軒/雪堂、法号;天質硯寿(寿硯)居士

D4229 無倫(むりん;道号・大愚だいう;法諱、俗姓;大塚)1688-174356 羽前米沢大石村の曹洞僧、

1696(9歳)大石村洞雲寺梅円門;出家/江戸増林寺合水普宗門:詩法、1723高円寺住持、

1739上野双林寺住持、「無倫愚和尚語録」著

D4230 無隣(むりん・小倉おぐら、名;三)1690-? 江戸深川の儒者、「牛涎」「天造録」「竜論」、

「天造録」「洗冤録」「太和元文録」「ちぶさの巻」「周易研幾」「修辭立誠」「莊子縁督」外著多数、

[無隣(;)号)の字/通称/別号]字;永世/新甫、通称;三蔵、別号;無邪/無隣

無隣庵主(むりんあんしゅ) → 有朋(ありとも・山県、藩士/内閣組織) F1053

- 無曆庵(むれきあん) → 誉純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3  
 務廉(むれん・福田) → 務廉(ながかど・福田/坂倉、国学・歌) D 3 2 4 7  
 夢楼(むろう) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0  
 無漏庵(むろうあん) → 義敬(ぎけい;法諱、天台僧/歌人) U 1 6 0 8  
 無漏子(むろうし) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8  
 無漏清雷(むろうせいりゅう) → 大有(だいう;道号・有諸;法諱、臨濟僧) L 2 6 1 2  
 無六斎(むろくさい) → 子平(しへい・林/岡村、兵学者/海防) 2 1 3 3  
 D4231 室早咲(むろのはやさき) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」2首入:  
 [物ごとを柳にばかりしてゐれば風の自由にされる世の中](才蔵集)  
 E4232 室丸(むろまる・山野やまの、通称;甚蔵)1792-185766 周防吉敷郡の国学者/歌人;近藤芳樹門  
 夢湾居(むわんきよ) → 俠存(かいぞん;法諱、修験僧/歌人) U 1 5 1 7